

那珂川市学校施設等長寿命化計画

令和 2 年 3 月 策定

令和 6 年 12 月 改訂

那 珂 川 市

目 次

序章 学校施設等の長寿命化計画の背景・目的等

1. 背景と目的	1
2. 計画の位置づけ	2
3. 計画期間	11
4. 計画における対象施設	11

第1章 学校施設等の目指すべき姿

1. 学校施設等の今日的な課題	12
(1) 安全・快適な学校施設の環境向上	12
(2) 児童・生徒の変化に伴う学校の適正化	12
(3) 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充	12
(4) 生活空間としての施設の充実	12
(5) 地域のコミュニティ施設としての活用	13
2. 学校施設等のあり方	14

第2章 学校施設等の実態

1. 学校施設等を取り巻く状況	15
(1) 那珂川市の概況	15
(2) 人口・世帯数の推移	16
(3) 年齢別人口の推移	17
(4) 将来人口	18
(5) 小学校校区別人口・世帯数の推移	19
(6) 財政状況	21
2. 運営状況・活用状況の把握	25
(1) 公共施設全体の保有状況	25
(2) 学校施設の保有状況	26
(3) 児童・生徒数及び学級数の変化	29
(4) 教職員数の推移	33
(5) 学校施設の配置状況	34
(6) 学校の維持管理コスト	37
(7) 学校施設等の実態を踏まえた課題	40
3. 学校施設等の老朽化状況	42
(1) 学校施設等の老朽化状況の把握	42
(2) 学校施設等の老朽化所見	51

第3章 学校施設等整備の基本方針

1. 学校施設の規模・配置計画等の方針	52
(1) 適正配置の方策	52
(2) 配置計画の展望	54
2. 改修等の基本的な方針	55
(1) 長寿命化の方針	55
(2) 予防保全の方針	58
(3) 目標使用年数の設定	59
(4) 改修周期の設定	60

第4章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準

1. 改修等の整備水準	61
2. 維持管理の項目・手法等	63
(1) 維持管理の必要性	63
(2) 維持管理の項目	64
(3) 点検・評価結果の蓄積	66

第5章 長寿命化の実施計画

1. 施設評価及び優先順位	67
(1) 施設評価	67
(2) 改修等の優先順位	67
2. ライフサイクルコストの算定	68
3. 事業計画策定	72
(1) 今後10年間の事業計画	72
(2) 実施単価	73
(3) 事業推進のための財源	74

第6章 長寿命化計画の継続的な運営方針

1. 情報基盤の整備と活用	75
(1) 施設カルテ及び建物目視調査票の作成	75
(2) データベース及び簡易マニュアルの作成	75
(3) データベースの活用	75
2. 推進体制等の整備	76
3. フォローアップ	77

序章 学校施設等の長寿命化計画の背景・目的等

1. 背景と目的

本市の学校施設は、高度経済成長期を契機として昭和 40 年代から 60 年代、平成に入り近年まで整備が行われており、築 30 年以上を経過する建物が全体の 6 割を占めている状態です。

その中で、校舎、屋内運動場等の主要建物の合計 93 棟のうち、36 棟が旧耐震基準である昭和 56 年（1981）以前に建設されたものであったため、これらを対象に耐震診断を行い、校舎は診断結果に基づいた耐震補強工事等を完了しています。

しかし、耐震補強を行った建物を含め、建築から長い年数が経過した建物や設備の老朽化により、今後、建替え又は大規模改修に多額の費用が必要になると考えられます。

しかしながら、厳しい財政状況の中、学校施設の整備を集中的に行うことは困難であり、財政運営に大きな影響を与えることから、計画的な施設整備を行う必要があります。

全国的に同様の傾向が見られる中、文部科学省は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」を公表し、単なる更新のための改修・改築ではなく、施設を長い期間、有効利用できる長寿命化改修への転換、計画的な維持管理に向けた中長期計画の策定・実施の考え方を示しています。

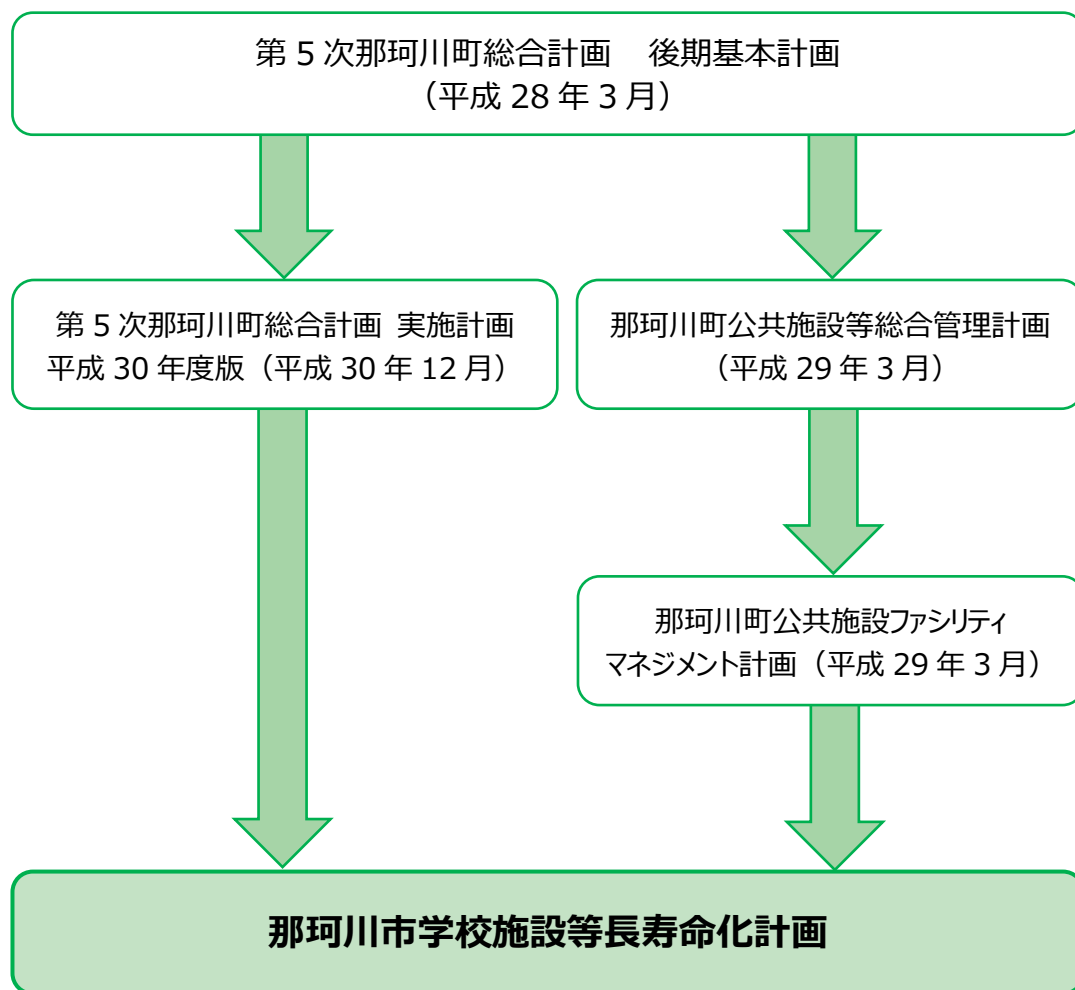
学校施設等長寿命化計画（以下「本計画」という）は、以下の背景を踏まえ、中長期的な視点から学校施設として求められる機能や役割等を考慮しながら長寿命化改修、建替等の方向性や優先順位等を設定し、施設整備に要するライフサイクルコストの縮減、財政負担の平準化、児童生徒の安全性の確保や適正な教育環境の充実を図ることを目的として、策定するものです。

* 学校施設長寿命化計画の背景

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現しつつ、こうした学校施設に求められる機能を確保するため、域内の学校施設の老朽化等の状況を把握し、地域における学校施設の役割等を考慮した上で、長期的な施設整備の具体的方針・計画を示すものである。

2. 計画の位置づけ

本計画は、以下の上位・関連計画を踏まえ、それらの内容との整合を図りながら、多様な機能や役割を充足しつつ、施設整備を計画的に行い、長寿命化を図ることを目的として策定します。次頁で上位計画である「第5次那珂川町総合計画 後期基本計画」「第5次那珂川町総合計画 実施計画」「那珂川町公共施設等総合管理計画」「那珂川町公共施設ファシリティマネジメント計画」について学校施設に関する内容を整理します。



注) 平成30年9月30日以前は那珂川町

第 5 次那珂川町総合計画 後期基本計画	
策定年	平成 28 年 3 月
計画期間	2016 年度～2020 年度
将来人口	2020 年度の人口：50,714 人
町の将来像	自然と人がとけあう 活力あふれるまち なかがわ
施策の大綱	1. 自然との共生を図るまちづくり 2. 人権を尊重し、学び、輝くまちづくり 3. 人と人とのつながり、コミュニティを大切にするまちづくり 4. 生き生き暮らせる健やかなまちづくり 5. 生活基盤の豊かさを実感できるまちづくり
学校施設に関する内容	◆施策の大綱 2. 人権を尊重し、学び、輝くまちづくり 基本施策 3. 豊かなこころを育む 施策の概要 1. 学校教育の推進 【課題】 ・安全かつ快適な施設等の整備が必要です。 小中学校の施設の多くは、老朽化が進んでいることから、児童生徒に安全で快適な学習環境を提供するため、計画的な施設の整備が必要です。 【基本目標】 ④施設の整備・充実 学校は児童生徒が安全に安心して過ごすことのできる学びの場であり、また地域においては防災上の拠点でもあることから、老朽化が進んでいる校舎等の計画的な改修を進めながら、整備・充実を図ります。

第 5 次那珂川町総合計画 実施計画 平成 30 年度版 2019.4～2021.3			
策定年	平成 30 年 12 月		
施策の大綱	1. 自然との共生を図るまちづくり 2. 人権を尊重し、学び、輝くまちづくり 3. 人と人とのつながり、コミュニティを大切にするまちづくり 4. 活き活き暮らせる健やかなまちづくり 5. 生活基盤の豊かさを実感できるまちづくり		
学校施設に関する内容	◆施策の大綱 2. 人権を尊重し、学び、輝くまちづくり 基本施策 3. 豊かなこころを育む 施策の概要 1. 学校教育の推進 【事業の内容】		
	事業名	学校 ICT 教育環境整備事業（小中学校教育用パソコン更新）	
	所属	教育部 教育総務課	
	事業概要	小中学校における教育用（パソコン教室と学習用）パソコン及び周辺機器の更新を行う。	
	実施内容	2019 年度	
		2020 年度	賃貸借（保守点検含む）
		2021 年度	賃貸借（保守点検含む）
	総事業費（～2021 年度）	87,728 千円	
	事業名	小中学校体育館照明 LED 化改修事業	
	所属	教育部 教育総務課	
	事業概要	市立小中学校の体育館及び武道場に設置している照明器具を水銀灯から LED 照明に改修する。	
	実施内容	2019 年度	
		2020 年度	設計・監理／改修工事
		2021 年度	
	総事業費（～2021 年度）	87,769 千円	
	事業名	小中学校プール改修事業	
	所属	教育部 教育総務課	
	事業概要	市立小中学校のプールについて、プール内部の塗装が劣化や水漏れが発生しており、プールの利用に支障をきたすため、改修工事等を実施する。	
	実施内容	2019 年度	設計（片縄小）／設計（安徳北小）
		2020 年度	監理／改修工事（片縄小） 監理／改修工事（安徳北小）
		2021 年度	設計（岩戸北小）
	総事業費（～2021 年度）	220,037 千円	

学校施設に関する内容	事業名	ICT を活用した教育推進事業	
	所属	教育部 学校教育課	
	事業概要	中学校において ICT を活用した教育を推進していくため、タブレットを設置する。	
	実施内容	2019 年度	タブレット端末の活用（リース）
		2020 年度	タブレット端末の活用（リース）
		2021 年度	タブレット端末の活用（リース）
	総事業費 （～2021 年度）	18,407 千円	
	事業名	学校 ICT 教育環境整備事業（電子黒板整備事業）	
	所属	教育部 教育総務課	
	事業概要	ICT 教育環境の更なる充実を図るため、各中学校に電子黒板を 1 台整備し活用する。	
	実施内容	2019 年度	電子黒板及び周辺機器の賃貸借
		2020 年度	電子黒板及び周辺機器の賃貸借
		2021 年度	電子黒板及び周辺機器の賃貸借
	総事業費 （～2021 年度）	1,322 千円	
	事業名	片縄小学校給食室増改築事業	
	所属	教育部 教育総務課	
	事業概要	給食室の老朽化に伴い、安全な学校給食の運営のため、給食調理施設のドライシステム化を図るため工事を行う。	
	実施内容	2019 年度	
		2020 年度	実施設計
		2021 年度	監理／増改築工事
	総事業費 （～2021 年度）	177,959 千円	
	事業名	南畑小学校給食室増改築事業	
	所属	教育部 教育総務課	
	事業概要	給食室の老朽化に伴い、衛生環境の改善及び作業の効率化を図るため、ウェットシステムである調理施設のドライシステム化を行うとともに、普通教室のある 2 階に配膳室がないため、衛生面に配慮し併せて整備を行う。	
	実施内容	2019 年度	確認申請
		2020 年度	設計監理／増改築工事
		2021 年度	
	総事業費 （～2021 年度）	192,450 千円	

学校施設に関する内容	事業名		南畑小学校長寿命化改良事業
	所属		教育部 教育総務課
	事業概要		建築後 50 年以上が経過し、老朽化した南畑小学校校舎の長寿命化改良工事を実施する。
	実施内容	2019 年度	
		2020 年度	
		2021 年度	実施設計（第 1 期）
	総事業費（～2021 年度）		4,800 千円
	事業名		体育館床改修事業
	所属		教育部 教育総務課
	事業概要		南畑小学校体育館の老朽化に伴う床面の板剥がれや、板間の隙間が多くなっていることから、床面の改修工事を行う。
	実施内容	2019 年度	南畑小学校体育館床改修工事
		2020 年度	
		2021 年度	
	総事業費（～2021 年度）		2,988 千円
	事業名		小中学校エレベーター設置事業
	所属		教育部 教育総務課
	事業概要		小中学校における施設のバリアフリー化を図るため、エレベーターの設置工事を行う。
	実施内容	2019 年度	設計・監理／設置（安徳南小）工事
		2020 年度	設計・監理／設置（片縄小）工事
		2021 年度	
	総事業費（～2021 年度）		139,278 千円
	事業名		那珂川中学校長寿命化改良事業
	所属		教育部 教育総務課
	事業概要		生徒に安全かつ充実した教育環境を提供するため、建築後 46 年以上が経過した施設の老朽化が著しい那珂川中学校の長寿命化改良工事を行う。
	実施内容	2019 年度	第 2 期工事（長寿命化改良）／監理（第 2 期） ／実施設計（第 3 期）
		2020 年度	第 3 期工事（長寿命化改良）／監理（第 3 期）
		2021 年度	
	総事業費（～2021 年度）		1,351,585 千円

学校施設に関する内容	事業名	那珂川南中学校長寿命化改良事業	
	所属	教育部 教育総務課	
	事業概要	生徒に安全かつ充実した教育環境を提供するため、建築後 39 年以上が経過した施設の老朽化が著しい那珂川南中学校の長寿命化改良工事を実施する。	
	実施内容	2019 年度	基本設計
		2020 年度	実施設計（第 1 期）
		2021 年度	第 1 期工事（長寿命化改良）／監理（第 1 期） ／実施設計（第 2 期）
	総事業費 （～2021 年度）	637,348 千円	

那珂川町公共施設等総合管理計画																																																												
策定年	平成 29 年 3 月																																																											
計画期間	2017 年度（平成 29 年度）～2056 年度																																																											
全体目標	【公共施設（建築物）】 (1) 既存施設の有効利用 (2) 施設の更新（建替）の場合の複合化 (3) 施設総量（総床面積）の縮減 (4) 40 年間での更新費用の圧縮																																																											
公共施設等の現況	本町が保有する 94 施設は全 285 棟、総延床面積は 114,048 ㎡。 「学校教育系施設」は 10 施設、99 棟、延床面積 64,465 ㎡、延床割合 56.5% と、棟数及び延床面積では他自治体と同様に圧倒的に多い。																																																											
公共施設等の保有状況（学校教育系施設）	<table><tr><th>施設名</th><th>複合区分</th><th>代表建築年度</th><th>延床面積（㎡）</th><th>代表構造</th></tr><tr><td>南畑小学校</td><td>併設</td><td>1970</td><td>3,417.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>岩戸小学校</td><td>併設</td><td>1966</td><td>4,035.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>岩戸北小学校</td><td>併設</td><td>1975</td><td>6,878.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>片縄小学校</td><td>併設</td><td>1983</td><td>5,483.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>安德小学校</td><td>併設</td><td>1978</td><td>5,628.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>安德北小学校</td><td>併設</td><td>1975</td><td>6,439.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>安德南小学校</td><td>併設</td><td>1995</td><td>6,742.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>那珂川北中学校</td><td>併設</td><td>2003</td><td>10,119.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>那珂川中学校</td><td>併設</td><td>1966</td><td>8,439.0</td><td>RC</td></tr><tr><td>那珂川南中学校</td><td>併設</td><td>1979</td><td>7,285.0</td><td>RC</td></tr></table>					施設名	複合区分	代表建築年度	延床面積（㎡）	代表構造	南畑小学校	併設	1970	3,417.0	RC	岩戸小学校	併設	1966	4,035.0	RC	岩戸北小学校	併設	1975	6,878.0	RC	片縄小学校	併設	1983	5,483.0	RC	安德小学校	併設	1978	5,628.0	RC	安德北小学校	併設	1975	6,439.0	RC	安德南小学校	併設	1995	6,742.0	RC	那珂川北中学校	併設	2003	10,119.0	RC	那珂川中学校	併設	1966	8,439.0	RC	那珂川南中学校	併設	1979	7,285.0	RC
施設名	複合区分	代表建築年度	延床面積（㎡）	代表構造																																																								
南畑小学校	併設	1970	3,417.0	RC																																																								
岩戸小学校	併設	1966	4,035.0	RC																																																								
岩戸北小学校	併設	1975	6,878.0	RC																																																								
片縄小学校	併設	1983	5,483.0	RC																																																								
安德小学校	併設	1978	5,628.0	RC																																																								
安德北小学校	併設	1975	6,439.0	RC																																																								
安德南小学校	併設	1995	6,742.0	RC																																																								
那珂川北中学校	併設	2003	10,119.0	RC																																																								
那珂川中学校	併設	1966	8,439.0	RC																																																								
那珂川南中学校	併設	1979	7,285.0	RC																																																								
学校施設に関する内容	第 2 章 公共施設等の実態 4 用途別の施設等の現況 (5) 学校教育系施設 【概要】 町内には小学校 7 校、中学校 3 校ある。校舎は 1981 年（昭和 56 年以前）の旧耐震の建築物のものが多くあるが、文部科学省による学校施設の耐震化の推進に沿って、耐震化が必要な建物への対応は全て完了している。 【課題等】 全校共通 施設の老朽化により、雨漏りや天井・壁・床の汚損、電気・機械等の設備の故障や不具合等学習環境を維持していくうえで支障が生じており、多大な修繕費が必要となっている。また、古い給食室の一部は、本来ウエット式である床において、ドライ状態での運用しかできなくなっている等、衛生的な問題も生じている。 全国の学校施設も同様に老朽化が進んでいることから、国からの補助金の採択条件も厳しくなっており、本町においても施設の改修時期が集中すると財政運営に支障を及ぼす懸念がある。																																																											

学校施設に関する内容

第 4 章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針

2 保有施設の簡易評価

(5) 整備方針からみた配置状況

【整備方針一覧】

施設名称	所管	利用	延床面積	経年	評価
南畑小学校	教育文化	特定	3,417 m ²	36 年	維持保全
岩戸小学校	教育文化	特定	4,706 m ²	39 年	維持保全
岩戸北小学校	教育文化	特定	6,878 m ²	38 年	維持保全
片縄小学校	教育文化	特定	5,483 m ²	30 年	維持保全
安德小学校	教育文化	特定	5,601 m ²	31 年	維持保全
安德北小学校	教育文化	特定	6,451 m ²	31 年	維持保全
安德南小学校	教育文化	特定	6,759 m ²	18 年	維持保全
那珂川北中学校	教育文化	特定	10,119 m ²	12 年	維持保全
那珂川中学校	教育文化	特定	8,439 m ²	31 年	維持保全
那珂川南中学校	教育文化	特定	7,285 m ²	34 年	維持保全

那珂川町公共施設ファシリティマネジメント計画											
策定年	平成 29 年 3 月										
計画期間	2017 年度（平成 29 年度）～2056 年度										
マネジメントの実施方針	【長寿命化】 安全性が確保され、コストの縮減が見込める場合は、耐用年数期間内に公共施設及び公共インフラの長寿命化を図る改修を実施することにより、更新時期の延長、財政負担の軽減と平準化を図る。 【費用の縮減】 従来の機能や利便性を維持しながら、改修、更新、維持管理費用の縮減を図る。 【予防保全】 日常的な点検、劣化診断等に基づき、改修、更新の優先度を設定するとともに、適切な時期に修繕、改修等を実施し、公共施設及び公共インフラの安全性を確保する。										
学校施設に関する内容	第 5 章 類型別マネジメント計画 1 類型別対象施設のマネジメント方針 ⑤ 学校教育系施設（小学校・中学校等） <table border="1"> <tr> <td>対 象 施 設</td><td> 【広域施設】：該当無 【町域施設】：該当無 【学校区域施設】：南畑小・岩戸小・岩戸北小・片縄小・安徳小・安徳北小・安徳南小・那珂川北中・那珂川中・那珂川南中 【自治会等区域】：該当無 </td></tr> <tr> <td>施 設 の 状 況</td><td>町内には小学校 7 校、中学校 3 校ある。校舎は 1981 年（昭和 56 年以前）の旧耐震の建築物のものが多くあるが、文部科学省による学校施設の耐震化の推進に沿って、耐震化が必要な建物への対応は全て完了している。</td></tr> <tr> <td>課 題</td><td> 施設の老朽化により、雨漏りや天井・壁・床の汚損、電気・機械等の設備の故障や不具合等学習環境を維持していくうえで支障が生じており、多大な修繕費が必要となっている。また、古い給食室の一部は、本来ウエット式である床において、ドライ状態での運用しかできなくなっている等、衛生的な問題も生じている。 全国の学校施設も同様に老朽化が進んでいることから、国からの補助金の採択条件も厳しくなっており、本町においても施設の改修時期が集中すると財政運営に支障を及ぼす懸念がある。 </td></tr> <tr> <td>将 来 的 な 展 望</td><td> ・岩戸小学校 平成 29 年度で大規模改修が完了する予定である。 ・全ての校舎及び屋内運動場 建築年度や過去の大規模改造を踏まえて、築 40 年以降に長寿命化改修工事を計画する。 平成 30 年度～那珂川中学校 平成 31 年度～南畑小学校 平成 33 年度～那珂川南中学校 ・文部科学省の学校給食衛生管理基準において、給食室に衛生管理に優れたドライシステムを導入するように定められており、食の安全性を確保するためにも未導入校についての整備を図る。 導入済 岩戸北小、安徳北小、安徳小 施工中 岩戸小 未導入 安徳南小（平成 29 年度予定）、南畑小（平成 30 年度予定）、片縄小（平成 31 年度予定） </td></tr> <tr> <td>マ ネ ジ メ ン ト 方 針</td><td>B：個別計画策定</td></tr> </table>	対 象 施 設	【広域施設】：該当無 【町域施設】：該当無 【学校区域施設】：南畑小・岩戸小・岩戸北小・片縄小・安徳小・安徳北小・安徳南小・那珂川北中・那珂川中・那珂川南中 【自治会等区域】：該当無	施 設 の 状 況	町内には小学校 7 校、中学校 3 校ある。校舎は 1981 年（昭和 56 年以前）の旧耐震の建築物のものが多くあるが、文部科学省による学校施設の耐震化の推進に沿って、耐震化が必要な建物への対応は全て完了している。	課 題	施設の老朽化により、雨漏りや天井・壁・床の汚損、電気・機械等の設備の故障や不具合等学習環境を維持していくうえで支障が生じており、多大な修繕費が必要となっている。また、古い給食室の一部は、本来ウエット式である床において、ドライ状態での運用しかできなくなっている等、衛生的な問題も生じている。 全国の学校施設も同様に老朽化が進んでいることから、国からの補助金の採択条件も厳しくなっており、本町においても施設の改修時期が集中すると財政運営に支障を及ぼす懸念がある。	将 来 的 な 展 望	・岩戸小学校 平成 29 年度で大規模改修が完了する予定である。 ・全ての校舎及び屋内運動場 建築年度や過去の大規模改造を踏まえて、築 40 年以降に長寿命化改修工事を計画する。 平成 30 年度～那珂川中学校 平成 31 年度～南畑小学校 平成 33 年度～那珂川南中学校 ・文部科学省の学校給食衛生管理基準において、給食室に衛生管理に優れたドライシステムを導入するように定められており、食の安全性を確保するためにも未導入校についての整備を図る。 導入済 岩戸北小、安徳北小、安徳小 施工中 岩戸小 未導入 安徳南小（平成 29 年度予定）、南畑小（平成 30 年度予定）、片縄小（平成 31 年度予定）	マ ネ ジ メ ン ト 方 針	B：個別計画策定
対 象 施 設	【広域施設】：該当無 【町域施設】：該当無 【学校区域施設】：南畑小・岩戸小・岩戸北小・片縄小・安徳小・安徳北小・安徳南小・那珂川北中・那珂川中・那珂川南中 【自治会等区域】：該当無										
施 設 の 状 況	町内には小学校 7 校、中学校 3 校ある。校舎は 1981 年（昭和 56 年以前）の旧耐震の建築物のものが多くあるが、文部科学省による学校施設の耐震化の推進に沿って、耐震化が必要な建物への対応は全て完了している。										
課 題	施設の老朽化により、雨漏りや天井・壁・床の汚損、電気・機械等の設備の故障や不具合等学習環境を維持していくうえで支障が生じており、多大な修繕費が必要となっている。また、古い給食室の一部は、本来ウエット式である床において、ドライ状態での運用しかできなくなっている等、衛生的な問題も生じている。 全国の学校施設も同様に老朽化が進んでいることから、国からの補助金の採択条件も厳しくなっており、本町においても施設の改修時期が集中すると財政運営に支障を及ぼす懸念がある。										
将 来 的 な 展 望	・岩戸小学校 平成 29 年度で大規模改修が完了する予定である。 ・全ての校舎及び屋内運動場 建築年度や過去の大規模改造を踏まえて、築 40 年以降に長寿命化改修工事を計画する。 平成 30 年度～那珂川中学校 平成 31 年度～南畑小学校 平成 33 年度～那珂川南中学校 ・文部科学省の学校給食衛生管理基準において、給食室に衛生管理に優れたドライシステムを導入するように定められており、食の安全性を確保するためにも未導入校についての整備を図る。 導入済 岩戸北小、安徳北小、安徳小 施工中 岩戸小 未導入 安徳南小（平成 29 年度予定）、南畑小（平成 30 年度予定）、片縄小（平成 31 年度予定）										
マ ネ ジ メ ン ト 方 針	B：個別計画策定										

3. 計画期間

本計画の計画期間は、那珂川市公共施設等総合管理計画で設定されている 40 年間を見据えた上で、今後 10 年間の事業計画を策定するものとします。

ただし、法改正等の社会的要求水準の変化を受けて、状況が変化する場合があるため、5 年～10 年を目途に計画の見直しを行います。

4. 計画における対象施設

本計画における対象施設は、下表に示す小学校 7 校、中学校 3 校とします。

表：対象施設一覧

区分	施設名	所在地	延床面積 (㎡)	対象建物※
小学校	安德小学校	松木2丁目134番地	5,569	9
	南畑小学校	大字埋金530番地1	3,407	7
	岩戸小学校	西隈2丁目6番地43号	5,566	5
	岩戸北小学校	恵子1丁目1番地1	6,784	17
	安德北小学校	五郎丸1丁目11番地	6,367	8
	片縄小学校	片縄北1丁目15番1号	5,451	8
	安德南小学校	上梶原1丁目1番1号	6,756	8
中学校	那珂川中学校	仲3丁目19番1号	8,483	10
	那珂川南中学校	上梶原1丁目2番1号	7,870	13
	那珂川北中学校	片縄西3丁目26番1号	9,991	8

資料：令和元年度 那珂川市公立学校施設台帳

※延床面積 200 ㎡以上（主施設は 200 ㎡以下でも対象）

第 1 章 学校施設等の目指すべき姿

1. 学校施設等の今日的な課題

本市の教育行政において、人口減少や超高齢社会の到来、情報通信技術の発展、グローバル化の進展等、社会情勢が急激に変化する中、次のような多くの課題があります。

(1) 安全・快適な学校施設の環境向上

本市の学校施設の耐震化は完了していますが、建築年度が古く老朽化した校舎等が残されているため、修繕等を必要とする箇所が多くなってきているのが現状です。建物の改修を計画的に進め、児童・生徒が安全かつ快適に学ぶことができる教育環境の充実を図ることが必要です。

また、習熟度別指導や少人数指導、特別支援教育等、児童・生徒一人ひとりの教育的なニーズに応えることができる施設整備が求められています。

(2) 児童・生徒の変化に伴う学校の適正化

本市の児童・生徒数は、少子化の進行により減少傾向にあります。また、人口の集中により、市の北部に小学校が偏った配置となっています。学校教育においては、児童・生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め、協力し合い、切磋琢磨することで一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが重要とされており、一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられています。一方で、小規模校としてのメリットもあり、学校は地域コミュニティの核としての役割や機能を持つ等、地域の実情により学校の在り方は異なることがあり、「適正な学校規模」を一概に判断することは難しい点もあります。

このことから、少子化や人口集中に対応した活力ある学校づくりの方策を継続的に検討・実施していくことが求められており、小規模校や大規模校のデメリットを克服しつつ、児童・生徒にとって望ましい学校規模について、保護者や地域と一体となって検討していく必要があります。

(3) 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充

グローバル化の進展等により、社会全体が急速に変化していく中で、情報化社会に対応したデジタル教材の活用や情報教育を推進するための I C T 環境の充実、社会状況の変化や多様な学習活動に対応した教材の整備等を計画的に行い、児童・生徒の学習能力の向上のための教育環境の充実を図っていく必要があります。

(4) 生活空間としての施設の充実

児童・生徒が 1 日の大半の時間を過ごす学校施設は、教育の場であるのみならず、生活の場として、充実した学校生活を過ごすことができる豊かで潤いのある空間としていくことが重要です。そのためには、学習の場としての整備だけでなく交流の場の確保等、多様な空間を整備することが必要です。

さらに、安全に施設が利用できるようバリアフリー化や、不審者等に対する防犯対策を進めるとともに、トイレの設備等の衛生的な環境整備を図る必要があります。

(5) 地域コミュニティ施設としての活用

小中学校は、学校と地域との連携による多様な交流の場として活用されています。また、災害時等の避難場所にも指定されています。このように、地域コミュニティ施設としての多様な機能に対応できる施設や設備の整備が必要です。

表：那珂川市 指定避難所及び指定緊急避難場所一覧（学校施設）

学 校 名 (■：指定緊急避難場所、●：指定避難所)			所在地	電話番号
■	●	安德小学校	松木2-134	952-2122
■	●	南畑小学校（多目的教室）	埋金530-1	952-2007
	●	岩戸小学校	西隈2-6-43	952-2108
■	●	岩戸北小学校	恵子1-1-1	952-4883
■	●	安德北小学校	五郎丸1-11	952-4899
■	●	片縄小学校	片縄北1-15-1	952-7056
■	●	安德南小学校	上梶原1-1-1	953-6218
	●	那珂川中学校	仲3-19-1	952-2111
■	●	那珂川南中学校	上梶原1-2-1	952-7915
■	●	那珂川北中学校	片縄西3-26-1	953-7887

資料：那珂川市地域防災計画 資料編

2. 学校施設等のあり方

本計画の方針を定めるにあたり、次のような環境や空間等が整備された学校施設を目指します。

安 全 性

- 地震、台風、大雨等に強い学校施設（非構造部材の耐震補強、照明器具等の落下防止措置）
- 防犯に対応した学校施設（防犯ブザーの配布や地域との連携等）
- 安全で安心して生活できる環境（老朽化対策の推進、通学路の整備）

快 適 性

- 授業に集中でき、学習効率向上に資する快適な学習環境（エアコンの設置、遮音・吸音性能への配慮）
- バリアフリーに配慮した環境（段差の解消、バリアフリースイッチの設置 等）
- 児童・生徒の健康や衛生面に配慮した環境（トイレの洋式化、手洗いの自動水洗化、適正な照度の確保 等）
- 児童・生徒の交流を促す等、生活の場として快適に過ごすことができる環境（多目的室、ミーティング室、児童クラブ等の環境整備 等）
- 教職員が快適に働ける環境（職員室の環境整備）
- 授業の充実に資する設備や機材等の整備（学校備品、教材備品の整備）
- 教職員等の事務の効率化を高められる I C T 環境（パソコン等の整備）
- 省エネルギーに配慮した施設の整備（自然光の利用、特別教室の効率的な利用）

学習活動への適応性

- 個別指導や習熟度別指導等多様な学習形態を展開するための環境（少人数教室、多目的室の環境整備 等）
- 学習効果を高められる教材等の整備、情報教育に対応した I C T 環境（教材備品、パソコン等の整備 等）
- 児童・生徒の自発的な学習や読書活動を促すための環境（特別教室、図書室等の整備）
- 社会性を身につけるための空間（多学年間の学習環境、遊具施設の整備）
- 特別支援教育に配慮した学校施設（特別支援教室の環境整備）
- 進路指導や相談等、児童・生徒の支援・指導に取り組みやすい空間（キャリア教育の推進、進路指導室や相談室の整備）
- 充実した運動ができる環境（屋内運動場、校庭の整備）

環境への適応性

- 環境を考慮した学校施設（太陽光発電、省エネルギー・省資源、自然共生、木材利用）

地域の拠点化

- 地域住民が健康づくりや学習拠点等に活用できる開かれた環境（屋内運動場、校庭、特別教室等の開放）
- 放課後の児童の居場所がある施設（空き教室等の活用）
- 避難所としての機能を有する施設（トイレの洋式化、バリアフリー環境の整備）

第2章 学校施設等の実態

1. 学校施設等を取り巻く状況

(1) 那珂川市の概況

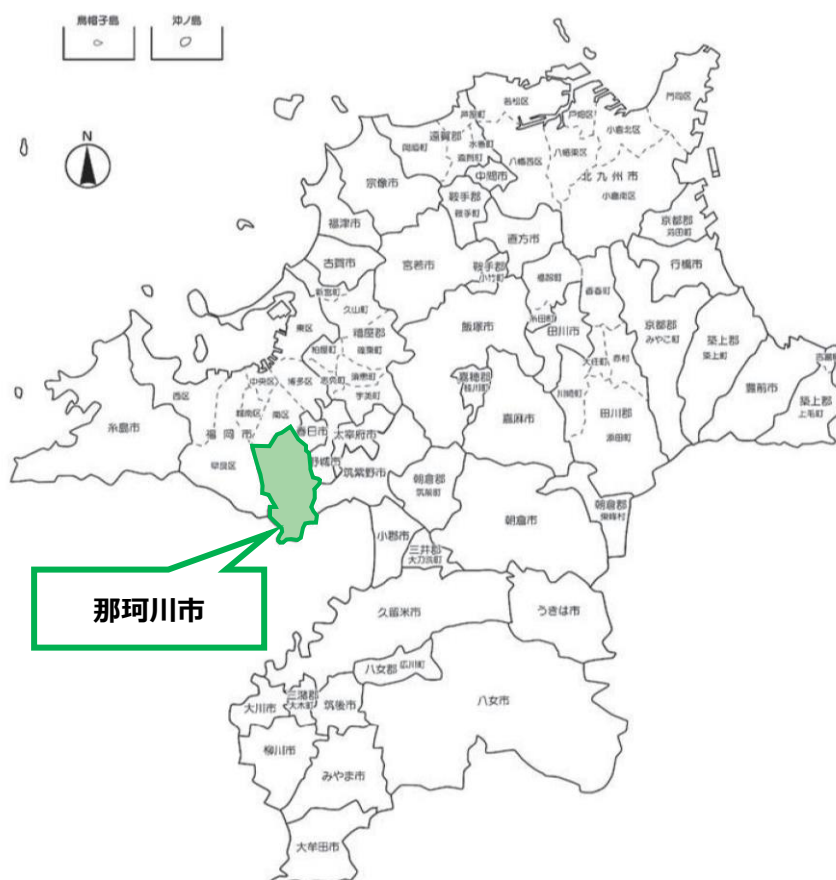
① 市の概要

本市は、福岡県の西部にあって大都市福岡市の都心部からわずか13kmのところに位置し、東部は春日市、大野城市、筑紫野市と、南部は佐賀県、北部・西部は福岡市に接し、南部は三方を脊振連山に囲まれ、ここに源を発する那珂川が市の中央を南北に貫流し博多湾に注いでいます。

② 市の沿革

明治22年（1889年）4月30日、町村制の施行によって南畑村、岩戸村、安徳村の三村が誕生し、昭和31年（1956年）4月1日に市町村合併促進法に基づいて、この三村が合併して筑紫郡那珂川町が誕生しました。

那珂川町発足当時の人口は8,948人でしたが、恵まれた自然環境や福岡市の都心部から至近の距離にあること等から人口は増加していき、町誕生から62年後の平成30年（2018年）10月1日に筑紫郡那珂川町は、那珂川市となりました。



図：福岡県における本市の位置

(2) 人口・世帯数の推移

本市の人口は増加傾向にあり、平成 27 年の国勢調査時点で 50,004 人となっており、昭和 60 年から平成 27 年までの 30 年間で、約 20,000 人増加しています。

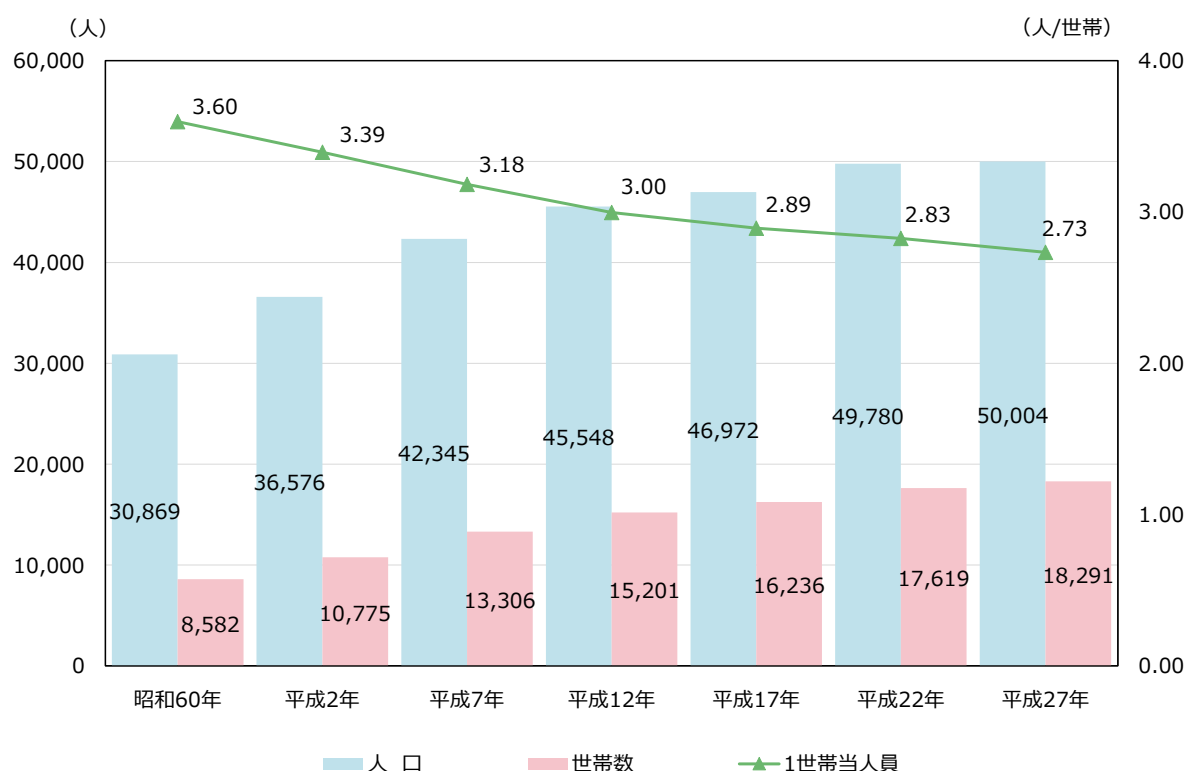
世帯数も増加傾向にあり、平成 27 年の国勢調査時点で 18,291 世帯となっており、30 年間で約 10,000 世帯増加しています。

世帯当たり人員は年々少なくなっており、平成 27 年の国勢調査では、1 世帯当たり 2.73 人となっています。

表：人口・世帯数の推移

単位：人、世帯

那珂川市	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人 口	30,869	36,576	42,345	45,548	46,972	49,780	50,004
世帯数	8,582	10,775	13,306	15,201	16,236	17,619	18,291
1世帯当人員	3.60	3.39	3.18	3.00	2.89	2.83	2.73



図：人口・世帯数の推移

資料：国勢調査

(3) 年齢別人口の推移

年齢 3 区分別人口の推移をみると、15 歳未満人口は平成 7 年までは増加傾向にあったが、平成 12 年からは減少傾向に転化しており、人口に占める比率も 1 割減少となっています。

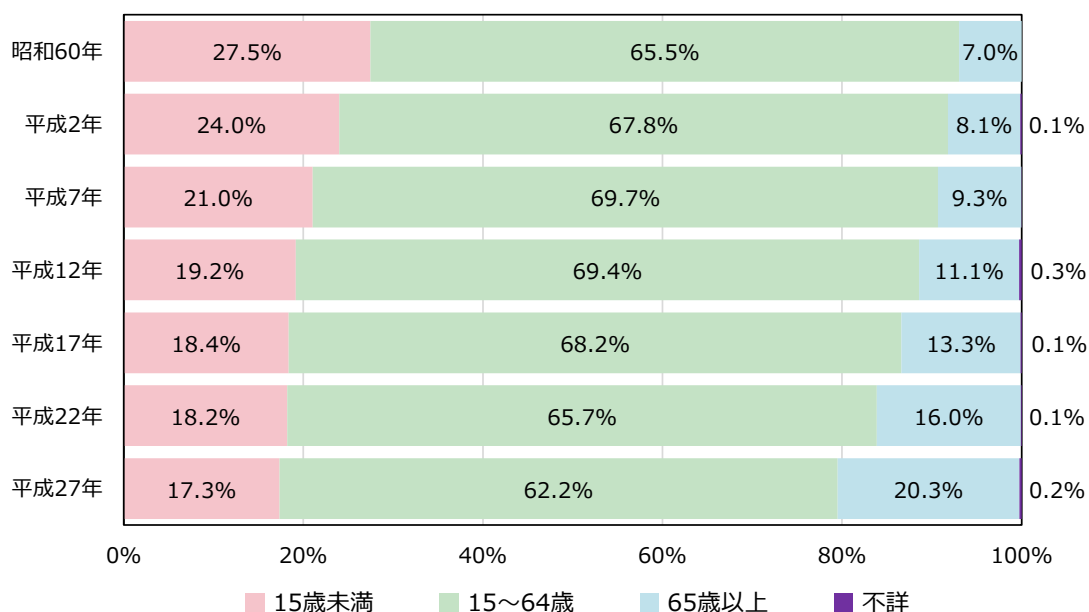
一方、65 歳以上人口は、昭和 60 年の 2,153 人から平成 27 年には 10,129 人へと増加し、2 割の人口比率となっています。

年齢別人口割合の推移をみると、65 歳以上人口の割合は年々増加し、ついに平成 27 年時点で 15 歳未満人口比を上回り、少子高齢化が進みつつあります。

表：年齢別人口の推移

単位：人

年齢別	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
15歳未満	8,484	8,777	8,906	8,727	8,630	9,057	8,669
15～64歳	20,232	24,802	29,500	31,627	32,057	32,702	31,085
65歳以上	2,153	2,945	3,930	5,070	6,235	7,973	10,129
不詳	0	52	9	124	50	48	121



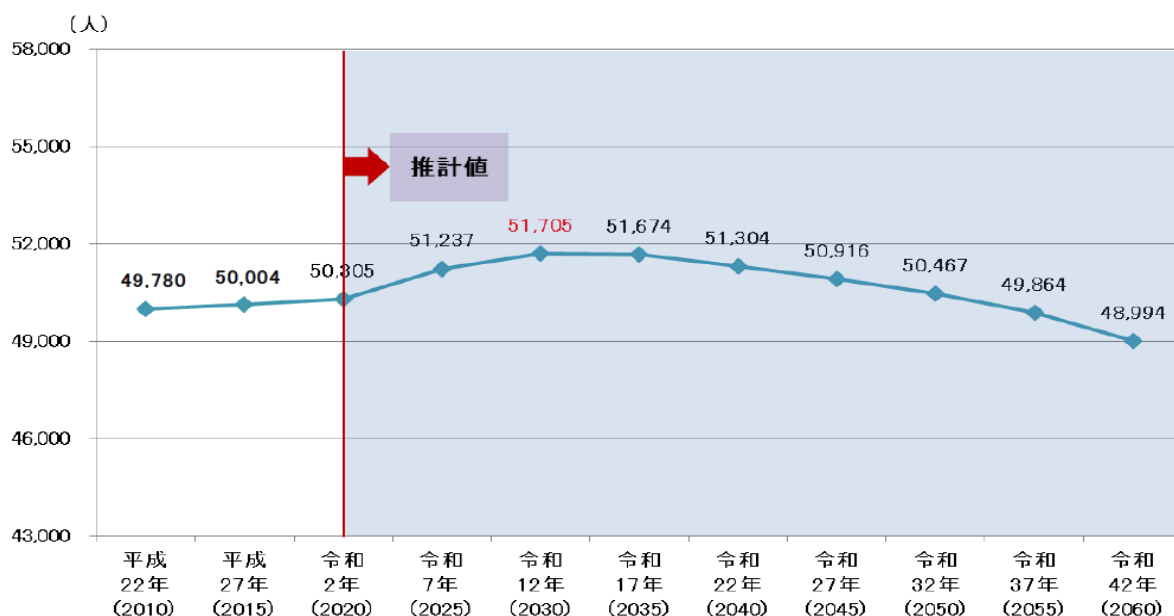
図：年齢別人口の割合の推移

資料：国勢調査

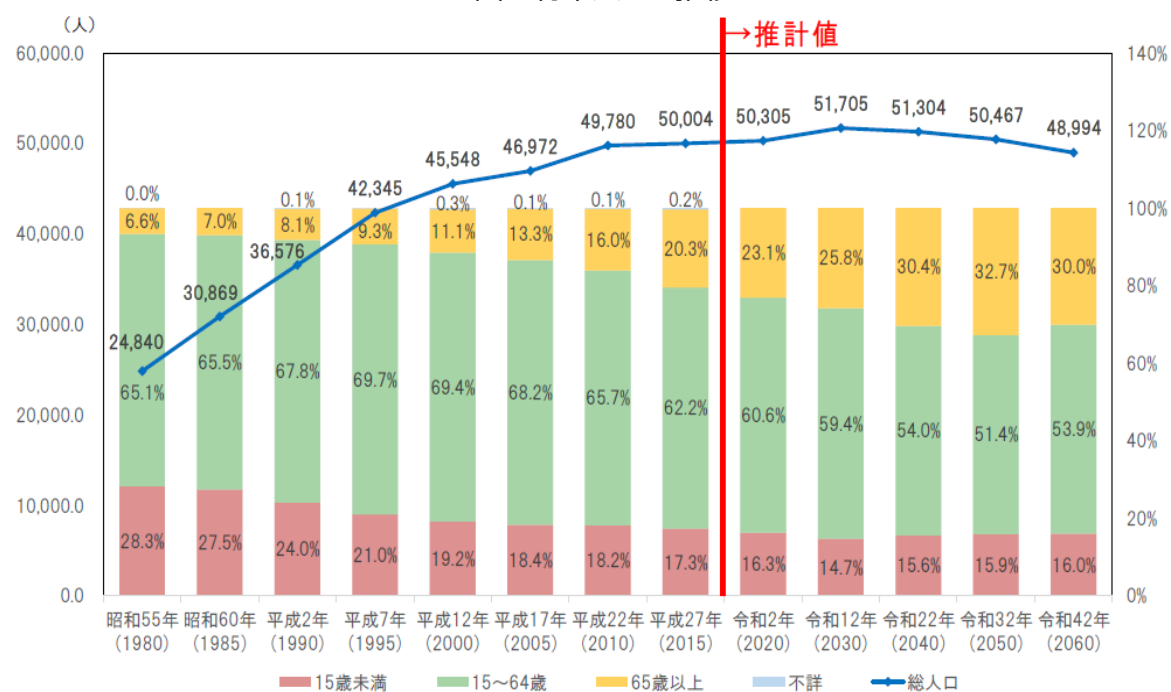
(4) 将来人口

本市では、令和 2 年 3 月に策定された「第 2 期那珂川市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」において、将来人口の予測をしています。

今後 10 年間は増加傾向が続き、令和 12 年にピークの 51,705 人を迎えた後、令和 17 年には 51,674 人と減少に転ずることが予測されています。



図：将来人口の推移



図：年齢区分別将来人口の割合

出典：平成 27 年以前データ国勢調査

令和 2 年以降データは「第 2 期那珂川市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」

(5) 小学校校区別人口・世帯数の推移

本市の小学校校区別に平成 17 年から平成 27 年までの人口の推移をみると、全体的には増加傾向にあります。小学校校区別でみると、最も減少しているのは「安徳小学校区」で 37.1%となっており、最も増加しているのは「安徳南小学校区」で 79.8%となっています。

また、世帯数も増加傾向にあり、最も減少しているのは人口と同様に「安徳小学校区」で 33.4%、最も増加しているのは「安徳南小学校区」で 95.8%となっています。

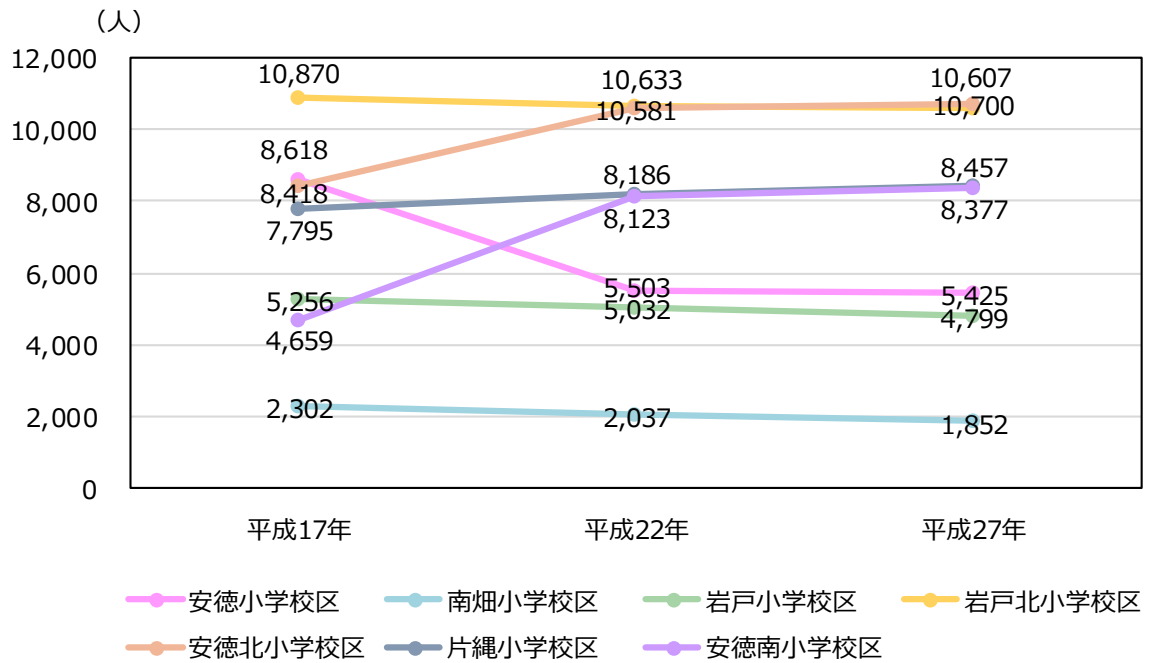
表：小学校校区別人口・世帯数の推移

単位：人、世帯、%

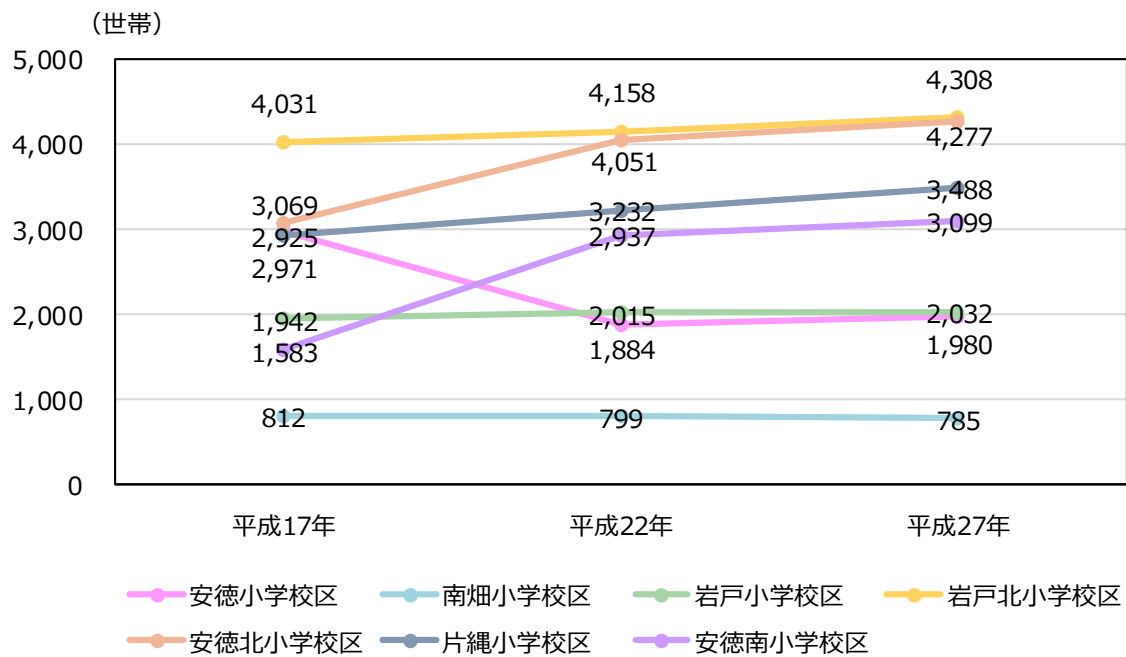
校区		平成17年	平成22年	平成27年	平成27年/ 平成17年
安徳小学校区	人口	8,618	5,503	5,425	▲ 3,193
		18.0%	11.0%	10.8%	62.9%
	世帯数	2,971	1,884	1,980	▲ 991
		17.1%	9.9%	9.9%	66.6%
南畑小学校区	人口	2,302	2,037	1,852	▲ 450
		4.8%	4.1%	3.7%	80.5%
	世帯数	812	799	785	▲ 27
		4.7%	4.2%	3.9%	96.7%
岩戸小学校区	人口	5,256	5,032	4,799	▲ 457
		11.0%	10.0%	9.6%	91.3%
	世帯数	1,942	2,015	2,032	90
		11.2%	10.6%	10.2%	104.6%
岩戸北小学校区	人口	10,870	10,633	10,607	▲ 263
		22.7%	21.2%	21.1%	97.6%
	世帯数	4,031	4,158	4,308	277
		23.3%	21.8%	21.6%	106.9%
安徳北小学校区	人口	8,418	10,581	10,700	2,282
		17.6%	21.1%	21.3%	127.1%
	世帯数	3,069	4,051	4,277	1,208
		17.7%	21.2%	21.4%	139.4%
片縄小学校区	人口	7,795	8,186	8,457	662
		16.3%	16.3%	16.8%	108.5%
	世帯数	2,925	3,232	3,488	563
		16.9%	16.9%	17.5%	119.2%
安徳南小学校区	人口	4,659	8,123	8,377	3,718
		9.7%	16.2%	16.7%	179.8%
	世帯数	1,583	2,937	3,099	1,516
		9.1%	15.4%	15.5%	195.8%
合計	人口	47,918	50,095	50,217	2,299
		100.0%	100.0%	100.0%	104.8%
	世帯数	17,333	19,076	19,969	2,636
		100.0%	100.0%	100.0%	115.2%

資料：那珂川市資料（各年 12 月 31 日時点）

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。



図：小学校校区別人口の推移



図：小学校校区別世帯数の推移

資料：那珂川市資料（各年 12 月 31 日時点）

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

(6) 財政状況

① 歳入（普通会計）の内訳

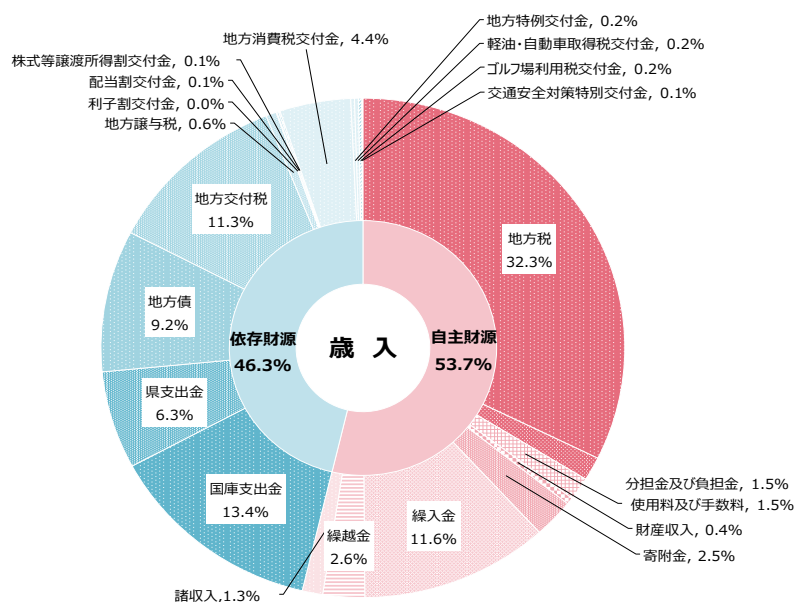
平成 30 年度決算の歳入額は 187 億 8,020 万円であり、前年度と比較すると 13 億 1,918 万円増加しています。

自主財源では「地方税」が 32.3%、依存財源では「国庫支出金」が 13.4%と最も多くなっています。

表：歳入（普通会計）の内訳

単位：千円、%

区分	款	平成30年度		平成29年度		増減額
		決算額	構成比	決算額	構成比	
自主財源	地方税	6,063,519	53.7%	5,929,616	57.5%	133,903
	分担金及び負担金	286,275		460,723		▲ 174,448
	使用料及び手数料	277,099		271,023		6,076
	財産収入	82,472		75,663		6,809
	寄附金	470,525		579,756		▲ 109,231
	繰入金	2,187,755		1,569,027		618,728
	繰越金	483,659		1,008,215		▲ 524,556
	諸収入	237,663		149,875		87,788
依存財源	国庫支出金	2,522,669	46.3%	2,147,461	42.5%	375,208
	県支出金	1,185,235		1,158,380		26,855
	地方債	1,722,350		1,102,004		620,346
	地方交付税	2,130,658		1,867,990		262,668
	地方譲与税	121,298		121,542		▲ 244
	利子割交付金	8,814		9,983		▲ 1,169
	配当割交付金	19,608		25,850		▲ 6,242
	株式等譲渡所得割交付金	17,995		27,374		▲ 9,379
	地方消費税交付金	823,963		819,390		4,573
	地方特例交付金	42,670		38,242		4,428
	軽油・自動車取得税交付金	46,070		44,593		1,477
	ゴルフ場利用税交付金	39,958		43,777		▲ 3,819
	交通安全対策特別交付金	9,945		10,536		▲ 591
合計		18,780,200	100.0%	17,461,020	100.0%	1,319,180

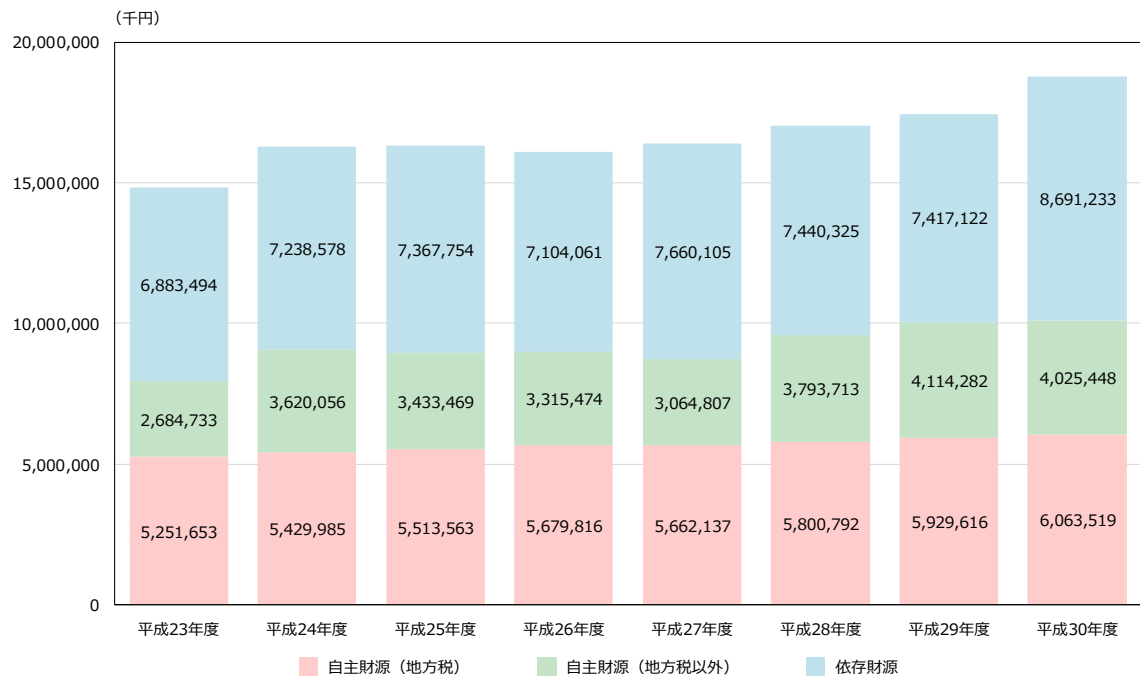


図：平成 30 年度 歳入（普通会計）の内訳

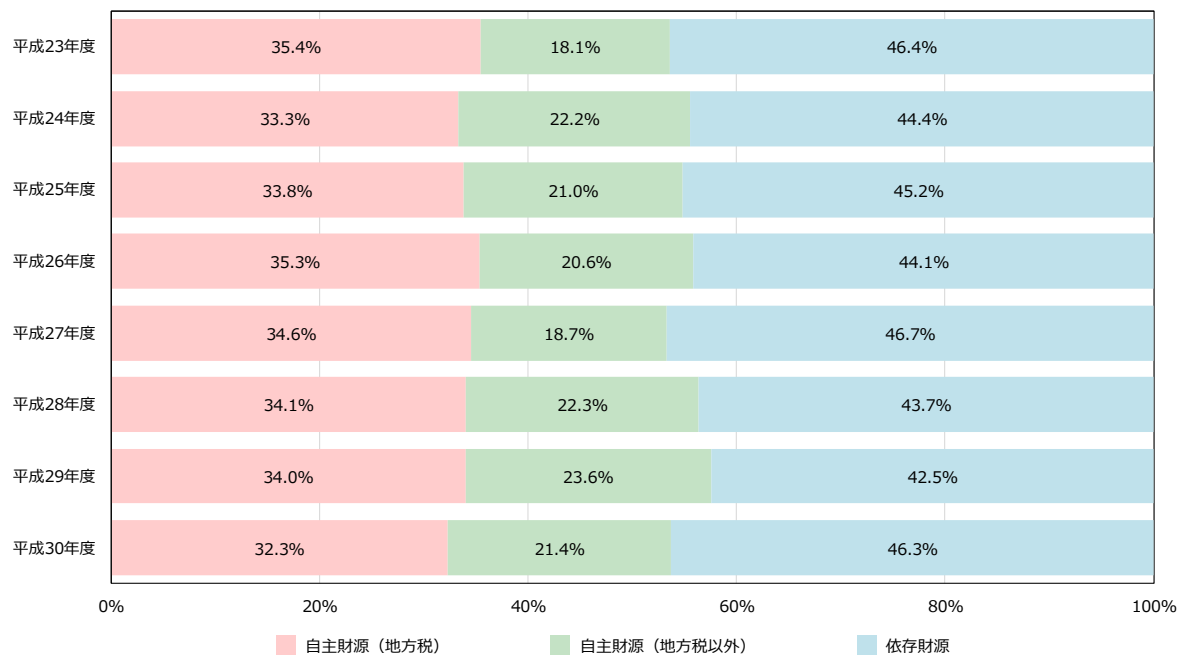
資料：統計なかかわ

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

平成 23 年度以降の歳入の推移をみると、「地方税」の平均は 55 億円程度で、人口の緩やかな増加傾向も講じて、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて増加傾向にあり、平成 27 年度に減少となったが、その後また増加しています。将来的には、人口が減少していくと推計されているため、生産年齢人口の割合も同時に減少すると見込まれ、「地方税」の減少が予想されます。



図：歳入（普通会計）の推移



図：歳入（普通会計）の割合の推移

資料：統計なかかわ

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

② 歳出（普通会計）の内訳

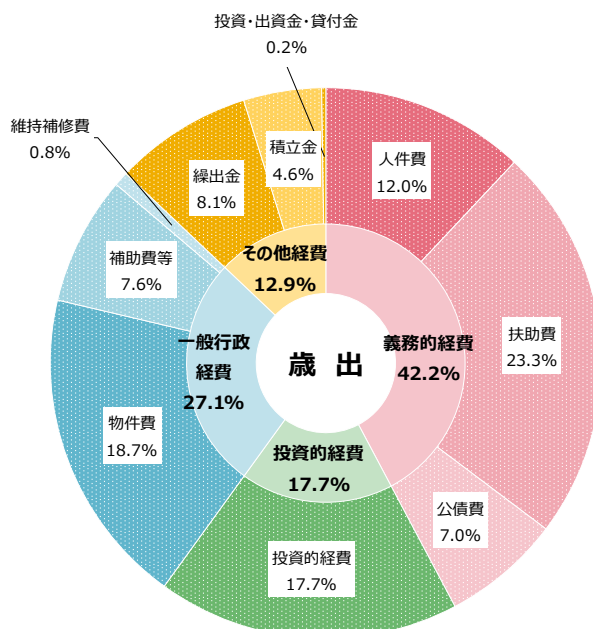
平成 30 年度決算の歳出額は、184 億 4,063 万円であり、前年度と比較すると 14 億 6,327 万円増加しています。

義務的経費では「扶助費」が 23.3%、一般行政経費では「物件費」が 18.7%、その他経費では「繰出金」が 8.1%と最も多くなっています。

表：歳出（普通会計）の内訳

単位：千円、%

区分	款	平成30年度		平成29年度		増減額
		決算額	構成比	決算額	構成比	
義務的経費	人件費	2,211,249	42.2%	2,163,173	41.0%	48,076
	扶助費	4,294,703		3,522,753		771,950
	公債費	1,282,966		1,277,666		5,300
投資的経費	投資的経費	3,270,830	17.7%	2,338,915	13.8%	931,915
一般行政経費	物件費	3,449,274	27.1%	3,234,831	28.8%	214,443
	補助費等	1,394,810		1,438,829		▲ 44,019
	維持補修費	154,569		221,538		▲ 66,969
その他経費	繰出金	1,493,917	12.9%	1,401,018	16.4%	92,899
	積立金	843,456		1,331,743		▲ 488,287
	投資・出資金・貸付金	44,860		46,895		▲ 2,035
合計		18,440,634	100.0%	16,977,361	100.0%	1,463,273



図：平成 30 年度 歳出（普通会計）の内訳

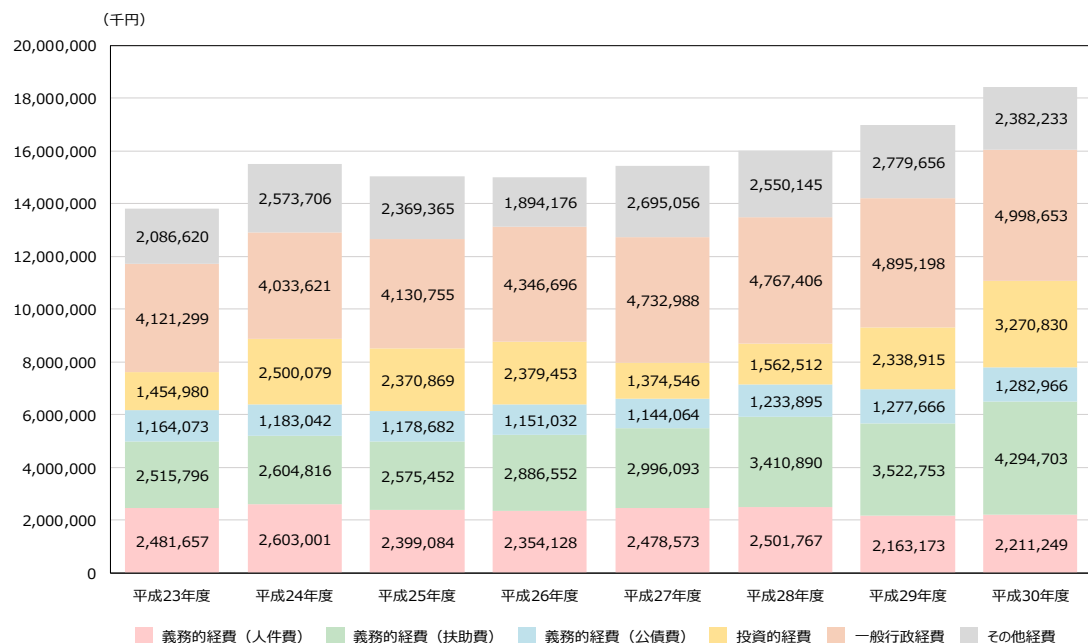
資料：統計なかがわ

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

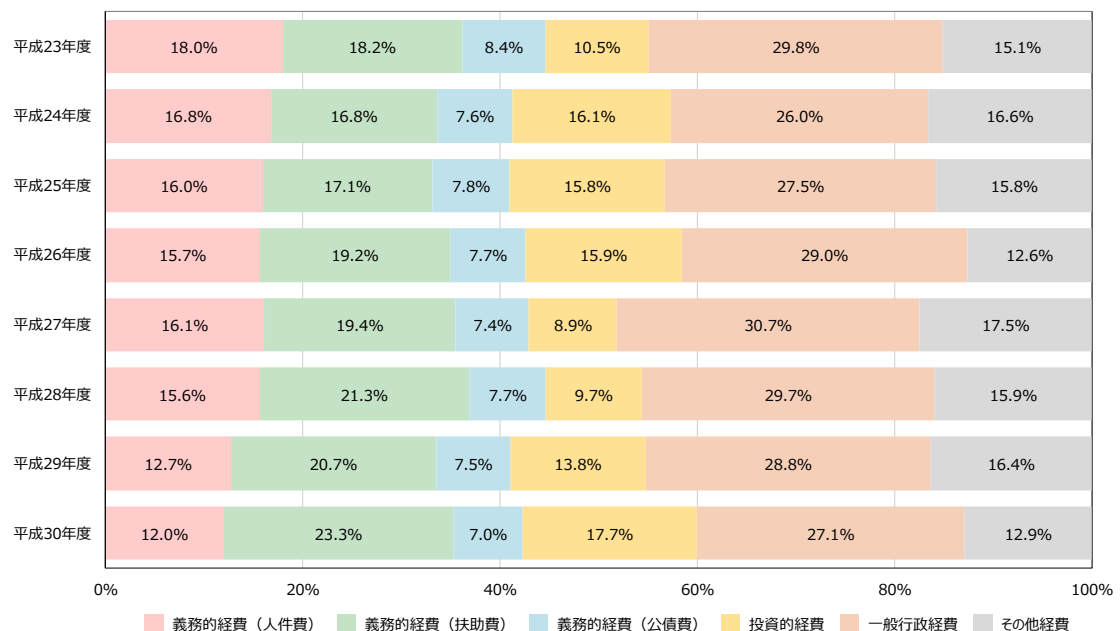
平成 23 年度以降の歳出の推移をみると、人件費はほぼ横ばいで、大きな変動は見られない一方で、扶助費は平成 23 年度と平成 30 年度を比べると 70%程増加しており、全体の 23%を占めるまでとなっています。

投資的経費の割合は 8%台～17%台と年度による変動が大きく、平成 30 年度は前年比で、40%程増加しています。

将来的に人口減少、高齢化の進展に伴い、扶助費等の増加に加え、後期高齢者医療費や介護保険等の負担が増大していくと考えられます。



図：歳出（普通会計）の推移



図：歳出（普通会計）の割合の推移

資料：統計なかかわ

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

2. 運営状況・活用状況の把握

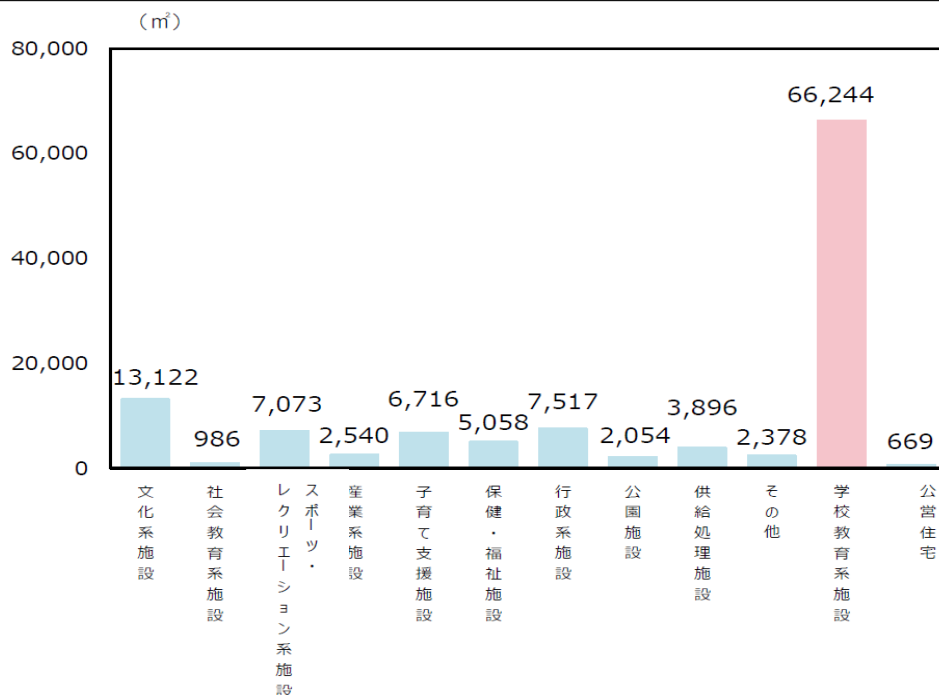
(1) 公共施設全体の保有状況

那珂川市の「公共施設等総合管理計画」では、本市の公共施設は全体で 99 施設、延床面積 118,252.9 m²となっています。

大分類別の延床面積が多い順に、学校教育系施設、文化系施設、行政系施設となっています。小学校・中学校を合わせた学校教育系施設の延床面積は 66,244 m²となり、全体の 5 割半ばを占めています。

表：大分類別延床面積割合

大分類	施設数	延床面積	
		面積(m ²)	構成比
文化系施設	7	13,122.0	11.1%
社会教育系施設	3	985.7	0.8%
スポーツ・レクリエーション系施設	6	7,073.3	6.0%
産業系施設	2	2,539.7	2.1%
子育て支援施設	13	6,716.1	5.7%
保健・福祉施設	6	5,058.3	4.3%
行政系施設	9	7,516.5	6.4%
公園施設	27	2,053.9	1.7%
供給処理施設	2	3,896.4	3.3%
その他	13	2,378.0	2.0%
学校教育系施設	10	66,244.0	56.0%
公営住宅	1	669.0	0.6%
合計	99	118,252.9	100.0%



図：大分類別延床面積割合

資料：那珂川市公共施設等総合管理計画

(2) 学校施設の保有状況

本市の小学校 7 校、中学校 3 校の全 10 校の建物のうち、延床面積 200 ㎡以下の部室、倉庫、トイレ等の小規模な建物を除いた一覧を以下に示します。

小学校・中学校のほとんどの建物は鉄筋コンクリート造（RC 造）であり、耐震診断を行った建物で耐震性能が基準値以下の建物は全て耐震補強が完了しています。

表：対象施設一覧（小学校）

※新耐震：1981年6月1日以降																
学 校 名		開 校 年 度	建 物 名	称 号	構 造	階 数	建 年 度	経 過 年 数	耐 震 基 準	震 害 等 級	校 舎 等 積	校 面 積	教 室			
													教室数	書 庫	通 道	特 別 室
安徳小学校	1874年 (明治7年)	管理・普通教室棟	14-1	RC造	4	1978	41	旧	2,757	11,422	28	16	12			
		特別・普通教室棟	14-2	RC造	4	1981	38	旧	1,156							
		配膳室棟	14-3	RC造	1	2011	8	新	27							
		屋内運動場	15	RC造	2	1982	37	新	873							
		プール付風室	19	RC造	1	1998	21	新	54							
		プール付風室	20	RC造	1	1998	21	新	34							
		給食室・特別教室棟	24	RC造	2	2012	7	新	574							
		エレベーター棟	25	S造	4	2012	7	新	67							
		配膳用シャフト棟	26	S造	4	2012	7	新	27							
小計				-						5,569						
南畑小学校	1874年 (明治7年)	教室棟	1	RC造	2	1968	51	旧	398	15,455	13	8	5			
		給食室	3	RC造	1	1972	47	旧	92							
		屋内運動場	4	RC造	2	1980	39	旧	874							
		多目的室棟	7	RC造	3	1999	20	新	697							
		プール付風室	8	RC造	1	2001	18	新	85							
		プール機械室（1F+地下）	9	RC造	2	2001	18	新	35							
		管理教室棟	10	RC造	2	1970	49	旧	1,226							
		小計				-									3,407	
岩戸小学校	1904年 (明治37年)	普通教室棟	1	RC造	2	1966	53	旧	1,058	14,708	23	12	11			
		普通教室棟・特別教室棟	10	RC造	3	1982	37	新	1,719							
		屋内運動場	11	RC造	2	1982	37	新	874							
		プール付風室	13	S造	1	1983	36	新	76							
		特別教室棟・給食室	14	RC造	3	2017	2	新	1,839							
		小計				-									5,566	
岩戸北小学校	1975年 (昭和50年)	教室棟	1-1	RC造	3	1974	45	旧	810	20,835	36	28	8			
		教室棟	1-2	RC造	3	1975	44	旧	476							
		給食室	2	RC造	1	1974	45	旧	150							
		屋内運動場	5-1	RC造	2	1975	44	旧	866							
		屋内運動場	5-2	RC造	1	1997	22	新	70							
		屋内運動場	5-3	RC造	1	1997	22	新	83							
		プール付風室	7	RC造	1	1977	42	旧	79							
		教室棟	11-1	RC造	3	1978	41	旧	439							
		教室棟	11-2	RC造	3	1979	40	旧	475							
		教室棟	13	RC造	3	1980	39	旧	884							
		教室棟	15-1	RC造	3	1974	45	旧	415							
		教室棟	15-2	RC造	3	1975	44	旧	1,097							
		渡り廊下	16-1	RC造	3	1975	44	旧	191							
		昇降口	16-2	RC造	1	2001	18	新	78							
		給食室	17	RC造	3	1975	44	旧	545							
		エレベーター	19	S造	3	2001	18	新	33							
		給食室	20-1	RC造	1	2005	14	新	93							
小計				-						6,784						
安徳北小学校	1975年 (昭和50年)	普通教室棟・特別教室棟	1	RC造	3	1975	44	旧	2,661	20,098	34	29	5			
		職員室	2	RC造	1	1975	44	旧	117							
		屋内運動場	5	RC造	2	1976	43	旧	890							
		プール付風室	6	RC造	1	1977	42	旧	75							
		普通教室棟	7	RC造	3	1980	39	旧	837							
		普通教室棟 特別教室棟	11	S造	2	2004	15	新	867							
		渡り廊下	12	RC造	3	1980	39	旧	134							
		普通教室棟・給食室	14	RC造	3	2009	10	新	786							
小計				-						6,367						

※経過年数は2019年時点
※200㎡以下の建物は除く

資料：令和元年度 那珂川市公立学校施設台帳

表：対象施設一覧（小学校）

学 校 名	開 校 年 度	建 物 名	標 本 番 号	構 造	階 数	建 年	築 経 年	過 耐 数	震 害 準 準	校 舎 等 積 面	校 地 積	教 室			
												教室数			
												教室数	普	通	特 別
片縄小学校	1983年 (昭和58年)	管理・普通教室棟	5	RC造	3	1983		36	新	2,295	24,888	28	23	5	
		昇降口・渡り廊下	6	RC造	3	1983		36	新	247					
		給食室	7-1	RC造	3	1983		36	新	183					
		普通教室棟	7-2	RC造	3	1983		36	新	1,071					
		屋内運動場	9	RC造	2	1983		36	新	874					
		プール付属室	11	S造	1	1984		35	新	80					
		特別教室棟	13	RC造	3	1999		20	新	668					
		渡り廊下	14	RC造	3	1999		20	新	33					
		小計				-				5,451					
安徳南小学校	1996年 (平成8年)	管理・特別・普通教室棟	1	RC造	3	1995		24	新	2,134	24,058	34	24	10	
		昇降口・渡り廊下	2	RC造	3	1995		24	新	291					
		普通教室棟	3	RC造	3	1995		24	新	2,371					
		給食室	3-1	RC造	1	1995		24	新	183					
		屋内運動場	4	RC造	2	1995		24	新	919					
		プール付属室	5	S造	1	1995		24	新	80					
		普通教室棟増築部	9	RC造	3	2012		7	新	642					
		給食室増築部	10	RC造	2	2017		2	新	136					
		小計				-				6,756					

※経過年数は2019年時点

※200㎡以下の建物は除く

資料：令和元年度 那珂川市公立学校施設台帳

表：対象施設一覧（中学校）

学 校 名	開 校 年 度	建 物 名	標 本 番 号	構 造	階 数	建 年	築 経 年	過 耐 数	震 害 準 準	校 舎 等 積 面	校 地 積	教 室			
												教室数			
												教室数	普	通	特 別
那珂川中学校	1947年 (昭和22年)	管理・普通教室棟	1	RC造	3	1966		53	旧	2,561	21,173	38	15	23	
		普通教室棟	8	RC造	3	1974		45	旧	1,536					
		特別教室棟	12	RC造	3	1984		35	新	1,134					
		2階渡り廊下	13	S造	1	1984		35	新	127					
		屋内運動場（1F～3F）	19	RC造	2	1998		21	新	1,250					
		柔剣道場	20	RC造	2	1998		21	新	521					
		クラブ活動室	21	RC造	1	1998		21	新	128					
		プール・特別教室棟	24	RC造	3	2014		5	新	1,117					
		昇降口増築部	27-1	S造	3	2018		1	新	81					
		エレベーター棟	28	RC造	3	2018		1	新	28					
		小計				-				8,483					
那珂川南中学校	1980年 (昭和55年)	屋内運動場	2-1	RC造	2	1979		40	旧	1,177	34,636	42	22	20	
		屋内運動場	2-2	RC造	2	1979		40	旧	147					
		柔剣道場	3	RC造	2	1979		40	旧	508					
		管理・特別教室棟	4-1	RC造	3	1979		40	旧	529					
		管理・特別教室棟	4-2	RC造	3	1980		39	旧	1,013					
		特別教室棟	5	RC造	2	1980		39	旧	539					
		プール付属室	6	RC造	1	1981		38	旧	112					
		普通教室棟	10	RC造	3	1983		36	新	503					
		普通教室棟	11	RC造	3	1985		34	新	562					
		特別教室棟	12	S造	2	1990		29	新	439					
		昇降口	15	RC造	3	1979		40	旧	690					
		普通教室棟	16	RC造	3	1979		40	旧	1,013					
		特別支援学級棟	17	S造	2	2018		1	新	638					
		小計				-				7,870					
那珂川北中学校	2004年 (平成16年)	特別教室棟	1	RC造	2	2003		16	新	944	30,937	31	16	15	
		多目的ホール	2	RC造	1	2003		16	新	328					
		普通教室棟	3	RC造	5	2003		16	新	5,273					
		屋内運動場	4	RC造	3	2003		16	新	2,557					
		柔剣道場（地下）	5	RC造	1	2003		16	新	608					
		プール機械室	6	RC造	1	2003		16	新	43					
		プール付属室	7	RC造	1	2003		16	新	97					
		屋内運動場（地下）	8	RC造	1	2003		16	新	141					
		小計				-				9,991					

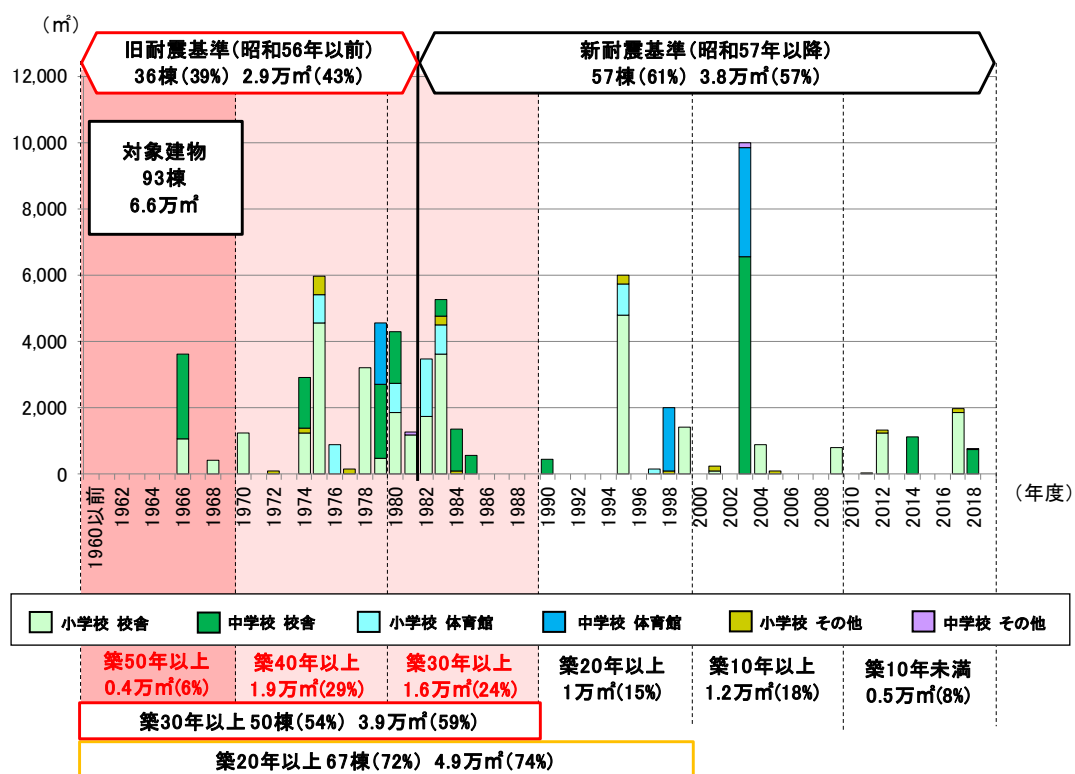
※経過年数は2019年時点

※200㎡以下の建物は除く

資料：令和元年度 那珂川市公立学校施設台帳

学校施設の築年別整備状況をみると、旧耐震基準（昭和 56 年以前）によるものが 36 棟（39%）、床面積で 2.9 万㎡（43%）、新耐震基準（昭和 57 年以降）によるものが 57 棟（61%）、床面積で 3.8 万㎡（57%）となっており、旧耐震基準の建物が延床面積当たりにおいて 4 割強を占めています。

経過年数では、築 50 年以上が 0.4 万㎡（6%）、築 40 年から築 49 年までが 1.9 万㎡（29%）、築 30 年から築 39 年までが 1.6 万㎡（24%）となっており、築 30 年以上を合わせると 50 棟（54%）、床面積 3.9 万㎡（59%）となっています。



図：学校施設の築年別建物状況

※ 作図のプログラムにより、面積は万㎡、比率が整数になっています。

(3) 児童・生徒数及び学級数の変化

① 児童・生徒数及び学級数の推移

【小学校】

2010 年度以降、市内の小学校 7 校の児童数は減少傾向にあり、2019 年度は 3,489 人となっています。2010 年と比較すると、児童数は 1.4%減少しています。

児童数の減少に反して、学級数は増加しており、2019 年度は 140 クラスとなっています。2010 年と比較すると、16 クラス増加しています。これは、特別支援学級数が増加している影響です。

表：児童数・学級数の推移

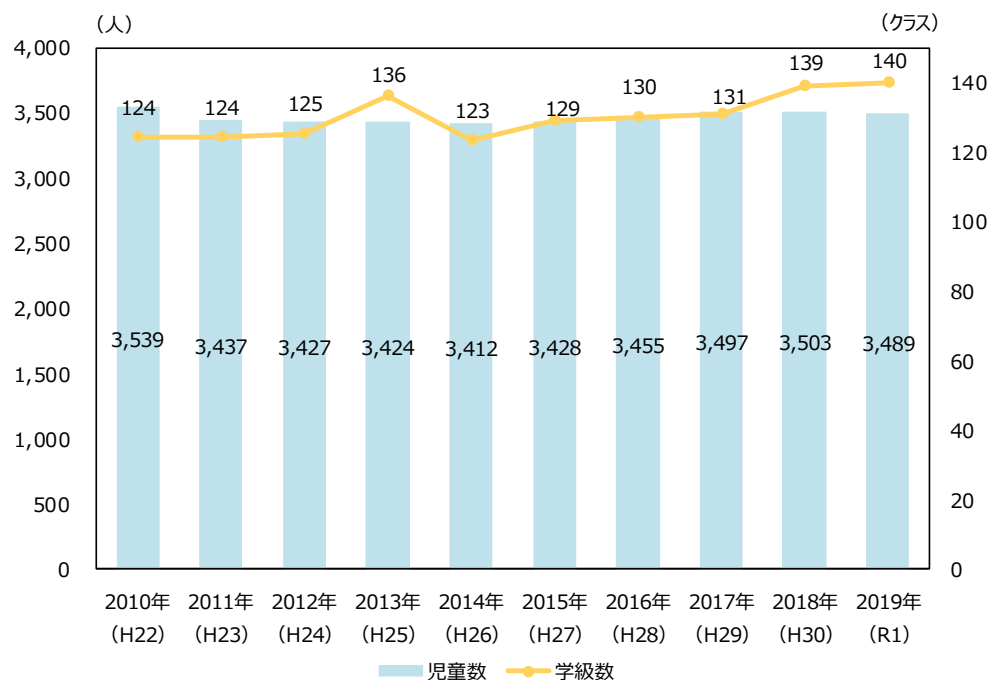
単位：人、クラス

小学校		2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2019年/ 2010年
安德小学校	児童数	529	488	466	451	452	431	416	419	411	403	76.2%
	学級数	19	19	18	18	16	17	16	16	16	16	-3
南畑小学校	児童数	117	109	99	97	94	73	80	70	74	74	63.2%
	学級数	6	6	6	6	6	6	7	7	8	8	2
岩戸小学校	児童数	262	238	252	245	227	230	225	231	242	223	85.1%
	学級数	12	11	13	14	11	10	10	10	12	12	0
岩戸北小学校	児童数	763	732	716	714	726	706	728	744	743	759	99.5%
	学級数	23	24	24	25	24	26	26	26	27	28	5
安德北小学校	児童数	789	764	738	730	713	739	742	769	773	780	98.9%
	学級数	25	25	24	28	25	25	26	26	28	29	4
片縄小学校	児童数	515	505	502	491	482	516	527	530	544	555	107.8%
	学級数	19	19	19	21	19	20	20	21	23	23	4
安德南小学校	児童数	564	601	654	696	718	733	737	734	716	695	123.2%
	学級数	20	20	21	24	22	25	25	25	25	24	4
小学校 合計	児童数	3,539	3,437	3,427	3,424	3,412	3,428	3,455	3,497	3,503	3,489	98.6%
	学級数	124	124	125	136	123	129	130	131	139	140	16

各年5月1日時点

単位：クラス

学級数	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2019年/ 2010年
特別	10	11	10	13	14	18	22	25	29	29	19
普通	114	113	115	123	109	111	108	106	110	111	-3



図：児童数・学級数の推移

資料：那珂川市資料

【中学校】

2010 年度以降、市内の中学校 3 校の生徒数は減少傾向にあり、2019 年度は 1,582 人となっています。2010 年と比較すると、生徒数は 9.0%減少しています。

生徒数の減少に反して、学級数は増加しており、2019 年度は 53 クラスとなっています。2010 年度と比較すると、1 クラス増加しています。これは特別支援学級数が増加している影響であり、普通学級数は減少しています。

表：生徒数・学級数の推移

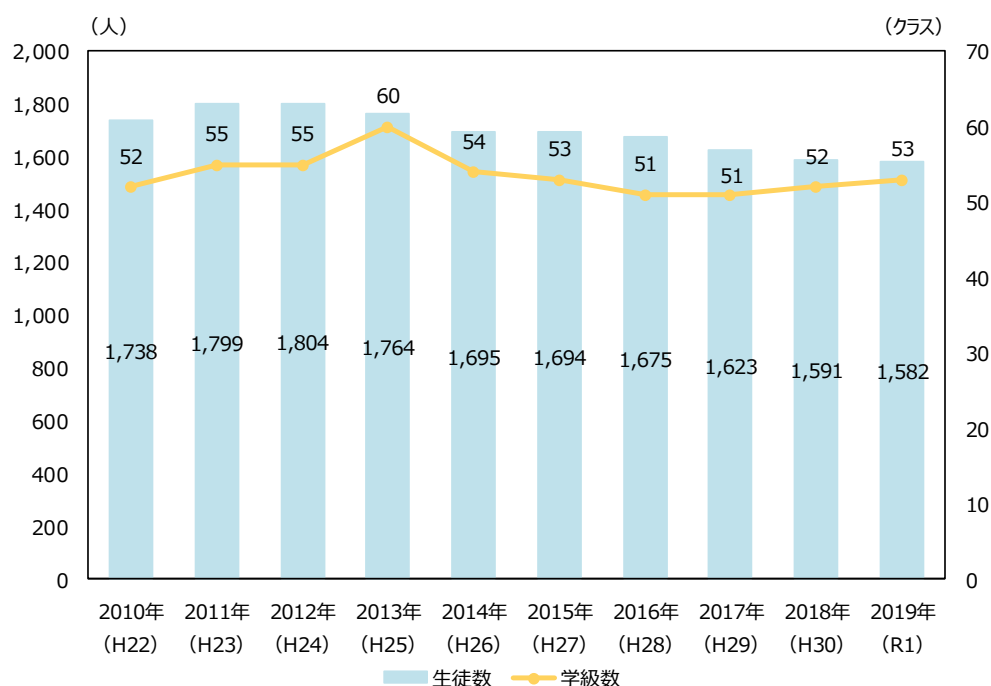
単位：人、クラス

中学校		2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2019年/ 2010年
那珂川中学校	生徒数	537	578	588	531	522	511	496	442	447	444	82.7%
	学級数	16	18	18	19	17	16	15	14	14	15	-1
那珂川南中学校	生徒数	681	686	681	690	658	682	680	686	658	651	95.6%
	学級数	19	20	20	22	20	20	20	20	22	22	3
那珂川北中学校	生徒数	520	535	535	543	515	501	499	495	486	487	93.7%
	学級数	17	17	17	19	17	17	16	17	16	16	-1
中学校 合計	生徒数	1,738	1,799	1,804	1,764	1,695	1,694	1,675	1,623	1,591	1,582	91.0%
	学級数	52	55	55	60	54	53	51	51	52	53	1

各年5月1日時点

単位：クラス

学級数	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2019年/ 2010年
特別	4	6	6	6	6	6	6	6	8	10	6
普通	48	49	49	54	48	47	45	45	44	43	-5



図：生徒数・学級数の推移

資料：那珂川市資料

② 児童・生徒数及び学級数の推計

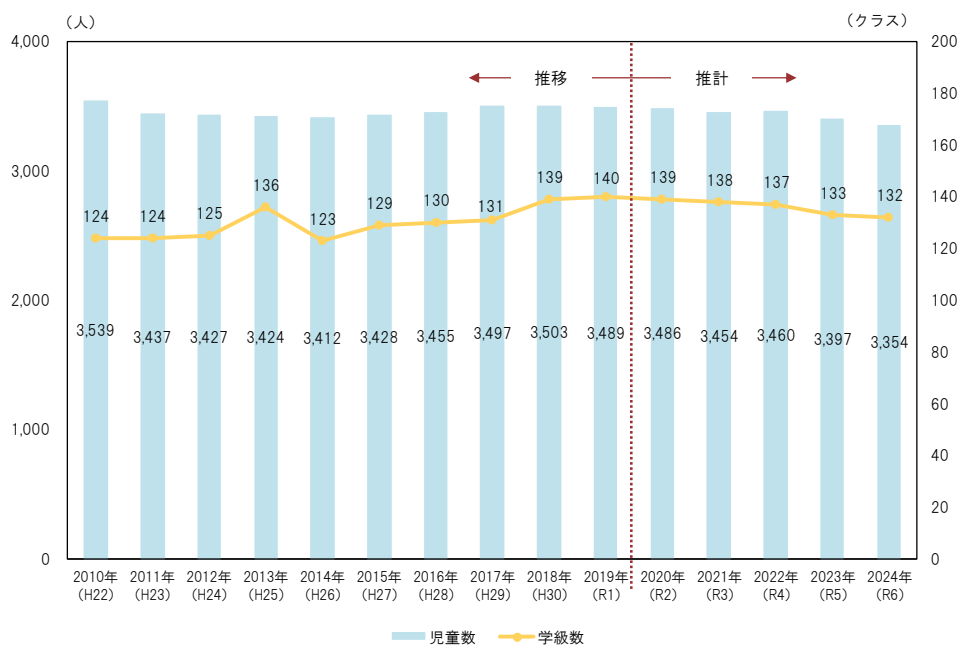
【小学校】

2024年度までの推計では、児童数、学級数ともに減少していくと予測されます。

表：児童数・学級数の推計

基準日：2019年5月1日

		2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)
安德小学校	児童数	402	389	385	381	376
	学級数	15	15	15	15	15
南畑小学校	児童数	79	75	76	80	78
	学級数	8	8	8	8	8
岩戸小学校	児童数	228	221	225	206	195
	学級数	12	12	12	11	11
岩戸北小学校	児童数	757	753	750	728	744
	学級数	28	27	27	27	27
安德北小学校	児童数	778	798	811	821	815
	学級数	29	30	30	29	29
片縄小学校	児童数	571	578	608	614	613
	学級数	24	23	24	23	23
安德南小学校	児童数	671	640	605	567	533
	学級数	23	23	21	20	19
合計	児童数	3,486	3,454	3,460	3,397	3,354
	学級数	139	138	137	133	132



図：児童数・学級数の推計

資料：那珂川市資料

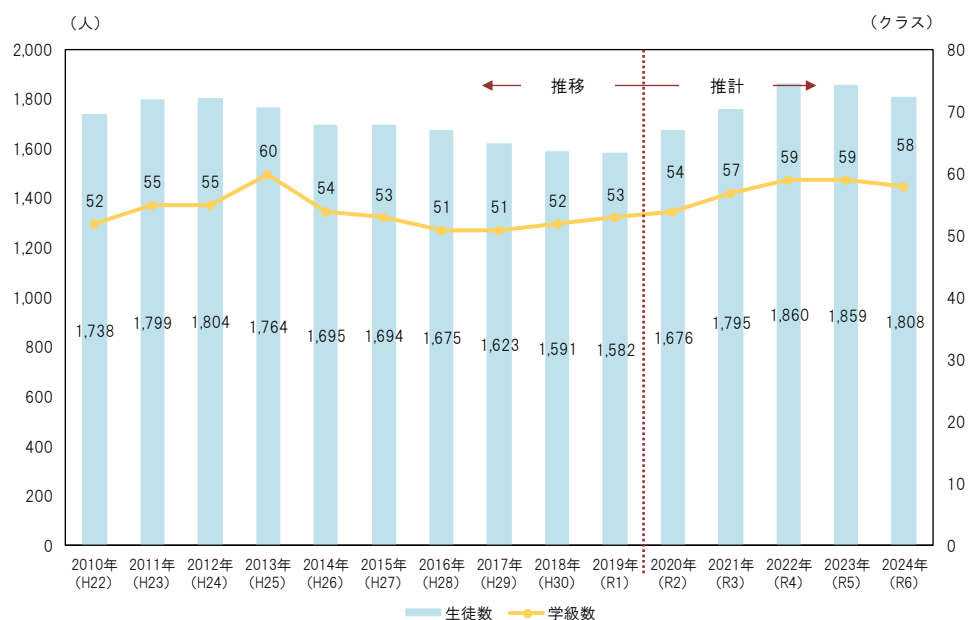
【中学校】

2024 年度までの推計では、生徒数、学級数ともに増加し、2022 年をピークに微減すると予測されます。

表：生徒数・学級数の推計

基準日：2019年5月1日

		2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)
那珂川中学校	生徒数	496	537	561	559	554
	学級数	16	17	18	18	18
那珂川南中学校	生徒数	678	713	736	733	697
	学級数	22	23	23	23	22
那珂川北中学校	生徒数	502	545	563	567	557
	学級数	16	17	18	18	18
合計	生徒数	1,676	1,795	1,860	1,859	1,808
	学級数	54	57	59	59	58



図：生徒数・学級数の推計

資料：那珂川市資料

(4) 教職員数の推移

本市の小中学校の教職員数は、小学校・中学校ともに減少傾向にあります。2009 年と比較すると、小学校で 5.3%減少、中学校で 10.7%減少しています。

表：小学校の職員数の推移

単位：人

小学校	2009年 (H21)	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2018年/ 2009年
安徳小学校	35	33	33	33	28	27	30	29	26	24	68.6%
南畑小学校	17	17	17	16	16	18	17	20	18	20	117.6%
岩戸小学校	22	27	25	26	27	23	26	23	20	23	104.5%
岩戸北小学校	37	38	38	38	37	41	43	43	34	33	89.2%
安徳北小学校	41	38	37	38	37	38	40	47	39	42	102.4%
片縄小学校	30	30	30	30	32	31	34	30	25	26	86.7%
安徳南小学校	27	29	30	33	33	38	41	38	28	30	111.1%
合計	209	212	210	214	210	216	231	230	190	198	94.7%

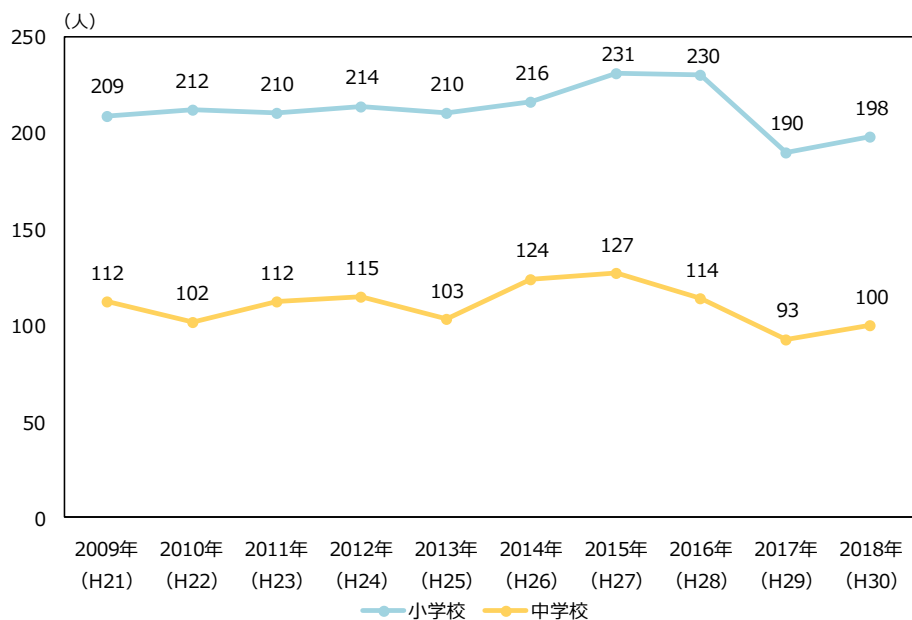
各年5月1日現在

表：中学校の職員数の推移

単位：人

中学校	2009年 (H21)	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2018年/ 2009年
那珂川中学校	30	25	35	37	27	40	38	36	29	29	96.7%
那珂川南中学校	48	40	38	40	40	44	47	42	38	42	87.5%
那珂川北中学校	34	37	39	38	36	40	42	36	26	29	85.3%
合計	112	102	112	115	103	124	127	114	93	100	89.3%

各年5月1日現在



図：小中学校の職員数の推移

※ 教職員数は、教員＋職員（県費＋町費）の合計

資料：那珂川市資料

(5) 学校施設の配置状況

本市の人口は、市街地と住宅地が広がる北部に集中しており、全人口の約 96%を占めています。
北部には小学校が 6 校、南部には小学校が 1 校あります。

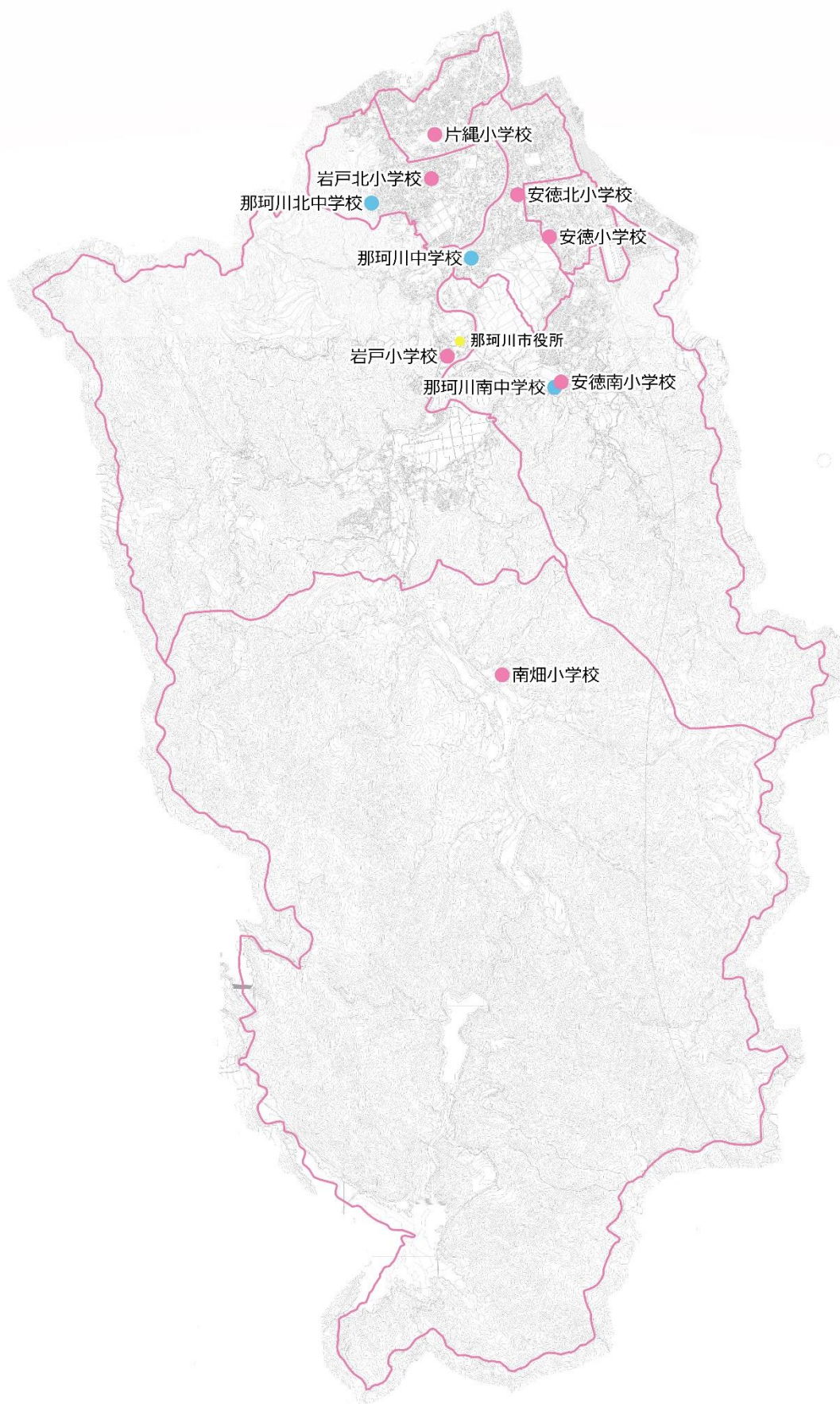
表：学校施設の配置状況

単位：人

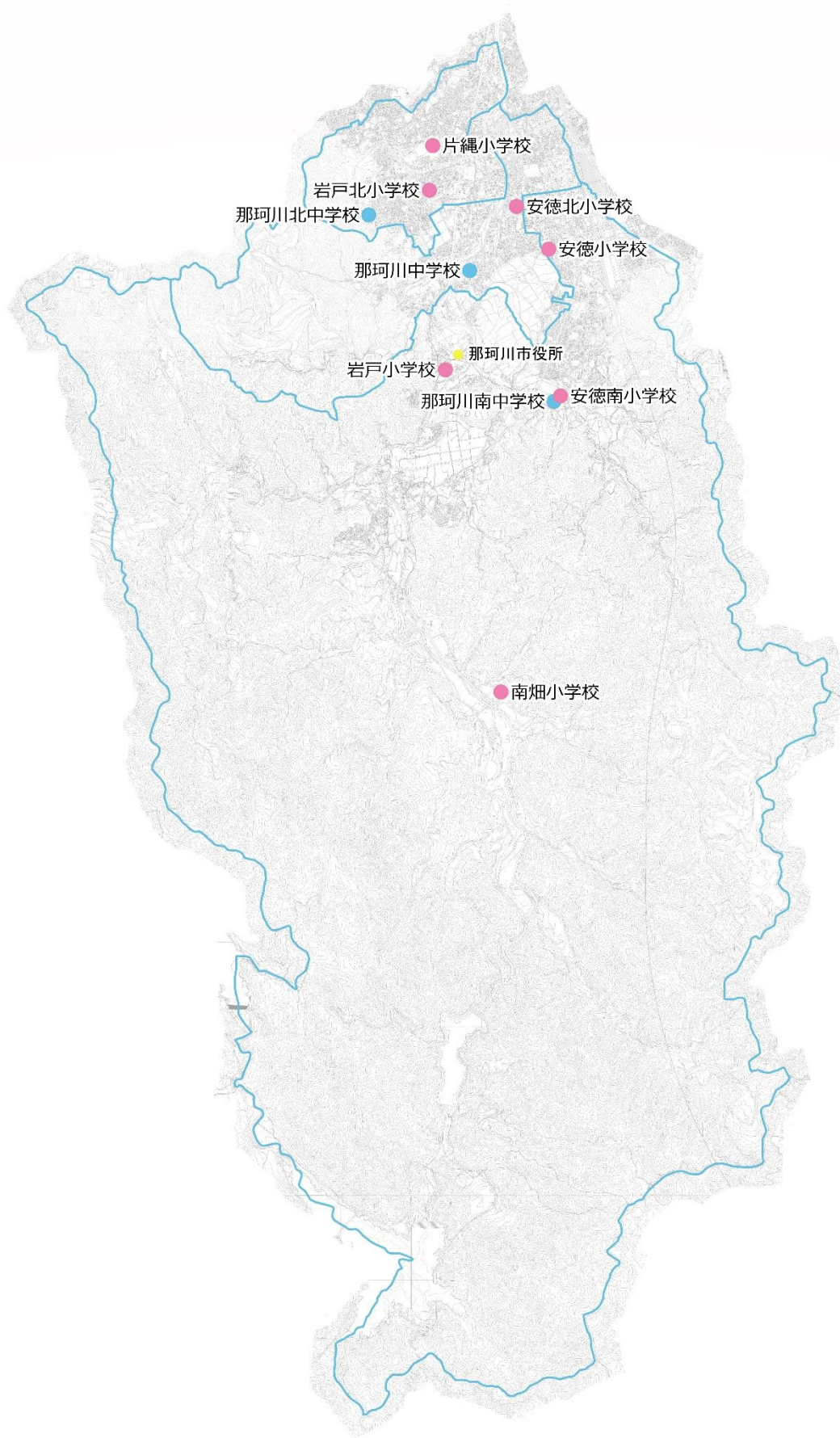
	校区	項目	人口	世帯数	15歳未満人口	児童数	中学校	生徒数
北部	片縄小学校区	実数	8,581	3,612	1,407	555	那珂川北 中学校区	487
		比率	17.1%	17.6%	16.8%	15.9%		30.8%
	岩戸北小学校区	実数	10,738	4,500	1,783	759	那珂川 中学校区	444
		比率	21.4%	21.9%	21.3%	21.8%		28.1%
	安徳北小学校区	実数	10,659	4,388	1,871	780		444
		比率	21.2%	21.4%	22.3%	22.4%		28.1%
	岩戸小学校区	実数	4,658	2,049	535	223	那珂川南 中学校区	651
		比率	9.3%	10.0%	6.4%	6.4%		41.2%
	安徳南小学校区	実数	8,292	3,136	1,638	695		651
		比率	16.5%	15.3%	19.6%	19.9%		41.2%
南部	南畑小学校区	実数	1,798	788	182	74		41.2%
		比率	3.6%	3.8%	2.2%	2.1%		41.2%
	合計	実数	50,204	20,548	8,378	3,489	合計	1,582
		比率	100%	100%	100%	100%		100%

資料：人口・世帯数は那珂川市人口統計 学校区別年齢別男女別人口調（平成 30 年 4 月 30 日現在）

児童・生徒数は那珂川市資料（令和元年 5 月 1 日現在）



図：校区区分図（小学校）



図：校区区分図（中学校）

(6) 学校の維持管理コスト

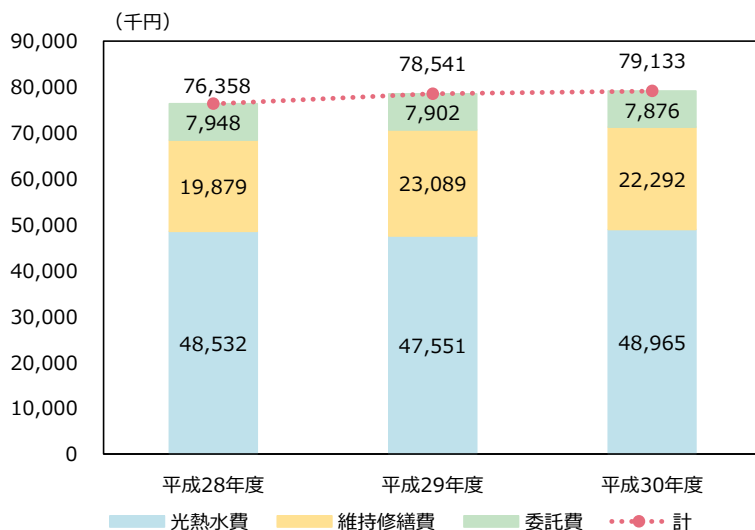
① 管理費の推移

小学校の管理費（光熱水費、維持修繕費、委託費）に関する、平成 28 年度から平成 30 年度までの 3 年間の年平均は 78,011 千円となります。内訳をみると、光熱水費は 48,349 千円、維持修繕費は 21,753 千円、委託費は 7,909 千円となっています。

表：管理費の推移（小学校）

単位：千円

施設名	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	年平均
安德小学校	光熱水費	5,933	5,907	5,918	9,404
	維持修繕費	2,225	2,296	2,542	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	9,294	9,332	9,586	
南畑小学校	光熱水費	2,764	2,658	2,598	6,882
	維持修繕費	3,624	3,793	1,820	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	7,523	7,579	5,544	
岩戸小学校	光熱水費	4,166	4,396	4,931	8,197
	維持修繕費	1,380	4,143	2,186	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	6,681	9,667	8,242	
岩戸北小学校	光熱水費	9,380	9,714	9,119	14,390
	維持修繕費	3,916	2,847	4,805	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	14,431	13,690	15,049	
安德北小学校	光熱水費	9,310	9,681	10,014	13,884
	維持修繕費	2,997	2,694	3,568	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	13,443	13,503	14,707	
片縄小学校	光熱水費	7,739	7,420	7,833	12,334
	維持修繕費	2,862	3,226	4,533	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	11,737	11,774	13,491	
安德南小学校	光熱水費	9,240	7,776	8,552	12,920
	維持修繕費	2,875	4,091	2,838	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	13,250	12,996	12,515	
合計	光熱水費	48,532	47,551	48,965	48,349
	維持修繕費	19,879	23,089	22,292	21,753
	委託費	7,948	7,902	7,876	7,909
	計	76,358	78,541	79,133	78,011



図：管理費の推移（小学校）

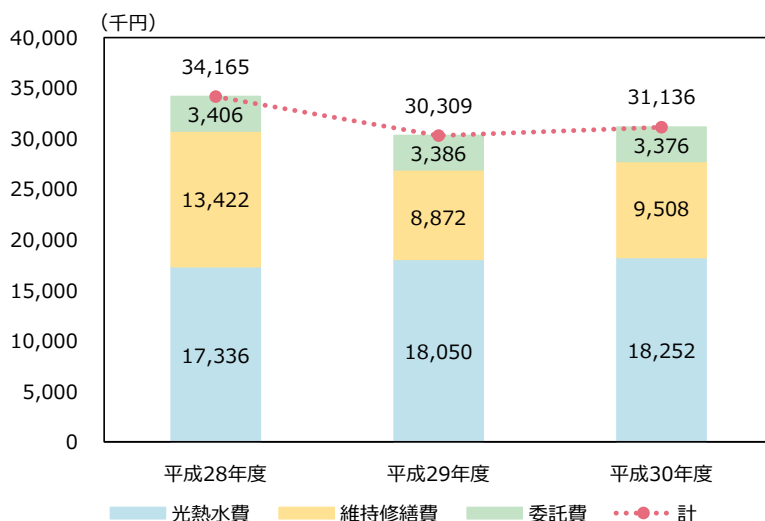
資料：那珂川市資料

中学校の管理費（光熱水費、維持修繕費、委託費）に関する、平成 28 年度から平成 30 年度までの 3 年間の年平均は 31,870 千円となります。内訳をみると、光熱水費は 17,879 千円、維持修繕費は 10,601 千円、委託費は 3,389 千円となっています。

表：管理費の推移（中学校）

単位：千円

施設名	内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	年平均
那珂川中学校	光熱水費	4,882	4,847	5,546	8,858
	維持修繕費	4,376	1,225	2,309	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	10,394	7,200	8,981	
那珂川南中学校	光熱水費	5,146	5,201	5,233	11,056
	維持修繕費	5,235	4,275	4,689	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	11,516	10,604	11,046	
那珂川北中学校	光熱水費	7,308	8,003	7,473	11,956
	維持修繕費	3,811	3,372	2,510	
	委託費	1,135	1,129	1,125	
	小計	12,255	12,504	11,108	
合計	光熱水費	17,336	18,050	18,252	17,879
	維持修繕費	13,422	8,872	9,508	10,601
	委託費	3,406	3,386	3,376	3,389
	計	34,165	30,309	31,136	31,870



図：管理費の推移（中学校）

資料：那珂川市資料

② 改修に係る工事費の推移

全小中学校の改修に係る工事費の平成 28 年度から平成 30 年度までの年平均は 590,731 千円となります。年度別でみると、平成 29 年度が最も高くなっており、これは岩戸小学校の大規模改造工事を行ったためです。

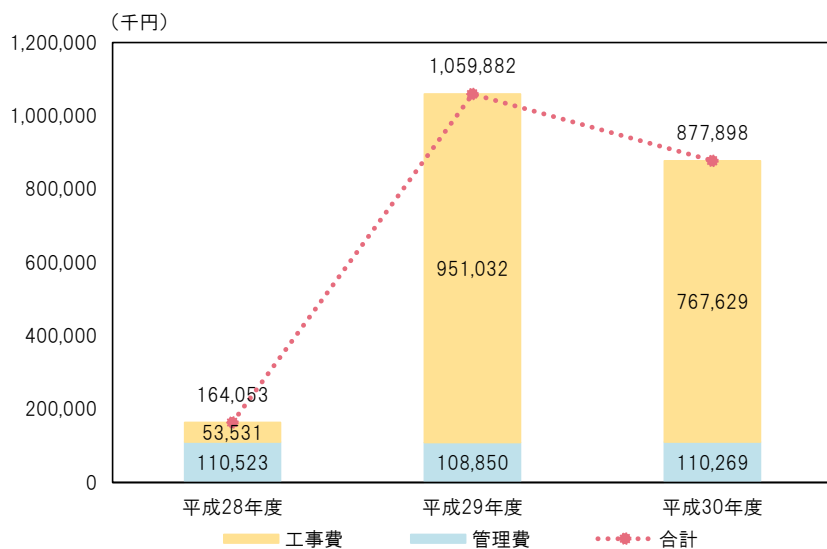
表：学校改修に係る工事費の推移

単位：千円

学校名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
小学校	48,527	949,852	68,815	
中学校	5,003	1,179	698,814	
計	53,531	951,032	767,629	590,731

③ 維持管理コストの推移（管理費＋工事費）

全小中学校に係る維持管理コスト（管理費＋工事費）を年度別でみると、平成 29 年度が最も高くなっています。



図：維持管理コストの推移

資料：那珂川市資料

(7) 学校施設等の実態を踏まえた課題

本市には小学校が 7 校、中学校が 3 校ありますが、少子高齢化などの影響により、15 歳未満の人口が年々減少してきており、児童数・生徒数も減少しています。

これまでに述べたように、本市の学校施設は、築 30 年以上の建物が全体の約 6 割を占めています。建物の構造の多くは、鉄筋コンクリート造（RC 造）で建てられ、耐震診断結果に基づいて耐震補強・大規模改修工事等を実施してきました。しかしながら、建築から長い年数が経過して建物の老朽化が進んでいるとともに設備の不具合もあり、近い将来に建替を含めた対策が必要となっています。

また、現在は人口増加が続いているものの近い将来には人口減少が始まり、同時に少子化の進展による児童生徒数の減少が見込まれます。

さらに、教育内容や教育方法等の多様化、防災機能整備、バリアフリー化、環境への配慮など学校施設に求められる時代のニーズに対応するための対策が課題となっています。

① 厳しい財政状況を勘案した学校施設等の長期保全への取り組み

平成 29 年度の一般会計の決算における自主財源の割合は、歳入総額の 57.5%となっており、将来的な人口減少に伴い、「地方税」も減少することが予測されます。一方、歳出においては、「扶助費」が増加する傾向を踏まえると、財政状況がますます厳しくなっていくことになります。

本市の公共施設は、99 施設、総延床面積 118,252.9 m²を保有している中で、小中学校を合わせた学校施設の延床面積は全体の 5 割半ばを占めています。（資料：公共施設等総合管理計画）これらの学校施設等は、近い将来に改築や大規模改修を行う必要があり、市の財政の大きな負担となることが考えられます。

このため、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、長期的な予算配分を確立していくことが必要です。

② 学校施設等の維持・改修など総合的な対応

学校施設の約 6 割が築 30 年以上と老朽化が進んでいる中で、建設当時に比べ大きく変化している多様な学習内容に応じた高機能かつ多機能な施設環境の必要性が高まっています。また、防災対策、バリアフリー対策、トイレの洋式化等の学習・生活空間としての安全性や快適性の向上を図るほか、環境負荷の低減対策等の様々な配慮が必要となっています。

施設の改修にあたっては、建築時の状態に戻すのではなく、その機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる必要があります。その際には、安全・安心な施設環境の確保、教育環境の質的向上、地域コミュニティの拠点形成を目指して再生を行うことが重要です。

③ 小中学校の規模・配置の適正化の検討

本市の人口は増加傾向にあり、今後も一定期間は継続することが予測されます。それに伴い、北部の小学校は3校の大規模校があります。反対に南部の小学校は人口割合が低いことから小規模校となっており、それぞれの学校における児童・生徒数に大きな差が生じている傾向が今後も続くことが予測されます。このため、将来を見据えた小中学校の規模や配置の適正化が課題となっていますが、その検討にあたっては、児童・生徒にとって望ましい教育環境はどうあるべきかという観点に立ち、保護者や地域住民等の理解や協力を得ながら進めていく必要があります。

表：学校規模の分類

	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校	5学級以下	6～11学級	12～18学級	19～30学級	31学級以上
中学校	2学級以下	3～11学級			

資料：学校教育法施行規則

3. 学校施設等の老朽化状況

(1) 学校施設等の老朽化状況の把握

① 老朽化状況の評価

施設の健全度・劣化状況を把握し評価するために、学校施設台帳、耐震診断結果を踏まえ、さらに屋上・外壁等の実態を図るため、学校施設 10 施設の主要建物 93 棟を対象にした目視による現地調査を行いました。

以下に示す劣化状況調査票を基に、各項目について劣化状況の確認と劣化具合の写真を撮影し、「屋根・屋上」、「外壁」に区分して評価を行いました。また、「内部仕上」、「電気設備」、「機械設備」も経過年数により評価を行い、それらを基に総合的に施設の健全度として点数化を行いました。

【劣化状況調査票】

通し番号			学校番号			調査日		
学校名				建物名				記入者
棟番号				建築年度	年度(年度)			
構造種別	延床面積	m	階数	地上	階	地下	階	

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根 ()			☐ 降雨時に雨漏りがある ☐ 天井等に雨漏り痕がある ☐ 防水層に膨れ・破れ等がある ☐ 屋根葺材に錆・損傷がある ☐ 笠木・立上り等に損傷がある ☐ 樋やルーフトンを目視点検できない ☐ 既存点検等で指摘がある			
2 外壁	☐ 塗仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル(ALC等) ☐ その他の外壁 () ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼製サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネガラス			☐ 鉄筋が見えているところがある ☐ 外壁から漏水がある ☐ 塗装の剥がれ ☐ タイルや石が剥がれている ☐ 大きな亀裂がある ☐ 窓・ドアの廻りで漏水がある ☐ 窓・ドアに錆・腐食・変形がある ☐ 外部手すり等の錆・腐食 ☐ 既存点検等で指摘がある			
3. 内部	内部劣化箇所②			内部劣化箇所③			
部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)			評価	
4 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	☐ 老朽改修 ☐ エコ改修 ☐ トイレ改修 ☐ 法令適合 ☐ 校内LAN ☐ 空調設置 ☐ 障害児等対策 ☐ 防犯対策 ☐ 構造体の耐震対策 ☐ 非構造部材の耐震対策 ☐ その他、内部改修工事						
5 電気設備	☐ 分電盤改修 ☐ 配線等の敷設工事 ☐ 昇降設備保守点検 ☐ その他、電気設備改修工事						
6 機械設備	☐ 給水配管改修 ☐ 排水配管改修 ☐ 消防設備の点検 ☐ その他、機械設備改修工事						
7 設備情報	トイレのドライ化 太陽光発電 エレベーター 点字ブロック スロープ 木質化 屋上緑化 多目的トイレ 手すり						

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項があれば、該当部位と指摘内容を記載)

健全度
 0 / 100点

【評価指標】

目視による評価 (屋根・屋上、外壁)			経過年数による評価 (内部仕上、電気設備、機械設備)		
評価	基準		評価	基準	
良好 ↑ 劣化	A	おおむね良好	良好 ↑ 劣化	A	20年未満
	B	部分的に劣化 (安全上・機能上：問題なし)		B	20～40年
	C	広範囲に劣化 (安全上・機能上：不具合発生の兆し)		C	40年以上
	D	早急に対応する必要がある		D	経過年数に関わらず 著しい劣化事象がある

図：評価指標

【健全度の算定】

健全度とは、各建物の5つの部位について劣化状況を4段階で評価し、100点満点で数値化した評価指標です。部位のコスト配分を下表のように定め、健全度を100点満点で算定します。

表：部位の評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

表：部位のコスト配分

部位	コスト配分
屋根・屋上	5.1
外壁	17.2
内部仕上	22.4
電気設備	8.0
機械設備	7.3
合計	60.0

- 計算例：総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷ 60（コスト配分合計）

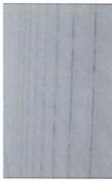
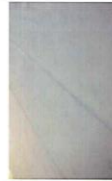
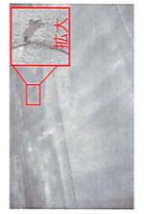
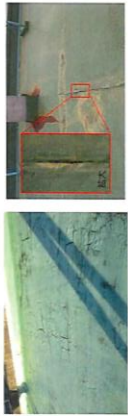
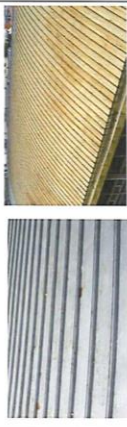
表：計算例

部位	評価		評価点例		コスト配分		配分評価点
屋根・屋上	C	→	40	×	5.1	=	204
外壁	D	→	10	×	17.2	=	172
内部仕上	B	→	75	×	22.4	=	1,680
電気設備	A	→	100	×	8.0	=	800
機械設備	C	→	40	×	7.3	=	292
計							3,148
							÷60
健全度							52

※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示します。

出典：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

【評価基準：屋根・屋上】

目視状況を写真事例に照らしてA、B、C、Dの4段階で評価する。					劣化	
仕様	評価	良好				D
		A	B	C	C	
アスファルト 保護防水		 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ、変質、排水不良、目地シーリングの損傷がある。	 広範囲に、ひび割れ、変質、排水不良、土砂の堆積、雑草、目地シーリングの損傷が見られ、最上階天井に漏水がある。	 広範囲に、損壊、幅広のひび割れ、排水不良があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	
アスファルト 露出防水		 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ふくれ、しわ、変質（摩耗）、排水不良がある。	 広範囲に、ひび割れ、変質（摩耗）、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水がある。	 広範囲に、破断、損壊、下地露出、幅広のひび割れがあり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	
シート 防水		 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ふくれ、しわ、変質（摩耗）、排水不良がある。	 広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質（摩耗）、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水がある。	 広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	
塗膜防水		 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的にふくれ、しわ、変質（スポンジ状）、排水不良がある。	 広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質（摩耗）、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水がある。	 広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	
金属板 (長尺、折板、平葺き)		 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、塗装のはがれ、さび、変質、シーリング材のひび、金物のさびがある。	 広範囲に、塗装のはがれ、さび、変質、シーリング材のひび、取付金物のさび、部分的な腐食・損壊があり、最上階天井に漏水がある。	 広範囲に、さび、はがれ、腐食、取付金物の損壊があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。	

《解説》

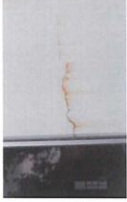
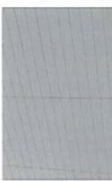
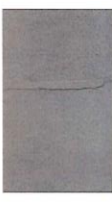
《点検項目》

- ✓ 最上階の天井において、降雨時やその翌日の雨漏りがないか。または、雨漏りが原因と思われるシミやカビがないか。
- ✓ 防水面において、膨れ・割れ・破れ・穴開きなどがないか。
- ✓ 金属屋根根根においては、錆・損傷・腐食などがないか。
- ✓ 上記のような劣化事象の箇所数を記入。

《点検の留意点》

- ✓ ルーフドレイン（屋上排水口）や排水溝は、緩い勾配がつけられている屋上で、最も低い部分で、土砂などが溜まりやすくなっており、ここが詰まると屋上に水溜りができてしまい、劣化が進み、漏水が発生する恐れがある。
- ✓ 目視だけでなく歩行により、浮きや水ぶくれ等がないか確認する。
- ✓ パラペット立上り部分の防水端部で、剥がれ等がないか確認する。
- ✓ 屋内運動場の屋根は、容易に登れない場合は隣接する校舎の屋上等から観察する。
- ✓ 1箇所劣化事象だけでなく、全体の経年状況等を踏まえる。
- ✓ 現状のまま放置すると、他の場所でも同じように劣化が進行する可能性がある場合は評価を1段階引き下げる。
- ✓ 現状として、降雨時に複数箇所雨漏りしている場合をD評価とする。判断を雨漏り痕で行う場合は概ね10箇所以上をD評価とする。ただし、屋上防水は改修済み、天井ボードは既存のままとなっている学校が多く、見極める必要がある。

【評価基準：外壁】

目視状況を写真事例に照らしてA、B、C、Dの4段階で評価する。					劣化	
評価 仕様	A	B	C	D		
塗り 仕上げ	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ・変質・浮き・さび汁がある。	 広範囲に、ひび割れ・亀甲状のひび割れ・変質・浮きがれ・さび汁があり、小規模な漏水がある。	 広範囲に、剥落・爆裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。		
タイル張り 石張り	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひびがある。	 広範囲に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひびがあり、小規模な漏水がある。	 広範囲に、剥落・爆裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。		
金属系 パネル	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、さび・変質・シーリング材のひびがある。	 広範囲に、さび・変質・シーリング材のひび・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。	 広範囲に、さび・腐食・ぐらつき・取付金物の腐食があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。		
セメント系 パネル	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ・変質・欠損・シーリング材のひびがある。	 広範囲に、ひび割れ・変質・シーリング材のひび・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。	 欠落・ぐらつき・取付金物の腐食・シーリング材の欠落があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。		
窓 (サッシ)	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、変形・変質・シーリング材の硬化。	 全体的に、変形・変質・さび・シーリングの硬化・ひび割れが見られる。	 全体的に腐食・損壊・開閉不良があり、漏水がある。		

《解説》

《点検項目》

- ✓ 外壁において、コンクリートが剥落し、鉄筋が露出している箇所はないか。
- ✓ 外壁の室内側において、雨漏りと思われるシミ垂れや塗装の剥がれがないか。
- ✓ また、降雨時や翌日に床面に水溜りができていないか。
- ✓ 外装材（モルタル・タイル・吹き付け材などの仕上げ材）の亀裂、浮き、剥離、ひび割れ及び破損などがないか。
- ✓ 建具枠、蝶番などの腐食、変形、ぐらつきなどがないか。
- ✓ 窓枠と外壁との隙間に施されているシーリング材に硬化、切れ、剥れなどがないか。
- ✓ 上記のような劣化事象の箇所数を記入。

《点検の留意点》

- ✓ 目視によって外壁の状況を確認する。
- ✓ 大きな損傷、変形、腐食などがないかを確認する。
- ✓ 外壁のタイル、モルタルなどに剥落やふくれ、浮きを発見した場合は、直ちに、周囲に立ち入りできないよう措置を行う。また、部分的に打診による浮きの確認をすることが望ましい。
- ✓ スチールサッシは、錆の影響による開閉不良・鍵の破損等について確認する必要がある。
- ✓ 現状として降雨時に複数箇所雨漏りしている場合はD評価とする。判断を雨漏り痕で行う場合は概ね10箇所以上をD評価とする。
- ✓ 鉄筋の露出は、概ね5箇所以上をD評価とする。

【評価基準：内部仕上、電気設備、機械設備】

部位の全面的な改修年からの経過年数を基本にA、B、C、Dの4段階で評価する。

内部仕上	該当する部位	CまたはDの事象(例)
内部仕上と設備は修繕・改修や点検の履歴を基に、経過年数により4段階で評価することを基本とする。ただし、現地目視により、右頁にあるような事象があれば、それらも加味して総合的に評価すること。 対象となる部位、及びC/D評価に該当する事象例を右表に示す。 《点検項目》 - 内部においては、床・壁・天井のコンクリートの亀裂やボード類の浮きや損傷などがないか。 - 天井ボードの落下や床シートの剥がれなどにより安全性が損なわれているところがないか。 - 設備機器においては、機器や架台に錆・損傷・腐食などがないか。 - 設備機器に漏水・漏油などがないか。 - 給水設備においては、使用水に赤水や異臭がないか。 - 機器から異音はしていないか。 - 保守点検や消防の査察などで是正措置等の指摘がないか。 《点検の留意点》 - 目視によって状況を確認する。大きな損傷、変形、腐食などがないかを確認する。 - 受変電設備等の高圧機器は、フェンスの外から目視により確認する。 - 施設管理者からのヒアリングも有効。 - 目視で評価する場合、複数台あるうち、1台の機器の劣化事象だけで判断するのではなく、設備全体として評価する。	床、壁、天井 - 内部開口部(扉、窓、防火戸) - 室内表示、手すり、固定家具など - 照明器具、衛生器具、冷暖房器具	● 内部仕上げと設備機器について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年数を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例) - 特定の教室のみの改修 - 天井張替え、壁の塗り替え、照明器具交換など、部位、機器のみの改修工事 ● 広範囲(25%以上の面積)または随所(5か所以上)に劣化事象がみられる場合は、評価を1段階下げることが目安とする。 天井材の落下・剥がれ 床のひび割れ 床仕上の剥がれ
電気設備	建物内の分電盤・配線・配管(電灯・コンセント設備)(弱電設備) 受変電設備、自家発電設備、幹線設備は、学校施設の共用設備のため対象外とする。	● 建物内の分電盤・配線・配管について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年数を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例) - 受変電設備の更新 - 防災設備、放送設備など、単独設備の更新 (評価例) - 視聴覚室やコンピューター室などの改修(整備)はしているが、他の部分は40年以上経過している場合は、C評価
機械設備	建物内の給水配管・給湯配管・排水配管・ガス配管 受水槽、高置水槽、浄化槽、各種ポンプ、屋外配管は、共用設備のため対象外とする。	● 建物内の給水配管・給湯配管・排水配管について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年数を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例) - 部分的な修繕等 (評価例) - 給水配管の更新済みで、排水配管は40年以上経過している場合は、C評価 - 給排水配管を一度も更新せず、40年以上経過している場合は、D評価

② 老朽化状況の実態

現地の目視評価を踏まえた劣化状況による建物の健全度について、評価結果を以下に示します。

表：劣化状況（小学校）

建物基本情報														構造躯体の健全性							劣化状況評価					備考
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟 番号	固定資産 台帳番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点満 点)		
						学校 種別	建物 用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/ ㎡)							試算上 の区分	
1	2371	安徳小学校	管理・普通教室棟	14-1		小学校	校舎	RC造	4	2,757	1978	S53	41	旧	済	-	H23	24.6	長寿命	A	A	A	A	A	100	H26 大規模改造
2	2371	安徳小学校	特別・普通教室棟	14-2		小学校	校舎	RC造	4	1,156	1981	S56	38	旧	済	-	H23	24.6	長寿命	A	A	A	A	A	100	H26 大規模改造
3	2371	安徳小学校	配膳室棟	14-3		小学校	その他	RC造	1	27	2011	H23	8	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	-	100		
4	2371	安徳小学校	屋内運動場	15		小学校	体育館	RC造	2	873	1982	S57	37	新	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77	H28 屋根改修	
5	2371	安徳小学校	プール付属室	19		小学校	その他	RC造	1	54	1998	H10	21	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84		
6	2371	安徳小学校	プール付属室	20		小学校	その他	RC造	1	34	1998	H10	21	新	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82		
7	2371	安徳小学校	給食室・特別教室棟	24		小学校	校舎	RC造	2	574	2012	H24	7	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
8	2371	安徳小学校	エレベーター棟	25		小学校	その他	S造	4	67	2012	H24	7	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
9	2371	安徳小学校	配膳用シャフト棟	26		小学校	その他	S造	4	27	2012	H24	7	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	-	100		
10	2372	南畑小学校	教室棟	1		小学校	校舎	RC造	2	398	1968	S43	51	旧	済	済	H21	24.5	長寿命	B	B	B	B	B	75	H4 大規模改造
11	2372	南畑小学校	給食室	3		小学校	その他	RC造	1	92	1972	S47	47	旧	-	-	-	要調査	B	B	C	C	D	49		
12	2372	南畑小学校	屋内運動場	4		小学校	体育館	RC造	2	874	1980	S55	39	旧	済	-	H21	20.6	長寿命	B	B	B	B	B	75	
13	2372	南畑小学校	多目的室棟	7		小学校	校舎	RC造	3	697	1999	H11	20	新	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82		
14	2372	南畑小学校	プール付属室	8		小学校	その他	RC造	1	85	2001	H13	18	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
15	2372	南畑小学校	プール機械室(1F+地下)	9		小学校	その他	RC造	2	35	2001	H13	18	新	-	-	-	長寿命	A	C	A	A	A	83		
16	2372	南畑小学校	管理教室棟	10		小学校	校舎	RC造	2	1,226	1970	S45	49	旧	済	済	H21	24.5	長寿命	B	B	B	B	B	75	H4 大規模改造
17	2373	岩戸小学校	普通教室棟	1		小学校	校舎	RC造	2	1,058	1966	S41	53	旧	済	-	H19	16.4	長寿命	A	A	A	A	A	100	H27 大規模改造
18	2373	岩戸小学校	普通教室棟・特別教室棟	10		小学校	校舎	RC造	3	1,719	1982	S57	37	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	H29 大規模改造	
19	2373	岩戸小学校	屋内運動場	11		小学校	体育館	RC造	2	874	1982	S57	37	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75		
20	2373	岩戸小学校	プール付属室	13		小学校	その他	S造	1	76	1983	S58	36	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75		
21	2373	岩戸小学校	特別教室棟・給食室	14		小学校	校舎	RC造	3	1,839	2017	H29	2	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
22	2375	岩戸北小学校	教室棟	1-1		小学校	校舎	RC造	3	810	1974	S49	45	旧	済	済	H11	23.4	長寿命	B	A	A	A	A	98	H12 大規模改造
23	2375	岩戸北小学校	教室棟	1-2		小学校	校舎	RC造	3	476	1975	S50	44	旧	済	済	H11	23.4	長寿命	B	A	A	A	A	98	H12 大規模改造
24	2375	岩戸北小学校	給食室	2		小学校	その他	RC造	1	150	1974	S49	45	旧	済	済	H12	21.9	長寿命	B	A	A	A	A	98	H17 大規模改造
25	2375	岩戸北小学校	屋内運動場	5-1		小学校	体育館	RC造	2	866	1975	S50	44	旧	済	-	H8	21.7	長寿命	B	B	B	B	B	75	H8 大規模改造
26	2375	岩戸北小学校	屋内運動場	5-2		小学校	体育館	RC造	1	70	1997	H9	22	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75		
27	2375	岩戸北小学校	屋内運動場	5-3		小学校	体育館	RC造	1	83	1997	H9	22	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75		
28	2375	岩戸北小学校	プール付属室	7		小学校	その他	RC造	1	79	1977	S52	42	旧	-	-	-	要調査	A	B	C	C	D	52		
29	2375	岩戸北小学校	教室棟	11-1		小学校	校舎	RC造	3	439	1978	S53	41	旧	済	済	H12	21.9	長寿命	A	B	A	A	A	93	H13 大規模改造
30	2375	岩戸北小学校	教室棟	11-2		小学校	校舎	RC造	3	475	1979	S54	40	旧	済	済	H12	21.9	長寿命	A	A	A	A	A	100	H13 大規模改造
31	2375	岩戸北小学校	教室棟	13		小学校	校舎	RC造	3	884	1980	S55	39	旧	済	済	H13	31.4	長寿命	A	A	B	B	B	84	
32	2375	岩戸北小学校	教室棟	15-1		小学校	校舎	RC造	3	415	1974	S49	45	旧	済	済	H11	24	長寿命	A	A	A	A	A	100	H12 大規模改造
33	2375	岩戸北小学校	教室棟	15-2		小学校	校舎	RC造	3	1,097	1975	S50	44	旧	済	済	H11	24	長寿命	B	B	A	A	A	91	H12 大規模改造
34	2375	岩戸北小学校	渡り廊下	16-1		小学校	校舎	RC造	3	191	1975	S50	44	旧	済	済	H12	21.9	長寿命	B	A	A	A	-	98	H13 大規模改造
35	2375	岩戸北小学校	昇降口	16-2		小学校	校舎	RC造	1	78	2001	H13	18	新	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	-	98		
36	2375	岩戸北小学校	給食室	17		小学校	その他	RC造	3	545	1975	S50	44	旧	済	済	H12	21.9	長寿命	A	A	A	A	A	100	H13 大規模改造
37	2375	岩戸北小学校	エレベーター	19		小学校	その他	S造	3	33	2001	H13	18	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100		
38	2375	岩戸北小学校	給食室	20-1		小学校	その他	RC造	1	93	2005	H17	14	新	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	A	98		

表：劣化状況（小学校）

建物基本情報															構造躯体の健全性										劣化状況評価					備考
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産 台帳番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		圧縮 強度 (N/㎠)	調査 年度	試験上 の区分	屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備	機 械 設 備	健全度 (100点 満点)			
						学校 種別	建物 用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	圧縮 強度 (N/㎠)	長寿命 判定												
39	2376	安徳北小学校	普通教室棟・特別教室棟	1		小学校	校舎	RC造	3	2,661	1975	S50	44	旧	済	済	H19	23	長寿命	B	A	A	A	A	98	H22 大規模改造				
40	2376	安徳北小学校	職員室	2		小学校	校舎	RC造	1	117	1975	S50	44	旧	済	済	H19	23	長寿命	B	A	A	A	A	98	H22 大規模改造				
41	2376	安徳北小学校	屋内運動場	5		小学校	体育館	RC造	2	890	1976	S51	43	旧	済	-	H9	22.1	長寿命	C	B	B	B	B	72	H9 大規模改造				
42	2376	安徳北小学校	プール付属室	6		小学校	その他	RC造	1	75	1977	S52	42	旧	-	-	-	要調査	B	B	C	C	D	49						
43	2376	安徳北小学校	普通教室棟	7		小学校	校舎	RC造	3	837	1980	S55	39	旧	済	-	H19	25.7	長寿命	A	A	A	A	A	100	H23 大規模改造				
44	2376	安徳北小学校	普通教室棟 特別教室棟	11		小学校	校舎	S造	2	867	2004	H16	15	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100						
45	2376	安徳北小学校	渡り廊下	12		小学校	校舎	RC造	3	134	1980	S55	39	旧	済	済	H19	23	長寿命	A	A	A	A	A	100	H22 大規模改造				
46	2376	安徳北小学校	普通教室棟・給食室	14		小学校	校舎	RC造	3	786	2009	H21	10	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100						
47	2377	片縄小学校	管理・普通教室棟	5		小学校	校舎	RC造	3	2,295	1983	S58	36	新	-	-	-	長寿命	A	B	B	B	B	77						
48	2377	片縄小学校	昇降口・渡り廊下	6		小学校	校舎	RC造	3	247	1983	S58	36	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84						
49	2377	片縄小学校	給食室	7-1		小学校	その他	RC造	3	183	1983	S58	36	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84						
50	2377	片縄小学校	普通教室棟	7-2		小学校	校舎	RC造	3	1,071	1983	S58	36	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84						
51	2377	片縄小学校	屋内運動場	9		小学校	体育館	RC造	2	874	1983	S58	36	新	-	-	-	長寿命	B	C	C	B	B	52						
52	2377	片縄小学校	プール付属室	11		小学校	その他	S造	1	80	1984	S59	35	新	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	72						
53	2377	片縄小学校	特別教室棟	13		小学校	校舎	RC造	3	668	1999	H11	20	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84						
54	2377	片縄小学校	渡り廊下	14		小学校	校舎	RC造	3	33	1999	H11	20	新	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	-	83						
55	2378	安徳南小学校	管理・特別・普通教室棟	1		小学校	校舎	RC造	3	2,134	1995	H7	24	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	H25 屋上防水					
56	2378	安徳南小学校	昇降口・渡り廊下	2		小学校	校舎	RC造	3	291	1995	H7	24	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	-	86						
57	2378	安徳南小学校	普通教室棟	3		小学校	校舎	RC造	3	2,371	1995	H7	24	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	H25 屋上防水					
58	2378	安徳南小学校	給食室	3-1		小学校	その他	RC造	1	183	1995	H7	24	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84						
59	2378	安徳南小学校	屋内運動場	4		小学校	体育館	RC造	2	919	1995	H7	24	新	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84						
60	2378	安徳南小学校	プール付属室	5		小学校	その他	S造	1	80	1995	H7	24	新	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75						
61	2378	安徳南小学校	普通教室棟増築部	9		小学校	校舎	RC造	3	642	2012	H24	7	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100						
62	2378	安徳南小学校	給食室増築部	10		小学校	その他	RC造	2	136	2017	H29	2	新	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100						

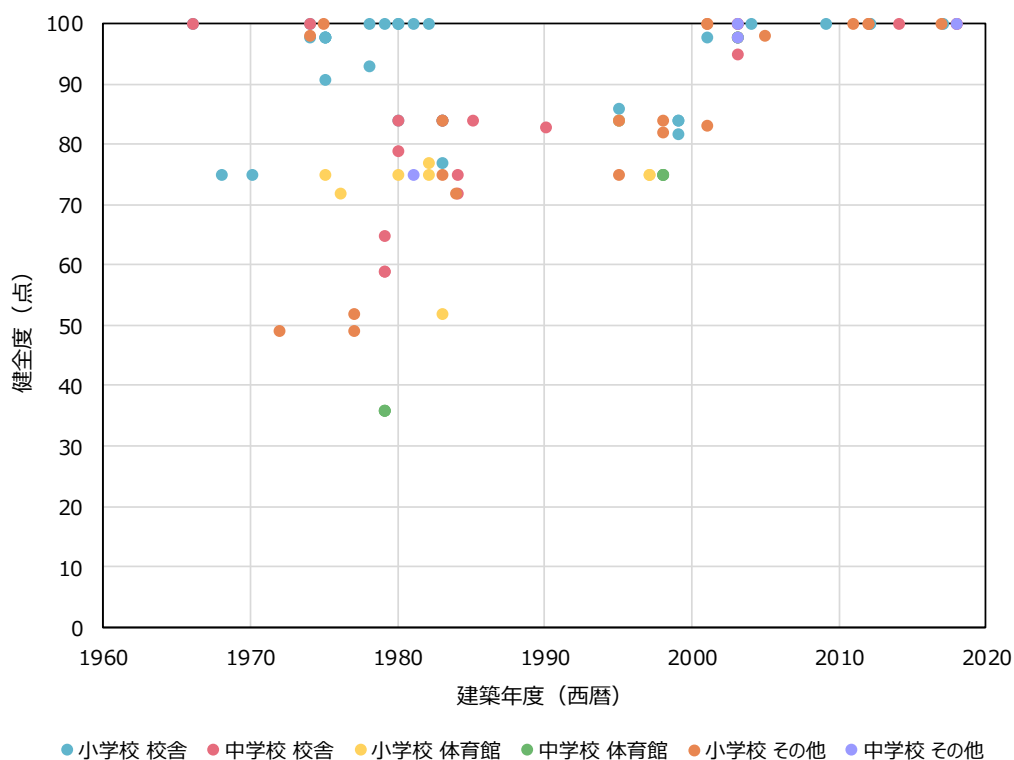
表：劣化状況（中学校）

建物基本情報														構造躯体の健全性				劣化状況評価					備考			
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産 台帳番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・ 屋上	外 壁	内 部 仕 上	電 気 設 備		機 械 設 備	健全度 (100点 満点)	
						学校 種別	建物 用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/mm ²)								試算上 の区分
63	4641	那珂川中学校	管理・普通教室棟	1		中学校	校舎	RC造	3	2,561	1966	S41	53	旧	済	済	H20	18.7	長寿命	A	A	A	A	A	100	S80 大規模改造 H30 長寿命化改良
64	4641	那珂川中学校	普通教室棟	8		中学校	校舎	RC造	3	1,536	1974	S49	45	旧	済	済	H20	22	長寿命	A	A	A	A	A	100	R1 長寿命化改良
65	4641	那珂川中学校	特別教室棟	12		中学校	校舎	RC造	3	1,134	1984	S59	35	新	-	-	H28	37.1	長寿命	B	B	B	B	B	75	
66	4641	那珂川中学校	2階廊下廊下	13		中学校	校舎	S造	1	127	1984	S59	35	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	-	72	
67	4641	那珂川中学校	屋内運動場(1F～3F)	19		中学校	体育館	RC造	2	1,250	1998	H10	21	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
68	4641	那珂川中学校	柔剣道場	20		中学校	体育館	RC造	2	521	1998	H10	21	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
69	4641	那珂川中学校	クラブ活動室	21		中学校	体育館	RC造	1	128	1998	H10	21	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75	
70	4641	那珂川中学校	プール・特別教室棟	24		中学校	校舎	RC造	3	1,117	2014	H26	5	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	
71	4641	那珂川中学校	昇降口増築部	27-1		中学校	校舎	S造	3	81	2018	H30	1	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	-	100	
72	4641	那珂川中学校	エレベーター棟	28		中学校	その他	RC造	3	28	2018	H30	1	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	-	100	
73	4643	那珂川南中学校	屋内運動場	2-1		中学校	体育館	RC造	2	1,177	1979	S54	40	旧	済	済	H21	29.6	長寿命	C	C	C	C	D	36	
74	4643	那珂川南中学校	屋内運動場	2-2		中学校	体育館	RC造	2	147	1979	S54	40	旧	済	済	H21	29.6	長寿命	C	C	C	C	D	36	
75	4643	那珂川南中学校	柔剣道場	3		中学校	体育館	RC造	2	508	1979	S54	40	旧	済	済	H21	29.6	長寿命	C	C	C	C	D	36	
76	4643	那珂川南中学校	管理・特別教室棟	4-1		中学校	校舎	RC造	3	529	1979	S54	40	旧	済	-	H21	27.6	長寿命	A	A	C	C	D	59	H20 防水改修
77	4643	那珂川南中学校	管理・特別教室棟	4-2		中学校	校舎	RC造	3	1,013	1980	S55	39	旧	済	-	H21	27.6	長寿命	A	A	B	B	B	84	H20 防水改修
78	4643	那珂川南中学校	特別教室棟	5		中学校	校舎	RC造	2	539	1980	S55	39	旧	済	-	H21	37	長寿命	C	A	B	B	B	79	
79	4643	那珂川南中学校	プール付風呂室	6		中学校	その他	RC造	1	112	1981	S56	38	旧	-	-	-	-	要調査	B	B	B	B	B	75	
80	4643	那珂川南中学校	普通教室棟	10		中学校	校舎	RC造	3	503	1983	S58	36	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	H20 防水改修
81	4643	那珂川南中学校	普通教室棟	11		中学校	校舎	RC造	3	562	1985	S60	34	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84	H20 防水改修
82	4643	那珂川南中学校	特別教室棟	12		中学校	校舎	S造	2	439	1990	H2	29	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82	
83	4643	那珂川南中学校	昇降口	15		中学校	校舎	RC造	3	690	1979	S54	40	旧	済	済	H21	27.8	長寿命	A	A	C	C	-	65	
84	4643	那珂川南中学校	普通教室棟	16		中学校	校舎	RC造	3	1,013	1979	S54	40	旧	済	-	H21	25.3	長寿命	A	A	C	C	D	59	H20 防水改修
85	4643	那珂川南中学校	特別支援学級棟	17		中学校	校舎	S造	2	638	2018	H30	1	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	
86	4644	那珂川北中学校	特別教室棟	1		中学校	校舎	RC造	2	944	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100	
87	4644	那珂川北中学校	多目的ホール	2		中学校	校舎	RC造	1	328	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	-	100	
88	4644	那珂川北中学校	普通教室棟	3		中学校	校舎	RC造	5	5,273	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	C	A	A	A	A	95	
89	4644	那珂川北中学校	屋内運動場	4		中学校	体育館	RC造	3	2,557	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	A	98	
90	4644	那珂川北中学校	柔剣道場(地下)	5		中学校	体育館	RC造	1	608	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	A	98	
91	4644	那珂川北中学校	プール機械室	6		中学校	その他	RC造	1	43	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	-	A	A	A	-	100	
92	4644	那珂川北中学校	プール付風呂室	7		中学校	その他	RC造	1	97	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	A	98	
93	4644	那珂川北中学校	屋内運動場(地下)	8		中学校	体育館	RC造	1	141	2003	H15	16	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	A	A	A	98	

小学校の対象建物全 62 棟の健全度の平均値は 87.1 点、健全度 50 点未満の建物は 2 棟あり、中学校では全 31 棟の平均値は 81.9 点、健全度 50 点未満の建物は 3 棟となっています。

耐震改修工事及び大規模改修工事を近年に行っている建物が多く、全体的には良好な状態である建物が多い状況です。

建築年度と健全度の関係をみると、全体的に建築年度が古いほど健全度が低く、新しくなるにつれて健全度が高いことが伺えます。



図：建築年と健全度の相関

(2) 学校施設の老朽化所見

現地調査の結果、学校施設等の建物は以下のような老朽化状態がみられます。

① 小学校 校舎

- ・ 築 40 年程度を経過した建物は、老朽化により大規模改造工事を実施しているため、比較的良好な状態です。
- ・ 築 40 年未満の建物は、部分的な劣化は見られますが、広範囲の劣化は見られません。

② 中学校 校舎

- ・ 那珂川中学校の築 40 年を経過した建物は、平成 30 年度と令和元年度に長寿命化改良工事を実施しているため、良好な状態です。また、築 10 年未満の建物は、劣化は見られず良好な状態です。
- ・ 那珂川南中学校の築 40 年を経過する建物は、平成 20 年度に防水改修を実施しているため、屋根・屋上や外壁に広範囲の劣化がほとんど見られず良好な状態です。しかし、内部仕上や電気設備、機械設備については、築 40 年が経過し建築時からの状態を保っているため、評価を下げています。
- ・ 那珂川北中学校は、平成 15 年に建築された比較的新しい建物であるため、劣化はほとんど見られず良好な状態です。

③ 小学校 体育館

- ・ 体育館は地域の避難所としての機能があり、旧耐震基準の建物は全て耐震補強を行っています。多くの体育館が建築後 30 年を経過しており、屋根・屋上、外壁ともに徐々に劣化が進行しています。

④ 中学校 体育館

- ・ 小学校の体育館と同様に地域の避難所となっており、旧耐震基準の建物は耐震補強を完了しています。
- ・ 那珂川南中学校の築 40 年を経過する建物は、屋根・屋上や外壁は広範囲の劣化が見られます。また、内部仕上や電気設備、機械設備は建築時からの状態を保っているため評価を下げています。
- ・ 築 30 年未満の建物は、経年による部分的な劣化は見られますが比較的良好な状態です。

⑤ 小学校 その他

- ・ 築 40 年を経過した建物は、劣化が徐々に進行しており、内部仕上や電気設備、機械設備については建築時からの状態を保っているため評価を下げています。

⑥ 中学校 その他

- ・ 築 30 年を経過したプール付属室は、劣化が徐々に進行しています。
- ・ エレベーター棟は、平成 30 年度に建築された新しい建物であるため、劣化は見られず良好な状態です。

第3章 学校施設等整備の基本方針

1. 学校施設の規模・配置計画等の方針

(1) 適正配置の方策

本市の学校施設は、小学校 7 校のうち小規模校 1 校、適正規模校 2 校、大規模校 4 校、中学校 3 校のうち適正規模校は 2 校、大規模校は 1 校と分類されます。

今後児童数は減少し、生徒数は一時的に増加しますが 2022 年をピークに微減すると予測されます。このため本市においては、学校規模の適正化の検討が課題となります。学校の規模が大きすぎる場合においても、小さすぎる場合においても教育上のデメリットが生じるため、こうした課題の解消をできるだけ図る必要があります。

表：学校別の児童数・生徒数、学級数（2018 年 5 月 1 日現在）

単位：人、クラス

小中学校	安德小学校	南畑小学校	岩戸小学校	岩戸北小学校	安德北小学校
児童数	411	74	242	743	773
学級数	16	8	12	27	28
(うち特別支援学級)	3	2	4	5	6
小中学校	片縄小学校	安德南小学校	那珂川中学校	那珂川南中学校	那珂川北中学校
児童数	544	716	447	658	486
学級数	23	25	14	22	16
(うち特別支援学級)	5	4	2	4	2

表：学校別の学級数による分類

	過小規模校 5学級以下	小規模校 6～11学級	適正規模校 12～18学級	大規模校 19～30学級	過大規模校 31学級以上
小学校	—	南畑小学校	安德小学校 岩戸小学校	岩戸北小学校 安德北小学校 片縄小学校 安德南小学校	—
	過小規模校 2学級以下	小規模校 3～11学級	適正規模校 12～18学級	大規模校 19～30学級	過大規模校 31学級以上
中学校	—	—	那珂川中学校 那珂川北中学校	那珂川南中学校	—

資料：那珂川市資料

表：学校の規模によるメリット・デメリット

	メリット	デメリット
小規模校 過小規模校	○ 児童・生徒と教師の距離が近く、一人一人への理解がより深まる。 ○ 意見や感想を発表できる機会が多くなる。 ○ 児童・生徒の特性に応じたきめ細やかな指導が可能である。 ○ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童・生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる。 ○ 児童・生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。 ○ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって利用できる。	● クラス替えが全部又は一部の学年でできない。 ● クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。 ● 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。 ● 集団性が必要な活動に支障がでる。 ● 専門の免許を有する教諭等による教科指導が困難である。 ● 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。 ● 人間関係が固定化されている。 ● 教員と児童・生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。
大規模校 過大規模校	○ 大人数の児童生徒の中で多様な考えに触れることができ、切磋琢磨する中で社会性が育成される。 ○ クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる。 ○ グループ学習等の多様な展開を行いやすい。 ○ 教科や部活動等、専門的な立場から指導を受けることができる。 ○ 学校行事等における児童・生徒の活動が活性化する。	● 個に応じたきめ細かな指導を行う上で、行き届かない部分について対策を講じる必要がある。 ● 教員集団として、児童・生徒一人ひとりの個性や行動を把握し、きめ細やかな指導を行うことが困難であり、実態把握に時間を要する。 ● 生徒指導面での対応が複雑になりやすい。 ● 児童・生徒一人あたりの校舎面積や運動場の面積が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある。

資料：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成 27 年 1 月）

(2) 配置計画の展望

本市は平成 27 年の国勢調査結果により人口が 5 万人を突破し、那珂川町から那珂川市へ変わりました。福岡市のベッドタウンとして発展を続け、人口ビジョンにおいても今後 10 年間は人口の増加が予想されています。

学校においては、平成 21 年度以降の児童・生徒数が微減での推移を続け、将来推計においては、児童数は減少、生徒数は一時的に増加しますが 2022 年をピークに微減すると予測されます。

これらを踏まえ、平成 8 年には安德南小学校、平成 16 年に那珂川北中学校が新設されました。それでも、小学校 4 校、中学校 1 校が大規模校であり、市南部に位置する小学校 1 校が小規模校に分類され、これらの学校の適正化が今後の課題となります。

小中学校の配置においては、市街地形成の観点から、市北部に小中学校が集中して存在することは必然的であるものの、再編による児童・生徒の通学距離延長や地域コミュニティのあり方など複合的な要因も考慮しながらの検討が必要です。

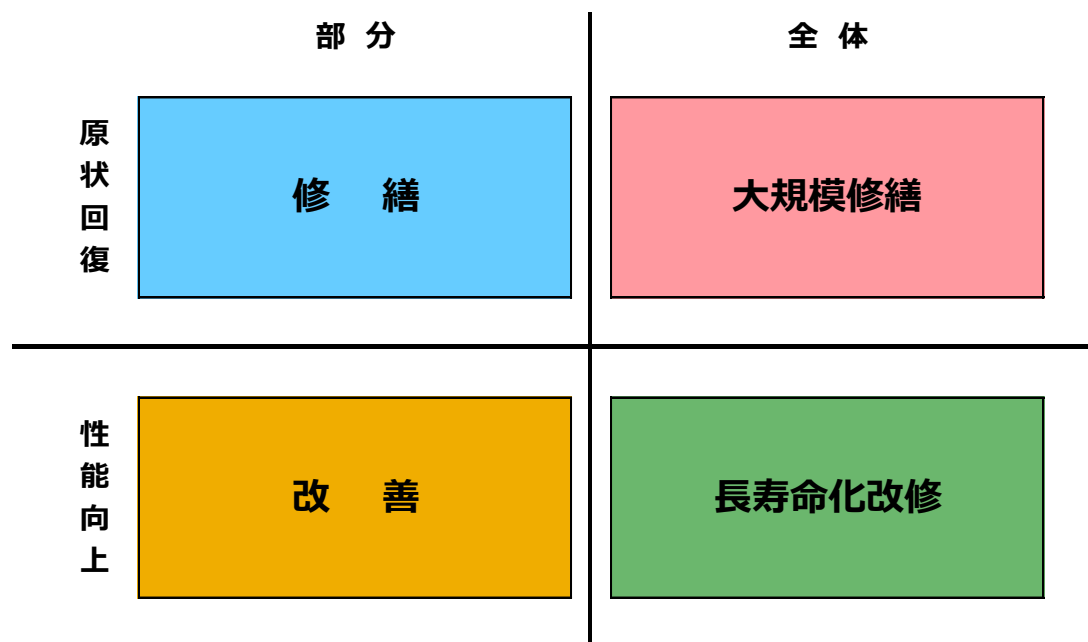
2. 改修等の基本的な方針

本市の学校施設等や設備の老朽化、不具合などの実態を踏まえ、「学校施設等の目指すべき姿」を持続的に実現していくための基本方針を次のように設定します。

(1) 長寿命化の方針

本市の学校施設等を整備していくにあたり、建物の老朽化に伴う維持管理コストが課題となります。本計画を策定するには、財政面を考慮した上での中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減、予算の平準化を実現するための対策が重要になっています。それには、建物を将来にわたって長く使い続けるために耐用年数を延ばすことを目的とした長寿命化改修があります。

一般に改修と言っても内容は様々であり、対象は部分なのか全体なのか、また改修内容は元に戻すだけなのか、機能や性能を上げるものなのかで 4 つの概念に整理されますが、「長寿命化改修」は建物全体を改修し、併せて性能向上を伴うものとなります。



資料：「学校施設の長寿命化改修の手引き」

ただし、中には次のように長寿命化に適さない施設もあります。

- ・ 劣化が激しく、改修に多額の費用がかかるため、改築の方が経済的に望ましい施設
- ・ 改築までの期間が短く長寿命化改修を行うと、維持に係る費用が高くなる施設
- ・ コンクリート強度が著しく低い施設（おおむね 13.5N/mm² 以下）
- ・ 校地環境または周辺環境の安全性が欠如している施設
- ・ 学校の適正配置など地域の実情により改築せざるを得ない施設

長寿命化改修では、基本的に建物の耐久性向上、建物の性能や機能を向上させるために工事を行います。内容として以下のようなものが挙げられます。

耐久性向上

- ◇ 構造躯体の経年劣化を回復するもの
 - ・ コンクリートの中性化対策や鉄筋の腐食対策 など
- ◇ 耐久性に優れた仕上材へ取り替えるもの
 - ・ 劣化に強い塗装・防水材等の使用
- ◇ 維持管理や設備更新の容易性を確保するもの
 - ◇ 水道、電気、ガス管等のライフラインの更新

性能向上

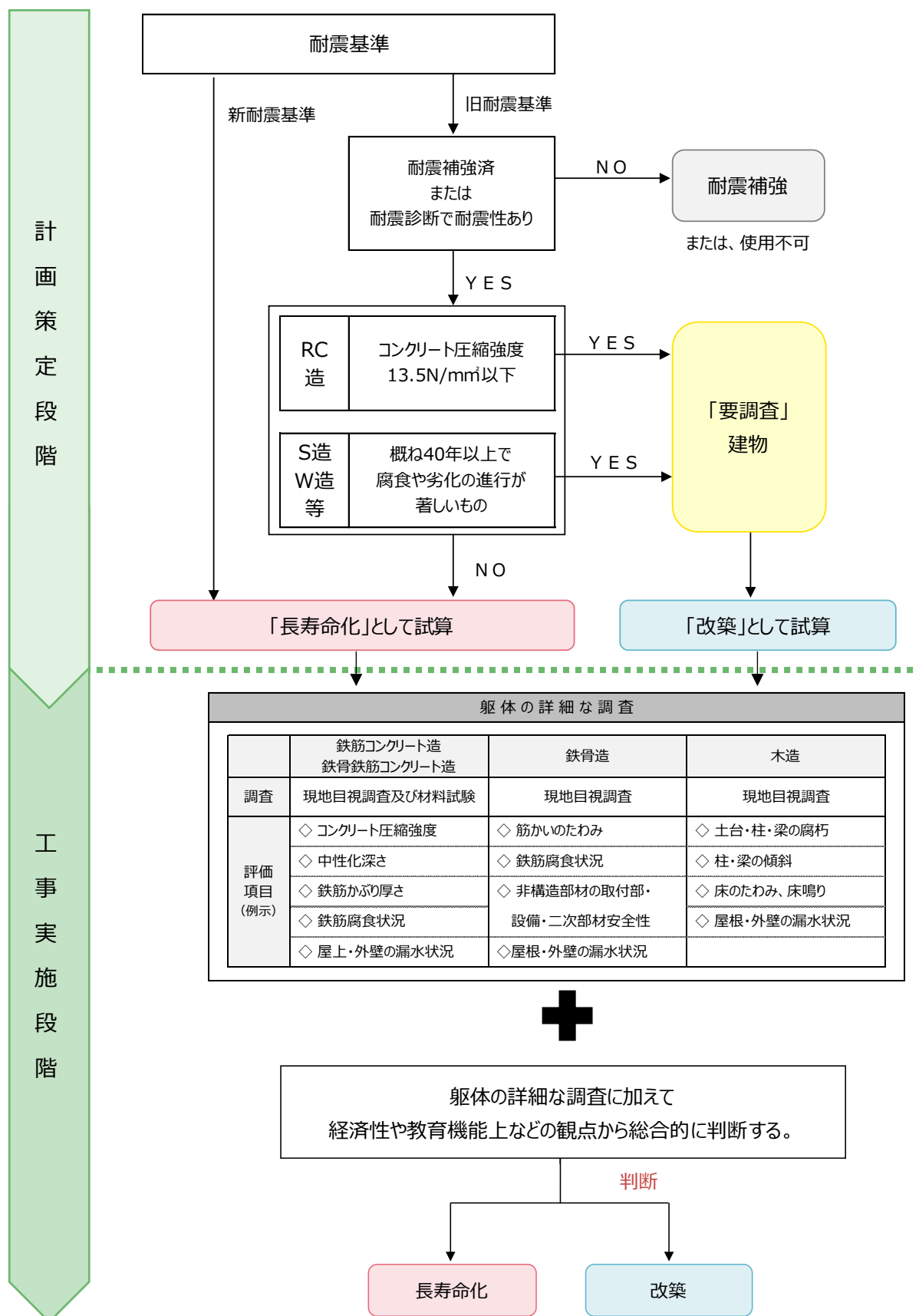
- ◇ 安全・安心な施設環境を確保するもの
 - ・ 耐震対策（非構造部材を含む）
 - ・ 防災機能の強化
 - ・ 事故防止・防犯対策 など
- ◇ 地域コミュニティの拠点形成を図るもの
 - ・ 防災機能の強化
 - ・ バリアフリー化
 - ・ 地域住民の利用を考慮した教室等の配置の変更 など
- ◇ 教育環境の質的向上を図るもの
 - ・ 近年の多様な学習内容・学習形態への対応
 - ・ 今後の学校教育や情報化の進展に対応可能な柔軟な計画
 - ・ 省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用
 - ・ バリアフリー化
 - ・ 木材の活用 など

さらに、改築と長寿命化改修には、それぞれ次のようなメリットとデメリットがありますが、長寿命化改修を行う方が、費用を大幅に縮減しつつ、改築と同等の効果が期待でき、費用対効果は非常に大きくなります。

表：改築と長寿命化改修のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
改築	○ 設計や施工上の制約が少ない。 ○ 高層化や地下階の拡大が容易に可能、設計や施工は比較的容易、耐震基準、法規などについては最新のものに対応は容易。	○ 廃棄物が大量に発生する。 ○ 既存建物の解体と廃棄に費用と時間がかかる。 ○ 工事に時間と費用がかかる。
長寿命化改修	○ 工期の短縮、工事費の縮減ができる。 ○ 廃棄物が少ない。	○ 設計及び施工上の制約が多い。 ○ 柱・耐力壁などの既存躯体を利用するための間取りの変更に制約が生じる場合がある。計画には十分な検討が必要。

○ 長寿命化の判定フロー



(2) 予防保全の方針

施設をできる限り長く使用するため、適切な維持管理を行っていくことが重要であり、そのための整備方法として、「事後保全」と「予防保全」の2つがあります。

「事後保全」は老朽化による劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行うもので、従来の施設管理の多くで行われていました。一方、「予防保全」は損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで機能・性能の保持・回復を図り、これにより突発的な事故が減少し、多額の費用の発生を抑えることができます。また、「予防保全」では、計画的な修繕を行うことで、施設に不具合が生じる前にメンテナンスを施し、従来の「事後保全」での整備と比較して施設を長く使用することができます。したがって、学校施設等の整備は今後「事後保全」から「予防保全」への転換を図る必要があります。

表：学校施設等の保全

保 全		建物や設備が完成してから取り壊すまでの間、その性質や機能を良好な状態に保つほか、社会・経済的に必要とされる性能・機能を確保し、保持し続けること。保全のための手段として、点検・診断・改修等がある。
	事 後 保 全	老朽化による不具合が生じた後に修繕等を行う、事後的な保全のこと。
	予 防 保 全	損傷が軽微である早期段階から、機能・性能の保持・回復を図るために修繕等を行う、予防的な保全のこと。なお、あらかじめ周期を決めて計画的に修繕等を行う保全のことを「計画保全」という。

(3) 目標使用年数の設定

学校施設等の鉄筋コンクリート造建物の法定耐用年数は 47 年となっていますが、これは税務上、減価償却を算定するために設定されたものです。構造物としての物理的な耐用年数はこれよりも長くなっています。社団法人日本建築学会の「建築物の耐久計画に関する考え方」では、建築物全体の望ましい目標使用年数として、鉄筋コンクリート造の学校の場合、普通品質で 50～80 年、高品質では 80～100 年とされています。

これを踏まえ、学校施設等の目標使用年数は、「那珂川町公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月策定）」に基づき、**70 年**と設定します。なお、各施設の建築時期は、財政負担の関係上、学校施設全体の事業量について平準化を図る必要があるため、目標使用年数 70 年から若干前後させる設定も必要となる場合があります。

また、鉄骨造建物については、技術的な耐用年数の目安は特にありませんが、鉄骨構造における防錆やボルトの締め付け力が維持される限り使用可能であると想定し、鉄筋コンクリート造建物と同等の年数とします。

表：建物用途・構造に応じた望ましい目標耐用年数の級

用途	構造種別	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 れんが造	木造
		高品質 の場合	普通の 品質の場合	重量鉄骨		軽量鉄骨		
				高品質 の場合	普通の 品質の場合			
学校・官庁		Y 100以上	Y 60以上	Y 100以上	Y 60以上	Y 40以上	Y 60以上	Y 60以上
住宅・事務所・病院		Y 100以上	Y 60以上	Y 100以上	Y 60以上	Y 40以上	Y 60以上	Y 40以上
店舗・旅館・ホテル		Y 100以上	Y 60以上	Y 100以上	Y 60以上	Y 40以上	Y 60以上	Y 40以上
工場		Y 40以上	Y 25以上	Y 40以上	Y 25以上	Y 25以上	Y 25以上	Y 25以上

表：級に応じた目標耐用年数の区分

	目標耐用年		
	代表値	範囲	下限
Y 150	150年	120～200年	120年
Y 100	100年	80～100年	80年
Y 60	60年	50～80年	50年
Y 40	40年	30～50年	30年
Y 25	25年	20～30年	20年

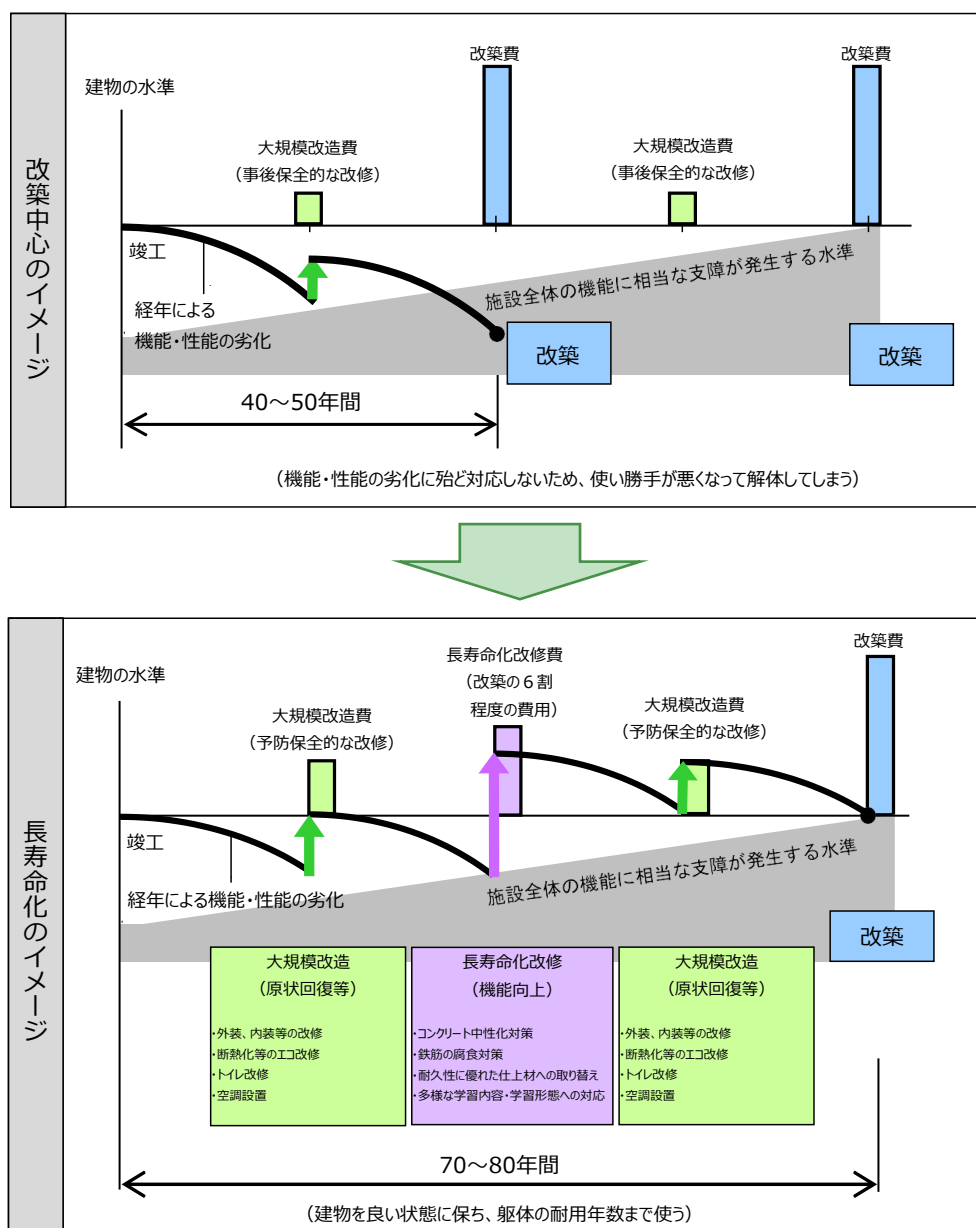
資料：建築物の耐久計画に関する考え方（日本建築学会）

(4) 改修周期の設定

学校施設等整備の方針を、改築が中心の整備から長寿命化を図る方向へと転換し、あらかじめ設定した目標使用年数まで使用することを目標に、適切な時期に改修を行います。

今までの改築中心では、劣化や破損等の大規模な不具合が生じた際の改修（事後保全的な改修）を行い目標とする使用年数で改築します。一方、長寿命化では、築 20 年経過後に原状回復のための改修（予防保全的な改修）を行い、目標使用年数の中間期（概ね 40 年後）に長寿命化改修を実施し、その後改築までの期間に再度原状回復のための改修を行うこととなります。

このように定期的に必要な改修を行うことで経年による劣化状況の回復だけでなく、学校施設等の機能・性能の低下を長期間放置することなく、社会的に必要とされる多様な学習形態の水準まで引き上げることができるように取り組みます。



図：改築中心から長寿命化への転換イメージ

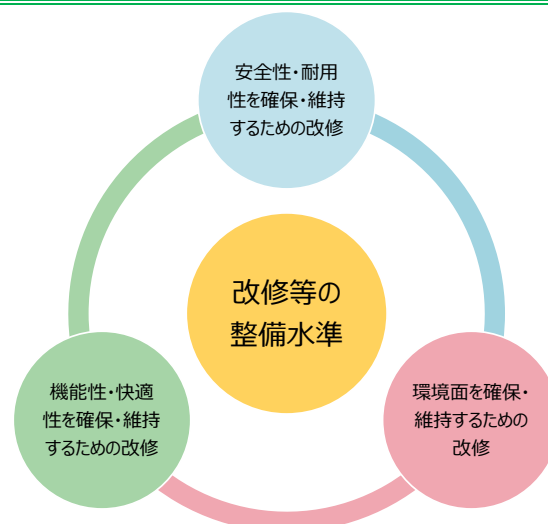
資料：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成 29 年 3 月 文部科学省）

第4章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準

1. 改修等の整備水準

長寿命化改修にあたっては、単に建築時の状態に戻すのではなく、「安全面・耐用性」「機能性・快適性」「環境面」を確保するための改修を行います。

「安全性・耐用性」「機能性・快適性」の改修では、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高め、維持管理コストの縮減、計画的な支出による財政の平準化を図ります。また、「環境面」の改修では多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的な要請に応じるための改修を行います。



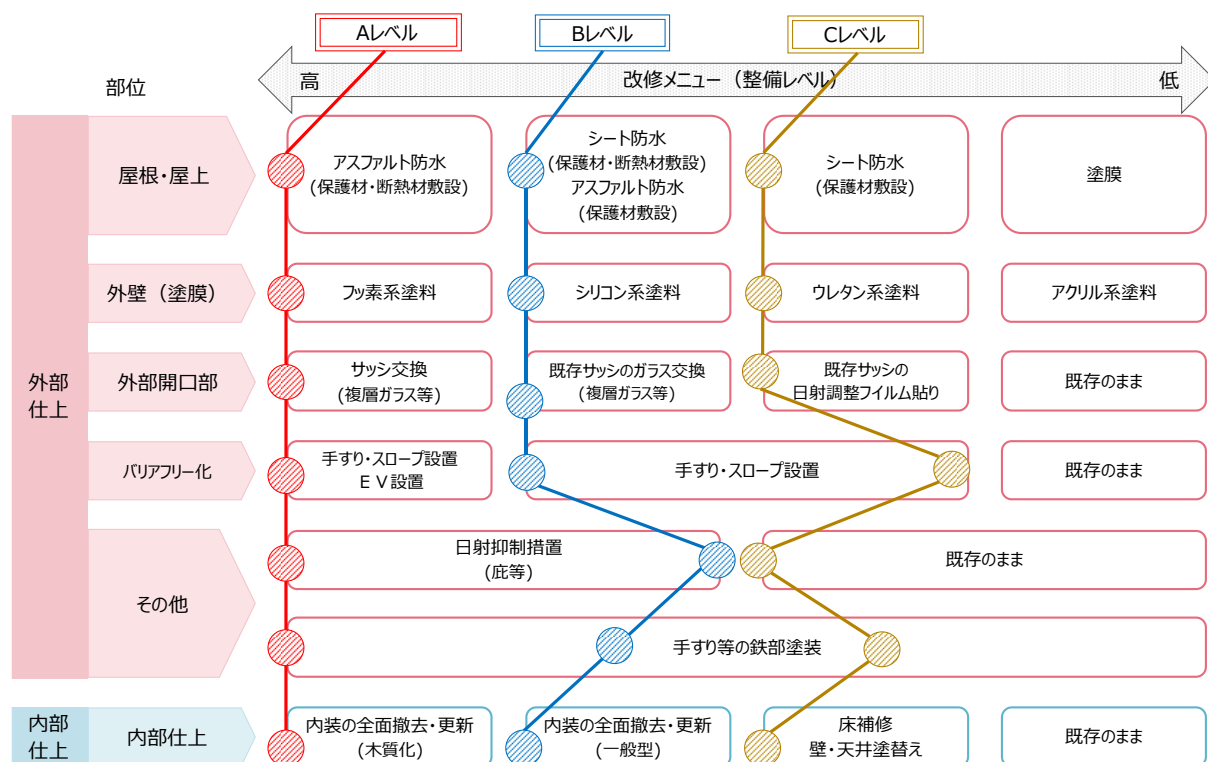
図：整備水準の考え方

表：改修工事等における整備内容例

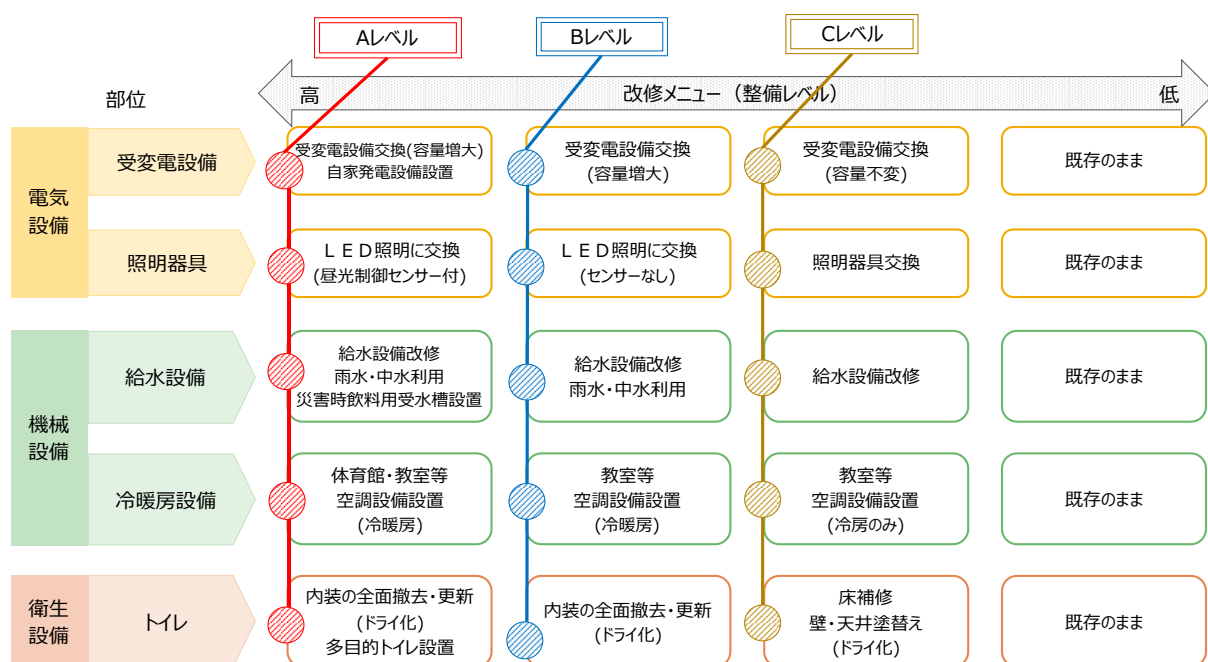
項 目	整 備 内 容
安全性・耐用性を確保・維持するための改修 構造体の長寿命化や内・外装仕上等の改修、設備更新や必要な防災・防犯機能の付加等	○ 外装（屋上防水、外壁仕上材、躯体のクラック、鉄筋、浮き補修等） ○ 屋上・屋根（防水改修等） ○ 内装（床、壁、天井、間仕切り等） ○ 非構造部材の耐震対策 ○ 防災機能 ○ 防犯対策・事故防止対策
機能性・快適性を確保・維持するための改修 機能性や快適性等、学校生活の場として必要な環境の確保・維持や、必要な社会ニーズに応じた機能付加等	○ 受変電、照明設備等更新 ○ 設備（空調、給排水等） ○ ICT 設備 ○ バリアフリー対応（段差の解消等） ○ トイレ改修（洋式化、乾式化）
環境面を確保・維持するための改修 断熱や遮音等による環境面の向上や省エネ化によるコスト削減等	○ 断熱性能の向上（壁、開口部等） ○ 遮音性能の向上（壁、開口部等） ○ 設備の高効率化（LED 化、エアコン設置等）

長寿命化改修では、整備水準を高めるほどコストは高くなりますが、建物性能の向上により建物寿命が延びたり、設備機能の向上により光熱水費の縮減につながります。

以下に示す整備水準において、Aレベルは省エネ型で整備水準が最も高く、Cレベルは従来の整備水準にほぼ相当します。整備水準のBレベルを基本レベルとして設定しますが、現在の仕様、建物の劣化状況、改修内容等により整備水準を柔軟に変更します。また、ライフサイクルにおけるコストの試算を行い、予算の見通しを踏まえた整備水準の設定を行います。



図：校舎・体育館等の整備水準



図：主要な設備の整備水準

2. 維持管理の項目・手法等

(1) 維持管理の必要性

学校施設は、児童・生徒の学習・生活の場であるとともに、非常災害時には避難所として地域住民の避難生活の拠点としての役割も担うものであるため、平常時だけでなく災害時においても十分な安全性・機能性を有することが求められます。

しかし、建築当初には確保されているこれらの性能も、経年劣化等により必要な性能を満たさなくなっているおそれがあることから、学校施設等の管理者においては、当該施設が常に健全な状態を維持できるよう、法令等（建築基準法、消防法等）に基づいて定期的に点検を行い、必要な修理・修繕等を速やかに実施し、適切に維持管理を行っていくことが必要です。

また、学校施設を適切に維持管理するためには、施設の管理者と学校の教職員がそれぞれの立場に応じて点検等を行うことが重要です。

(2) 維持管理の項目

施設の維持管理については、関係者が日常的に点検を行い、建物の劣化状況等を早い段階で把握できるようにするとともに、建築基準法等に基づいて、「定期的な点検の実施」と「点検結果に基づく必要な修繕等」を行うことが義務付けられています。

「定期的な点検の実施」は、建築基準法や消防法に基づき定められた点検項目等について、専門的な知識を持った有資格者に、一定の期間ごとに点検を実施させることとなります。

表：建築基準法に基づく法定点検

点検する項目		点検内容	点検する項目		点検内容
A．敷地及び地盤			D．建築物の内部		
地盤		不陸、傾斜等	天井		劣化・損傷
敷地		排水	防火設備		劣化・損傷
敷地内通路		通路の確保、支障物	照明器具、懸垂物等		劣化・損傷
塀		劣化・損傷	居室の採光及び換気		劣化・損傷、作動
擁壁		劣化・損傷	E．避難施設等		
B．建築物の外部			居室から地上への通路		基準適合性
基礎・土台		劣化・損傷、沈下	廊下、出入口		物品放置
外壁	躯体等	劣化・損傷	避難上有効なバルコニー		劣化・損傷
	外装仕上材	劣化・損傷	階段		劣化・損傷
	窓サッシ等	劣化・損傷	排煙設備等	防煙壁	劣化・損傷
C．屋上及び屋根				非煙設備	作動、排煙口
屋上面、屋上周り		劣化・損傷	非常時の設備等	進入口等	維持保全
機器及び工作物		劣化・損傷		照明装置	劣化・損傷
D．建築物の内部			F．その他		
防火区画		劣化・損傷	特殊構造等（免震構造等）		劣化・損傷
内壁		劣化・損傷	避雷設備		劣化・損傷
床		劣化・損傷	煙突		劣化・損傷

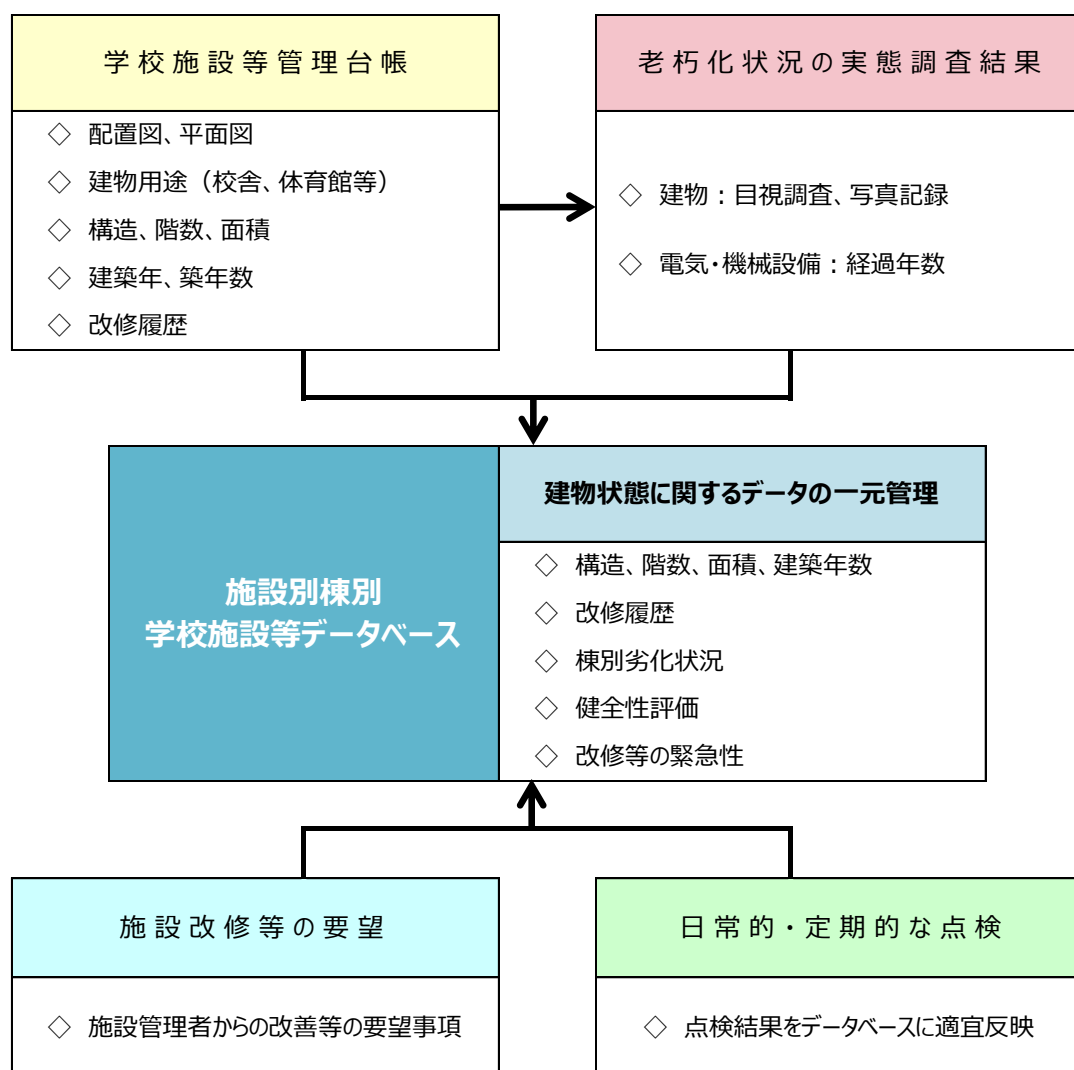
また、日常的に維持管理を行うことで、建物の劣化状況を詳細に把握できるとともに、より早く異常に気付くことができるため、施設の状況に応じた維持、予防保全による改修の内容や時期の検討が早期に可能となります。

表：維持管理のための点検

点検分野	項目	内容	期間	点検者
日常的な 維持管理の ための点検	清掃	○ 汚れを除去すること及び汚れを予防することにより仕上材を保護し、快適な環境に保つための作業	毎日	各学校
	保守	○ 点検の結果に基づき、建築物等の機能の回復又は危険の防止のために行う消耗部品の交換、注油、塗装、その他これらに類する軽微な作業	毎日	各学校
	日常点検	○ 目視、聴音、触接等の簡易な方法により、巡回しながら日常的に行う点検 ○ 機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見	毎月	各学校
定期的な 維持管理の ための点検	自主点検	○ 機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画の作成	1 年	教育委員会
	法定点検	○ 自主点検では確認できない箇所や、法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検 ○ 当該点検を実施するために必要な資格又は特別な専門知識を有する者が定期的に行う点検	建築物 3 年 設備等 1 年	教育委員会
臨時的な 維持管理の ための点検	臨時点検	○ 日常、定期点検以外に行う臨時的な点検 ○ 建築物等の部分について、損傷、変形、腐食、異臭、その他の異常の有無を調査し、保守又はその他の措置が必要か否か判断	随時	各学校

(3) 点検・評価結果の蓄積

施設の予防保全管理に日常的に取り組む上で、建物の定期的な点検により老朽化の状況を把握し、改修履歴を含めた施設の情報をデータベース化し、随時更新していくことにより、長寿命化を図るための大規模改修を計画的かつ円滑に行うように努めます。



図：点検・評価結果のデータベース化（イメージ）

第 5 章 長寿命化の実施計画

1. 施設評価及び優先順位

(1) 施設評価

市内の小学校 62 棟、中学校 31 棟の合計 93 棟の建物に対して行った劣化状況評価の健全度で、劣化等が進み、健全度が 60 点未満となっている建物 9 棟について、健全度が低い方から並べると次のようになっています。

表：健全度 60 点未満の建物

順位	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	築年数	健全度 (点)
1	那珂川南中学校	屋内運動場	2-1	RC造	2	1,177	40	36
2	那珂川南中学校	屋内運動場	2-2	RC造	2	147	40	36
3	那珂川南中学校	柔剣道場	3	RC造	2	508	40	36
4	南畑小学校	給食室	3	RC造	1	92	47	49
5	安徳北小学校	プール付属室	6	RC造	1	75	42	49
6	岩戸北小学校	プール付属室	7	RC造	1	79	42	52
7	片縄小学校	屋内運動場	9	RC造	2	874	36	52
8	那珂川南中学校	管理・特別教室棟	4-1	RC造	3	529	40	59
9	那珂川南中学校	普通教室棟	16	RC造	3	1,013	40	59

(2) 改修等の優先順位

経過年数が健全度に影響することから、改修等を行う建物は、現段階で健全度の低い建物かつ建築年の古い建物から順次行うことを基本とします。これら、健全度 60 点未満の建物を優先して整備を推進します。

健全度が低い建物では、劣化状況調査で老朽化が進行していたり、設備等は建築後に一度も更新されていないため D 評価となっています。これらに対しては緊急性を要する建物として扱うため、5 年以内を目標に部位修繕を計画します。

2. ライフサイクルコストの算定

現在の学校施設等を今後も保有し続け、改修を行いながら耐用年数経過後に現在と同じ規模で改築を行うとした場合（事後保全型の維持・管理）と、適切な時期に長寿命化改修を行い、計画的に施設の長寿命化を図った場合（予防保全型の維持・管理）について、国のライフサイクルコスト（以下、L C C※）算出の考え方にに基づき算出します。

コストの算出は、長寿命化改修を実施せず建築後 50 年で改築する場合と、長寿命化改修を実施し建築後 70 年で改築する場合のそれぞれについて、当初の建築時点から次の改築までに要するコストについて比較・検討しています。

学校施設等のコスト試算にあたっては、国土交通省の資料による福岡県の「鉄筋コンクリート造（RC 造）の学校の校舎」における平成 26 年度から平成 30 年度までの工事費を参考に、単価の設定を行いました。

表：改築単価の設定根拠

施設名	工事費 (円)	延床面積 (㎡)	改築単価 (円/㎡)
校舎 ・ 体育館	①平成26年度（予定額） 30,899,670,000	124,004	249,183
	②平成27年度（予定額） 22,418,100,000	91,900	243,940
	③平成28年度（予定額） 19,482,380,000	72,652	268,160
	④平成29年度（予定額） 11,087,550,000	43,303	256,046
	⑤平成30年度（予定額） 14,750,190,000	57,639	255,906
	上記①～⑤の改築単価の平均値		254,647 ≒ 250,000 (円/㎡)

参考：国土交通省

「建築着工統計調査：第3表 着工建築物 用途別、構造別（建築物の数、床面積の合計、工事予定額）」
福岡県の鉄筋コンクリート造（RC造）の「学校の校舎」平成26年度～平成30年度

※ L C Cとは、建築物の企画設計段階、建設段階、運用管理段階及び解体再利用段階の各段階のコスト（費用）の総計のこと。

- 長寿命化型改善を実施しない場合 → コストは少ないが、使用年数も短い
- 長寿命化型改善を実施した場合 → コストは高いが、使用年数も長い

前頁で設定した改築単価を基に、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属エクセルソフト」（以下、「付属エクセルソフト」という）の割合を使用して、以下のように各施設の単価を設定しています。また、改築、長寿命化改修、大規模改造などコスト試算の条件設定を行っています。

表：試算のための単価設定

		校舎		体育館		その他	
		割合	設定単価	割合	設定単価	割合	設定単価
改築		100.0%	250,000 円/㎡	100.0%	250,000 円/㎡	100.0%	250,000 円/㎡
長寿命化改修		60.0%	150,000 円/㎡	60.0%	150,000 円/㎡	60.0%	150,000 円/㎡
大規模改造		25.0%	62,500 円/㎡	22.0%	55,000 円/㎡	25.0%	62,500 円/㎡
部位修繕	屋根・屋上	3.5%	8,750 円/㎡	3.0%	7,500 円/㎡	3.5%	8,750 円/㎡
	外壁	5.1%	12,750 円/㎡	3.5%	8,750 円/㎡	5.1%	12,750 円/㎡
	内部仕上	5.6%	14,000 円/㎡	5.6%	14,000 円/㎡	5.6%	14,000 円/㎡
	電気設備	4.0%	10,000 円/㎡	4.8%	12,000 円/㎡	4.0%	10,000 円/㎡
	機械設備	3.7%	9,250 円/㎡	1.7%	4,250 円/㎡	3.7%	9,250 円/㎡

表：コスト試算条件

	事後保全型（従来型）	予防保全型（長寿命化型）
基準年度	令和元（2019）年度 試算期間：基準年度の翌年度から40年間	
改築	50年	長寿命化70年（50年＋20年）
長寿命化改修	－	築40年目
大規模改造	20年	築20年目
部位修繕	－	C評価：10年以内 D評価：5年以内

※ コスト試算条件は付属エクセルソフトのプログラムで設定されている

前述の条件に基づき、付属エクセルソフトを使用して、40 年間の事後保全型（従来型）と予防保全型（長寿命化型）の維持・更新コストを算出しました。

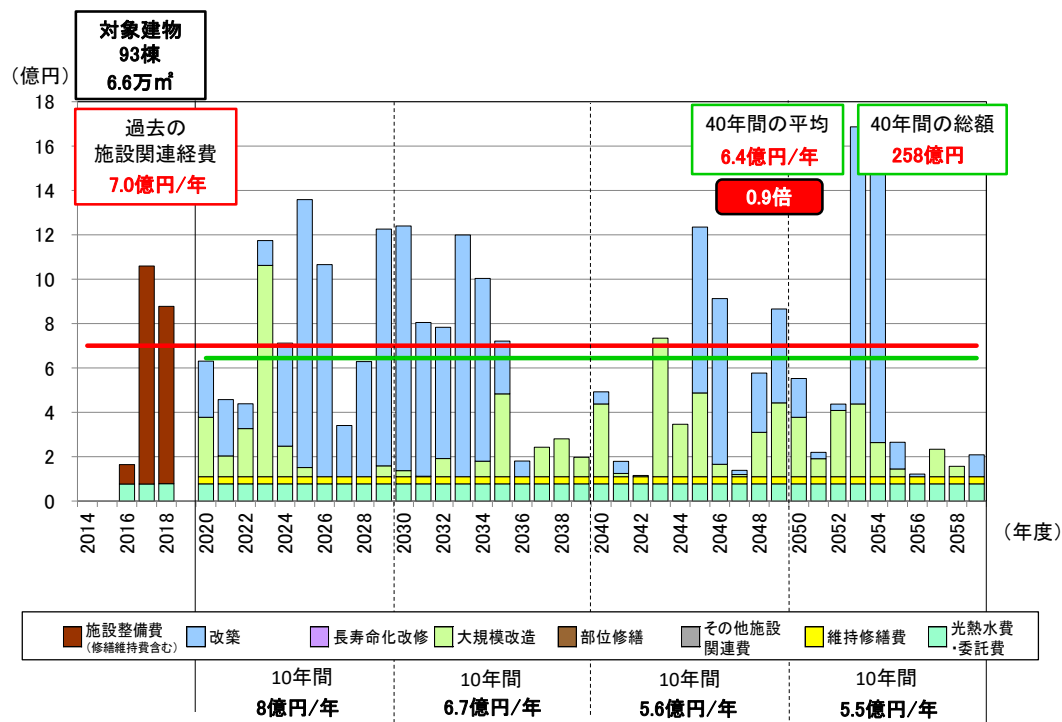
事後保全型（従来型）の維持・更新を行った場合、40 年間の累計で 258 億円の費用が発生し、平均で年間約 6.4 億円が必要となります。

一方、予防保全型（長寿命化型）で維持・更新を行った場合、40 年間の累計で 242 億円の費用が発生し、平均で年間約 6.1 億円が必要となり、事後保全型よりも 16 億円（年間 0.3 億円）の費用を縮減することが出来ます。

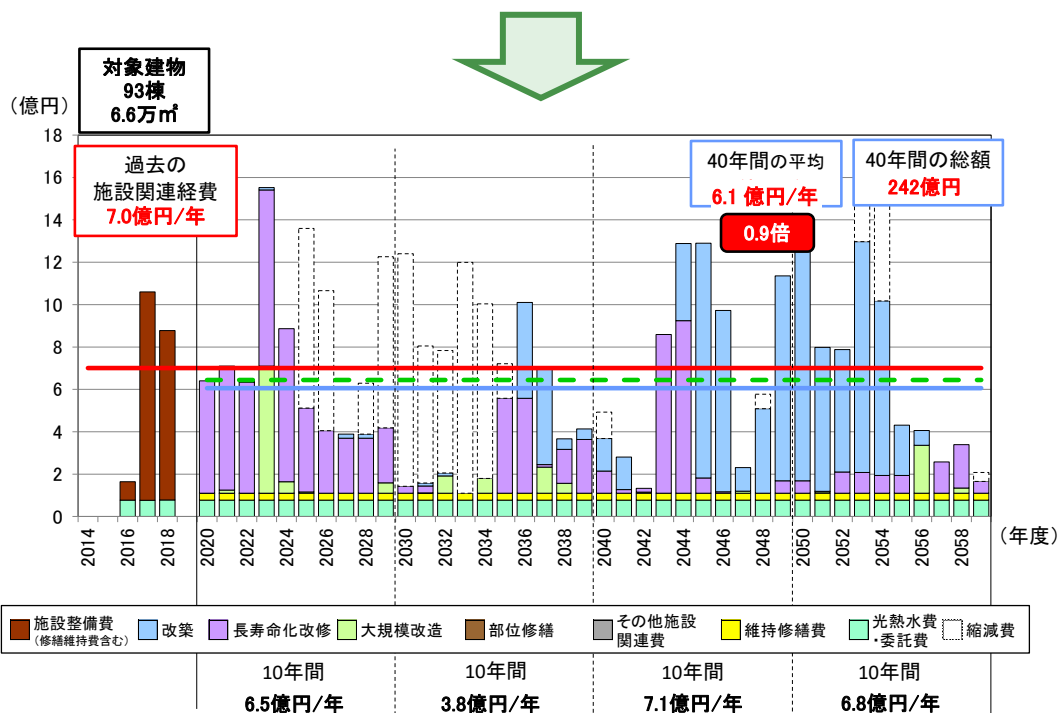
以上のことから、事後保全型の維持・管理から、予防保全型の維持・管理に移行することで、コストの削減を図ることができます。

表：維持・更新コストの結果比較

	2020～2029	2030～2039	2040～2049
事後保全型 （従来型）	80億円	67億円	56億円
予防保全型 （長寿命化型）	65億円	38億円	71億円
差 額	▲15億円	▲29億円	15億円
	2050～2059	40年間合計	40年間平均
事後保全型 （従来型）	55億円	258億円	6.4億円/年
予防保全型 （長寿命化型）	68億円	242億円	6.1億円/年
差 額	13億円	▲16億円	▲0.3億円/年



図：今後の維持・更新コスト（従来型）



図：今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

※ 計算上の理由により、10年間の平均コストの合計と30年間の総額は必ずしも一致しない

※ 2020年以降の「その他施設関連費」「維持修繕費」「光熱水費・委託費」は、2014年～2018年の平均額としている

◇ 2020年～2029年までのコスト算出の考え方

工種	内容
改築	2020年の時点で改築及び長寿命化改修の実施年数より古い建物は、
長寿命化	今後10年以内に改築又は長寿命化を実施するものとし、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
部位修繕	2020年の時点でC評価の部位：今後10年以内に修繕するものとし、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
	2020年の時点でD評価の部位：今後5年以内に修繕するものとし、該当コストの5分の1の金額を5年間計上

※以上の内容は付属エクセルソフトのプログラムで設定されている

3. 事業計画策定

(1) 今後 10 年間の事業計画

「第 5 次那珂川町総合計画 実施計画 平成 30 年度版（2019.4～2021.3）」の中で、学校の事業化が予定されています。それらは、パソコンや電子黒板の導入、LED 照明への改修、エレベーター設置等の教育環境の整備から、老朽化した給食室増改築工事やプールの改修工事、校舎及び屋内運動場の長寿命化工事等が予定されています。なお、調査の際に既存不適格箇所が生じた場合は、適宜現行法適合改修工事を実施します。また、「那珂川市公共施設等総合管理計画」では、既存建物を維持管理していくマネジメント方針となっています。

それらを踏まえ、予定された整備事業と老朽化状況調査により健全度が低い建物を対象に、長寿命化を施し延命措置を行うことを計画の基本とします。

10 年間の事業は、予定された整備年度を計画の優先とし、その他の整備は事業費の平準化を図ったうえで、学校施設等ごとに順次整備を行う計画とします。

また、今後の社会的情勢や市の財政状況に変化が生じた際には、事業計画の見直しを行います。

① 予定された整備事業

予定された整備事業は次の通りです。

表：整備事業予定

学校名	棟 名	予定年度	工事内容
南畑小学校	給食室	2020	増改築
	校舎	2029	長寿命化改修（1 期）
片縄小学校	校舎	2020	エレベーター設置
	屋内運動場	2020	床改修工事
	校舎	2021	改修工事（現行法適合改修）
	給食室	2023	増改築
	校舎	2022	増築
岩戸北小学校	校舎	2024	外壁等改修工事
	校舎	2027	長寿命化改修（1 期）
	校舎	2028	長寿命化改修（2 期）
	校舎	2029	長寿命化改修（3 期）
岩戸小学校	校舎	2025	放送設備改修
安徳北小学校	屋内運動場	2026	屋根等改修工事
那珂川中学校	校舎	2020	長寿命化改修（3 期）
那珂川南中学校	校舎	2021	校舎改修工事（トイレ改修など）、 軽量鉄骨造校舎外壁屋根改良
	校舎	2022-2023	増改築
	渡廊下	2023	改修工事
	校舎	2025	放送設備改修

なお、今後 10 年間の事業計画以降については、同様の考え方を踏まえ、次のとおり事業等を検討していきます。

学校名	棟 名	予定年度	工事内容
南畑小学校	校舎	2030	長寿命化改修（2期）
那珂川南中学校	校舎	2030	長寿命化改修（1期）
	校舎	2031	長寿命化改修（2期）
	校舎	2032	長寿命化改修（3期）

② その他の整備（部位修繕）計画

老朽化状況調査による評価を基に、C および D 判定箇所の部位修繕を行います。なお、C 判定は 10 年以内、D 判定は 5 年以内に工事を実施します。

さらに、調査・設計費を部位修繕費の 2 割増しとします。

③ 維持管理を行う建物

比較的新しい建物や健全度点数の高得点の建物については、この 10 年間で適切な維持管理を行い、次期計画で検討することとします。

(2) 実施単価

整備事業予定では、片縄小学校において校舎増築及び長寿命化改修の単価を 230,000 円/㎡と設定しています。それに伴い、体育館、その他施設を同様の単価とします。

部位修繕の単価設定は、文科省の付属エクセルソフトの比率を使用し、屋根・屋上は 8,050 円/㎡、外壁は 11,730 円/㎡、内部仕上は 12,880 円/㎡、電気設備は 9,200 円/㎡、機械設備は 8,510 円/㎡と設定しています。

表：実施単価設定

		校舎・体育館・その他		
		設定単価		
改築		230,000	円/㎡	
長寿命化改修		230,000	円/㎡	
部 位 修 繕	屋根・屋上	3.5%	8,050	円/㎡
	外壁	5.1%	11,730	円/㎡
	内部仕上	5.6%	12,880	円/㎡
	電気設備	4.0%	9,200	円/㎡
	機械設備	3.7%	8,510	円/㎡

(3) 事業推進のための財源

学校施設の改造、改修、改築を支援するため、国では「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律」等に基づき、公立学校施設の整備に関する補助事業を定め、支援を行っています。学校施設等の整備にあたっては、これらの補助事業を活用しながら必要な対応に取り組んでいきます。

表：国庫補助関係

項目	大規模改造事業	長寿命化改良事業	改築事業
趣旨	文部科学省の学校施設環境改善交付金における対象事業の一つ		
	大規模な改修を行う事業	長寿命化を目的とした改修を行う事業	改築を行う事業
	・ 経年により、通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置等	・ 建物の耐久性を高めるとともに、現代の社会要請に応じた施設への改修	・ 構造上危険な状態にある建物や、教育を行うのに著しく不適当な建物で特別の事情があるものの改築
交付金算定割合	33.3%	33.3%	33.3%
地方財政措置	なし	40.0%	40.0%
実質的な地方負担	66.7%	26.7%	26.7%
上限額	2億円	なし	なし
下限額	7,000万円	7,000万円	なし
補助要件	・ 建築後20年以上経過したもの	・ 耐力度調査の結果、基準点以下となったもの	・ 危険建物の改築 耐力度調査の結果、基準点以下となったもの
	・ 外部及び内部の両方同時に全面的に改造するもの		・ 不適格建物の改築 Is値がおおむね0.3に満たないもの、又は保有水平耐力に係る指標（q）の値がおおむね0.5に満たないもの

資料：学校施設の長寿命化計画策定に係る手引き（平成 27 年 4 月）文部科学省

第6章 長寿命化計画の継続的な運営方針

1. 情報基盤の整備と活用

(1) 施設カルテ及び建物目視調査票の作成

本計画を策定するにあたって収集した学校施設等の基礎資料や、屋根・屋上、外壁、内部等の建物目視調査結果を、以下のような構成で施設カルテとして作成しています。

表：施設カルテの構成

【学校施設別】

図面等	施設全景写真、位置図、施設配置図
施設状況	学校種別、所管課、所在地、延床面積、校地面積、避難場所指定、避難場所収容可能人員、施設保有状況、土地保有状況、複合施設区分
運営情報	運営方法、学校規模（規模分類、児童・生徒数、学級数）
コスト状況	年度別経常経費 （施設整備費、光熱水費、修繕費、委託費、年間コスト）

【棟別】

基本情報		施設名、棟名、調査番号・棟番号、学校種別、建物用途、建築年度・築年数、構造、階数、延床面積、耐震基準、耐震診断、耐震補強
設備情報		生活環境（トイレのドライ化、木質化）、省エネ化（太陽光発電、屋上緑化）、バリアフリー（エレベーター、多目的トイレ、点字ブロック、手すり、スロープ）
改善履歴		年度、種別、工事名称、費用
評価表	外部	劣化状況（屋根・屋上、外壁）、劣化状況部位写真
	内部	劣化状況（床・壁・天井、内部建具、間仕切等、照明器具、エアコン）、劣化状況部位写真
	電気・機械	—

(2) データベース及び簡易マニュアルの作成

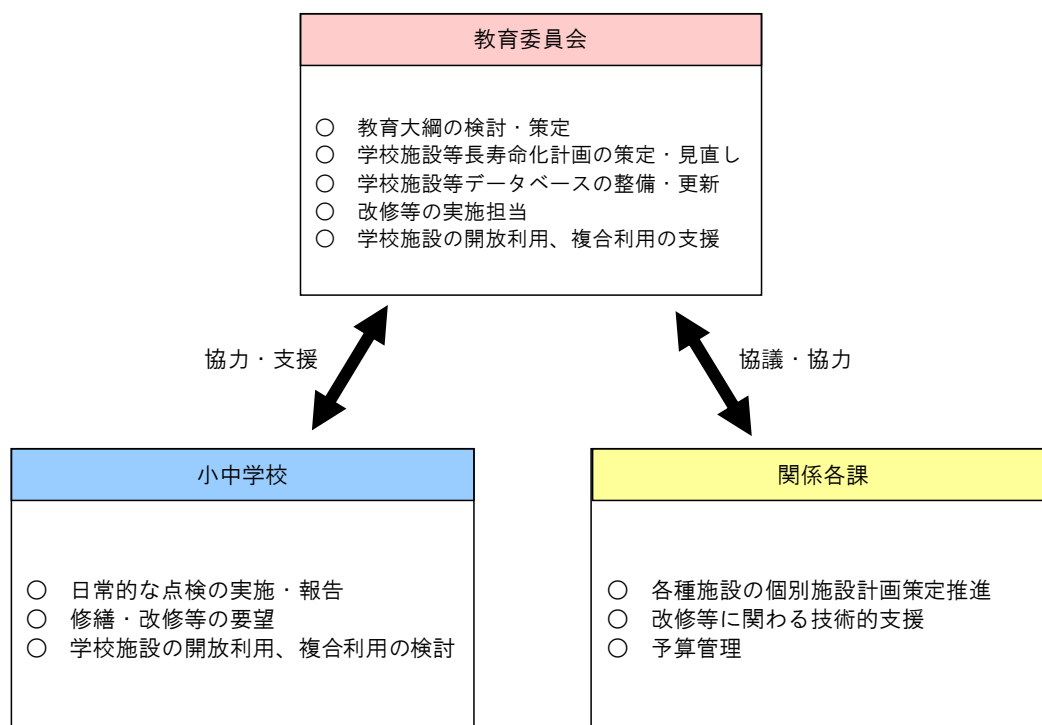
施設カルテの情報は、データベース化し、パソコン上で閲覧でき、情報の一元化、共有化、継続化を図れるようにし、職員の誰もが簡単に操作できる簡易マニュアルを作成します。

(3) データベースの活用

管理データベースは、今後の維持管理の効率化や最適化を図るとともに、改築や改修計画等の基礎的データとして、長期にわたり活用していきます。

2. 推進体制等の整備

本計画に基づいて、担当部署と各小中学校の関係者とが協力・連携を図りながら、必要な改修等を計画的・効率的・継続的に取り組んでいく必要があります。さらに、他の公共施設の長寿命化計画との関係や財政状況、改修の検討に必要な技術的支援など、関係各課と協議・協力しながら推進するための体制を構築し、庁内横断的な取り組みを行っていきます。

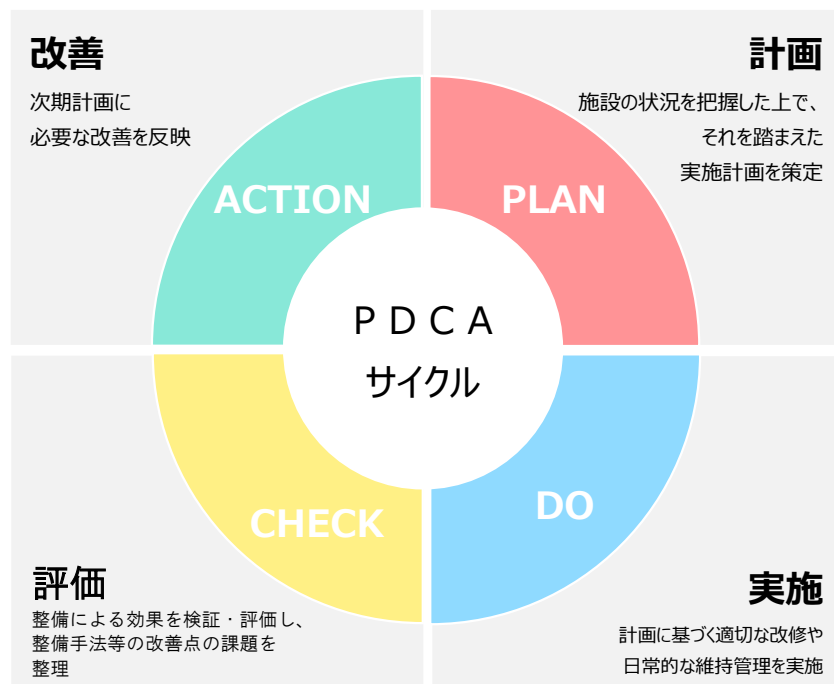


図：学校施設等長寿命化計画の推進体制

3. フォローアップ

効率的・効果的な施設整備を進めていくためには、本計画に基づき適切な改修や維持管理を行うだけでなく、常に施設の現状を把握し、問題点を検証・改善するとともに、計画の進捗状況や目標達成状況を正確に把握するというPDCAサイクルを確立し、的確にフォローアップをしていきます。

また、本計画は計画の進捗状況のフォローアップの結果や社会環境の変化等の状況を踏まえ、必要に応じ見直しを行うこととします。



図：PDCA サイクルイメージ